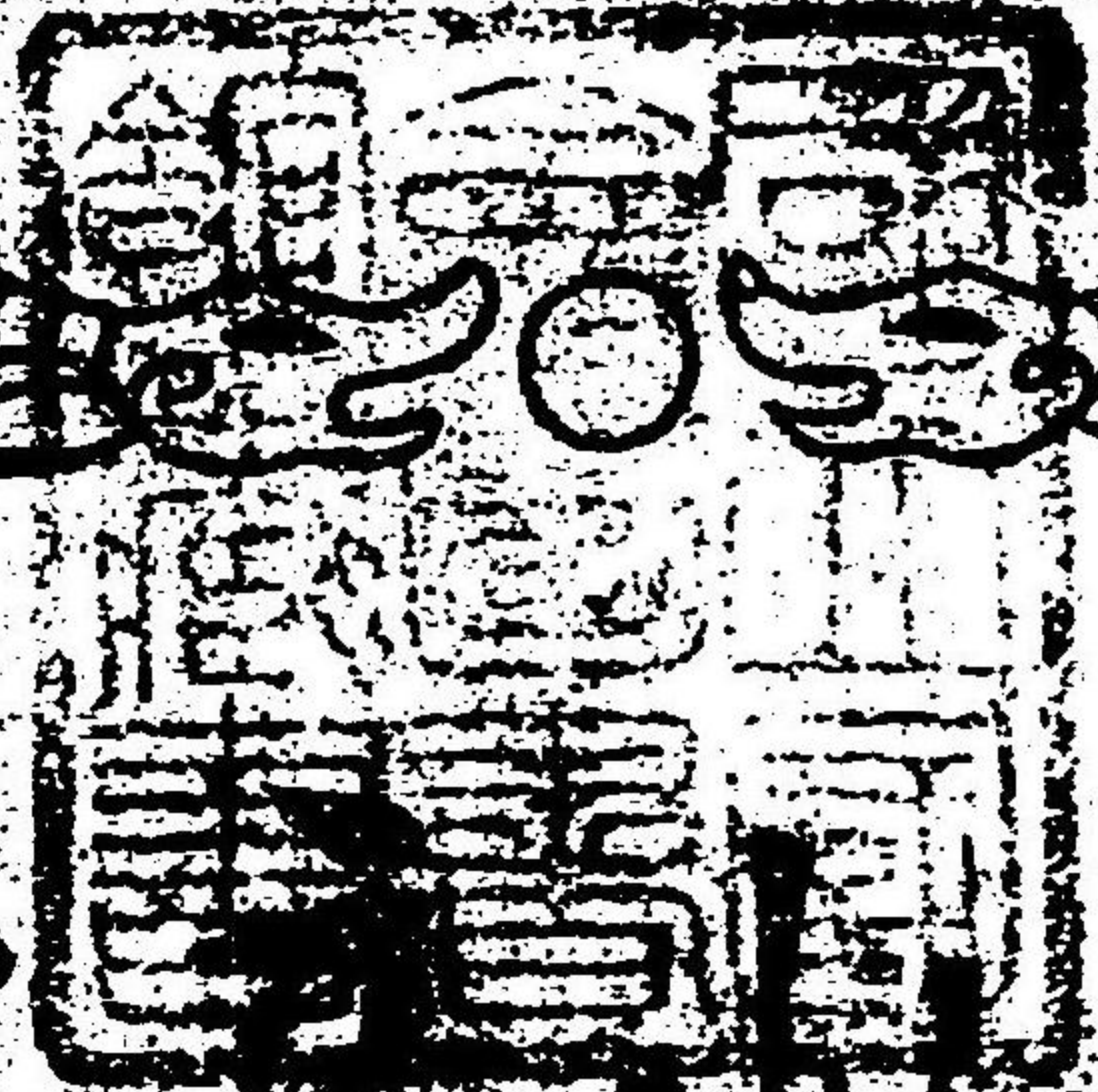


6021H296m

日本物産索引序

帝國大日本と云れ
 漢字候語候一
 子散る果豊録
 民器物を名
 尤精巧を
 パテントの法
 新規者の
 走まを獨り
 物産を
 學に
 方今小學
 此を



日本物産索引

国立国会

27.3.-4

圖書

261601

我邦を著し尤も多し
依て今彼之者其原
の一を記載し吾邦
附して解ふ程のもの
は畧おきし又國
画を挿入して其の
を免さんとするもの
を原産の者法按ふ
者一を例

橋本實一
輯録 日本物産字引

凡例

皇國の人民勉勵せし物
産尤も多し小冊子に枚舉
せる能はばと雖ども今其産
の土地の著しきものを輯
録し下篇は種時成熟の氣
候及び其品物の用を舉げ
られども皆其地に至らざる
日本風土記和漢三才圖會
國家萬葉集等を據りて
輯録せしものを其地
土に依て其時候を異し
品物に於て其形狀を異し

凡例

陶器	漆器	扇	人形	團扇	象牙細工	白箸	草履	針	白粉	紅	棕櫚席	松茸	甜瓜
清水焼と佳し、御室乾山深草等めれり清水及こい	府下各所より	五条寺町御影堂の製と佳し	府下各所より京人形ととも顔る精工あり	深草より産れ	寺町通の南北に職工あり	四条坊門の辺	栗田口の辺より製れ	三条みきやの製と佳し	府下各所より	小町紅と唱へ各所より	五条大仏辺より製れ	西北の山及び山科より産れ	東寺より産れ

菜	水菜	牛蒡	笋	蕪菜	蘿蔔	越瓜	茄子	乾瓜	絲瓜	林檎	柚	椎實	桃實
壬生より産し壬生菜とよ	東寺より産れ	八幡辺より出れ	山科より産る所佳し又醍醐八幡辺より産るもよき所あり	吉田、淀、伏見の辺より産れ	上よるわ	東河原臺の産と佳し	上よるわ	曇花院の名産	深草より産れ	大宮、嵯峨の辺より産れ	嵯峨及び水尾の辺より産れ	八瀬、大原より産れ	伏見より出れ、桃花殿の頃より産人多し

葡萄 ブドウ 大宮及び嵯峨の辺より産以

紫栗 ムラサキ 八瀬、鞍馬より産以

山椒 サンショ 朝倉山椒と異、朝倉より産まると佳し又山椒の皮の鞍馬より産也

楊梅 ヤマイ 暖瀬辺より産以

慈姑 クワチ 鳥羽より出る

轉材 マシ 宇治より出つ

豆腐 トウフ 祇園、丸山より製まると佳し

黒木 クロギ 八瀬、大原、鞍馬より産以



炭 ス 上三つ

硫黄木 イワウ 伏見墨漆の辺より出以

藍 アイ 九条より産以

鯉 コイ 淀川の名産なり

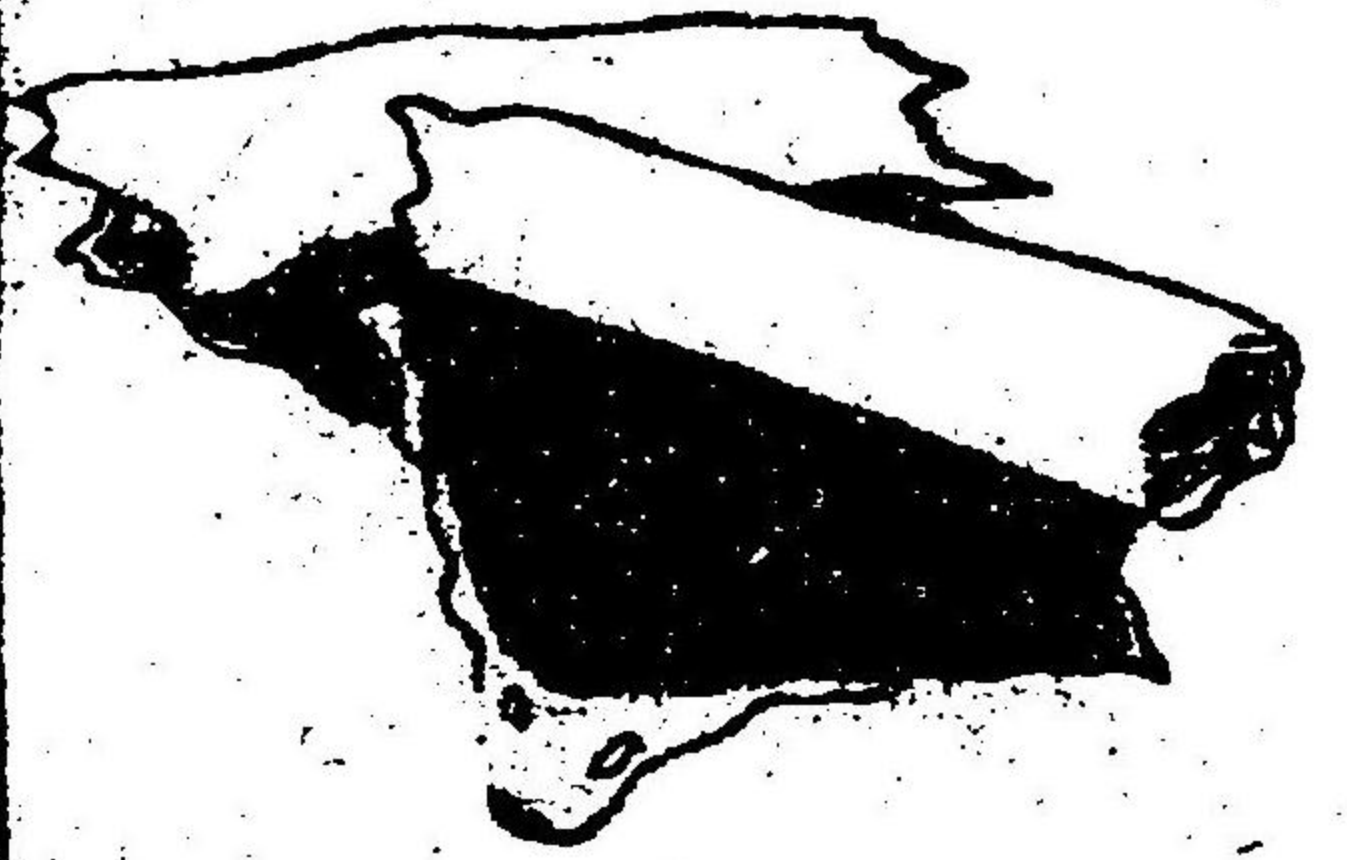
鱒 マス 桂川及び八瀬の川より産以

川鱸 カハ 宇治、伏見より産以

川鱒 カハ 大井川の産と尤佳と云

金銀箔 キンギョ 室町五条の南北より製せ

昔溜皮 ヒク 八幡山の下より製以



白川石 シラカハ 白川山より出る白石、石炭、頗る堅く、石垣、石橋等に造る

即ち花時石なり

砥石 鳴滝より産出せる砥石と出づ。萩原より産出せる砥石と出づ。

燧石 舞山より出づ。アネコロと云ふ。稲荷山より出づ。鉛石と云ふ。

石炭 相模郡の田山村より出づ。

刃土 猪背山より出づ。佳し。

大和 十五郡

曝布 奈良より産出。

油煙墨 奈良春日の燈籠より油煙と云ふ。製し。

團扇 奈良國扇と云ふ。奈良の名産なり。

合羽 竜田より産出。紙の覆たなり。

漆 吉野より産出。

紙 宇田郡より産出。宇田郡紙と云ふ。吉野郡より産出。杉原紙と云ふ。

紙と稱し又吉野紙と唱ふ

線綿 郡山より産出。佳し。

酒 霰酒と稱し。奈良より産出。又三輪の辺は酒造家多し。我國酒と造りし。トウモロコシの三輪の里よりと云ふ。

索麵 三輪及び小泉の辺より製し。

葛粉 吉野葛粉と唱ふ。吉野より産出。其色雪の如く白く。我國の葛粉の地より産出。第一と云ふ。

煙草 吉野より産出。

人形 奈良人形と稱し。細工頗る妙なり。

薯蕷 宇陀郡より出づ。

銀杏 奈良より産出。奈良の興福寺より出。最も佳し。

鱒 各地より出づ。吉野川の産。家々佳し。

藥種 吉野郡の山間より産出。物多し。

杉丸太 大津川より出づ。其運送の舟人。これと頭蓋を各地へ持出。云々

大和

鹿 シカ
春日神社の辺土人鹿を神使と称して尊敬せ故まよく人は狎る



獼猴 サル
吉野、十津川の間多し

銀 ギン
吉野郡より出ル

銅 ドウ
上と同ト

磁石 シセキ

磨沙 カキ

河内 十六郡

木綿 モメ
久米の辺より産せると佳と河内木綿と称して頗る丈夫なり

干飯 カンイ
道明寺の比立尼これと製せ故り一は道明寺と云

煙草 タバコ
大野関辺より産せ和泉より新田烟草と称ふまとも実此地より産せり多し

香物 カウモノ
守口漬と称へ蘿蔔とつけるとりめなり

金剛石 コウカクシ
金剛山の麓より産れ玉ふこれと用ひて玉と鑽るなり

炭 ス
光の滝の辺より出れ多し

葡萄 ブドウ
富田林の辺多し

蓮藕 レンコウ
狭山の池より出ア

白炭 シロス
横山より出ア

鉛 シロメ
平野鉛と云ひて平野より産れ

木薬子 モクヤクシ
道明寺よりりあまを以て数珠と作る

干瓢 カンベウ
木の本より産れ

楊梅 ヤマイ
石川郡多し

柿 カキ
錦部郡より産ル



銅 ドウ
石川郡平石村より産ル

石炭 セキタン
上ノカキト

水晶 スイセイ

磁石 ヂセキ

滑石 クワツキ

石膏 ヒヤコウ

和泉 ワヅ
四郡

雞卵紙 トリノカマ
阿間川より産ル

櫛 クシ
近村より製ス

庖丁物 ホウテイモノ
堺の市中より

鐵砲 テツポ
我國鉄砲を製ス此地は始ル

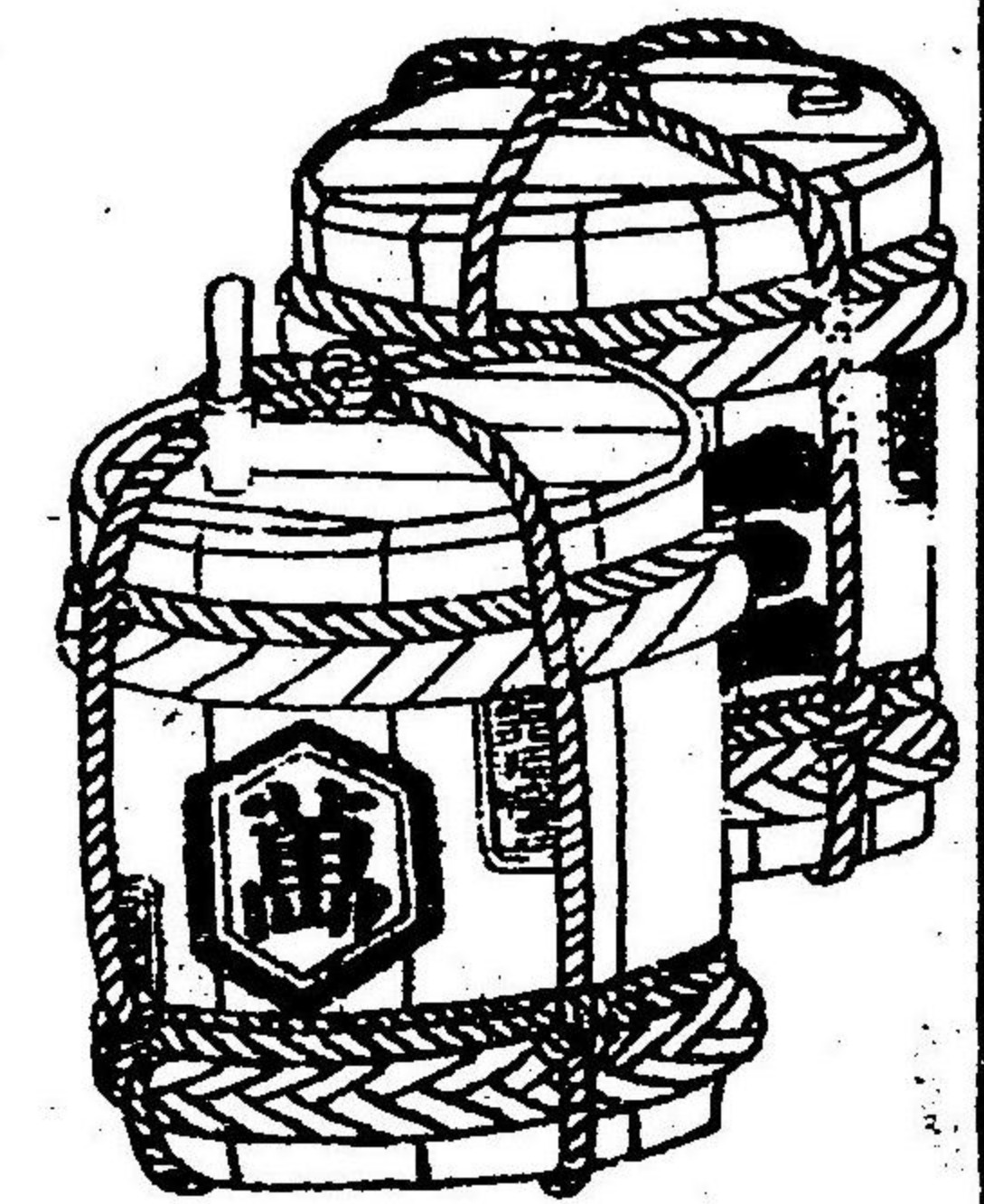
白粉 シロコ
堺の市中西より製ル

壺 ツボ
蜂田より製ル

麥粉 ムギコ
貝塚より産ル

酒 サケ
堺の市中より造ル其の上品は知ら
されども池田伊丹等々も有リ

醬油 カウ
堺より産ル



油 アブラ
上ノ同ト

26160

線香 上はかき

花鹽 津田より製し出し

瓜 船の松より産り

小豆 日根野小豆と称へ日根野より産り
多と上品といふ

煮魚 堺より製し味最も美なり多く
大坂へ出り

鰯 岡田と称へ他産も勝る

鯛 浦々々々海を根州の鯛と並ひ賞
せり

金魚 堺の辺より出り

蛤 浦より産り

翡翠石 石質堅く白并その他諸器類と
製出り

蕃薯 各地より出り

松茸 上はかき

攝津

十二郡

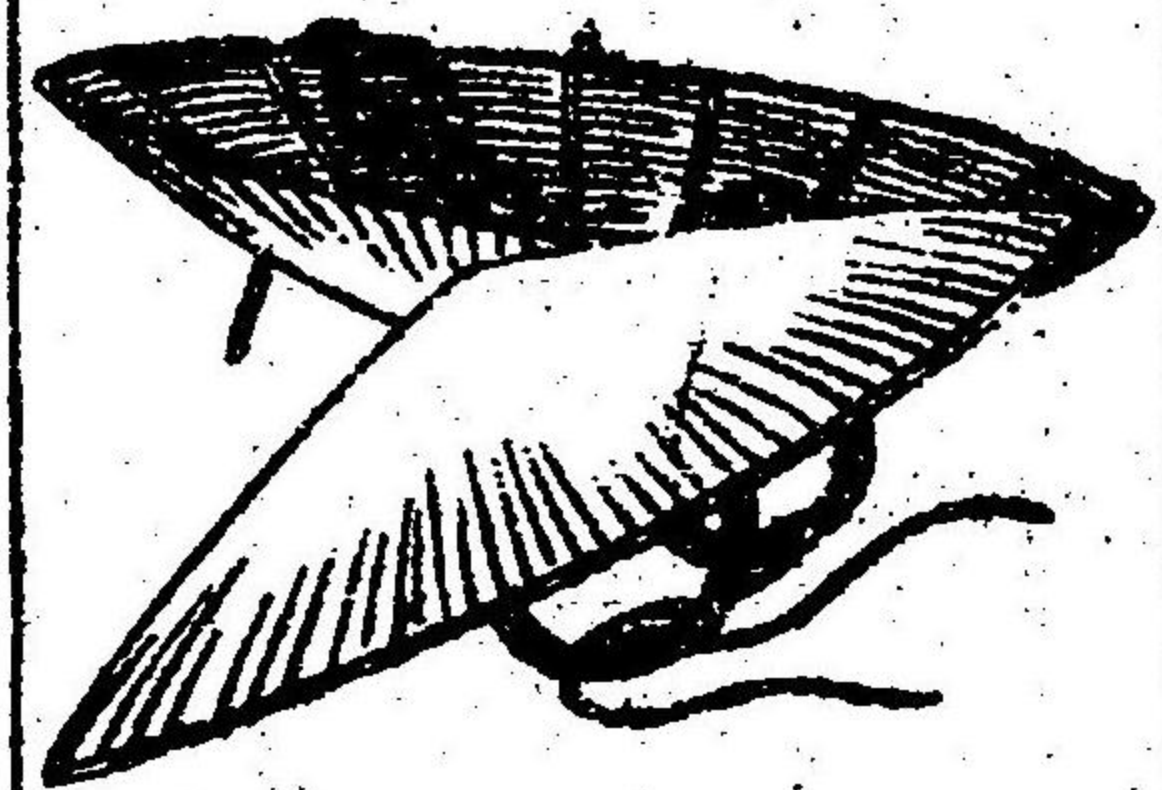
木綿 各所より

芭蕉布 難波橋筋より製し

人形 御堂前より製し張り物なり

蔵繩 西横瀬より製し

菅笠 玉造平野口より製し



紙子 淡路町より製し

土細工 上はかき

焼物 上はかき

煙管 四橋及心存より製し

本郷人形 住吉街道の名産なり

嶋木綿 天満より産む

傘 長町より製む

切炭 池田炭と称し一倉より産む多

鍋釜 道頓堀より製む

酒 伊丹池田より製むを第一品
とし久其他西の宮兵庫小豆山

製す我酒の酒
大坂と第一なり

燈油 住吉より産む

酢 千歳酢と称し兵庫より産む
と第一なり

饅頭 大坂市中各所あり

饅頭 高麗橋船屋の名産なり

蕎麥 道頓堀より製む

干瓢 本陣今宮の邊より産む

西瓜 高尾市本陣より産む



昆布 住吉より産む 鳴子 昆布より産む

白瓜 玉造より産む

胡蘿蔔 難波村より産む

蕪 天王寺蕪と稱し天王寺の邊より
出む

徹屋葱 吹田より出む

蘿蔔 都倉掾橋より産む

鯛 茅渚鯛と稱し西の宮の沖より
産むと佳品なり

沙魚 天保山の下より産む

望潮魚 浦々より産む

鳥貝 尼ヶ崎より出む

干鰯

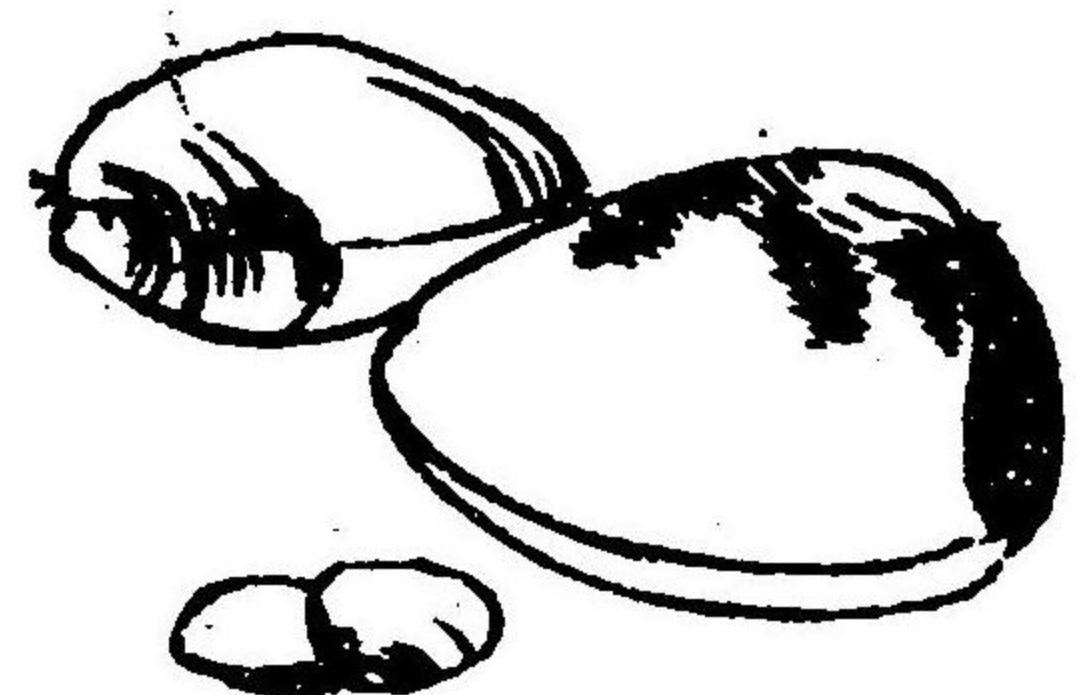
浦ノ子ノ製也

鰻

川ノ子ノ産以味甚と美なり

蛤

天保山ノ辺ノ子ノ出也



蜆

上ノ子ノ製也

團扇

長町ノ子ノ多く製也

香附子

住吉ノ子ノ出也

銅

河野ノ八郎有馬能登藩領ノ子ノ産也

御影石

御影山ノ子ノ出也即ち花崗石ノ子ノ石質極其堅一

東海道

伊賀

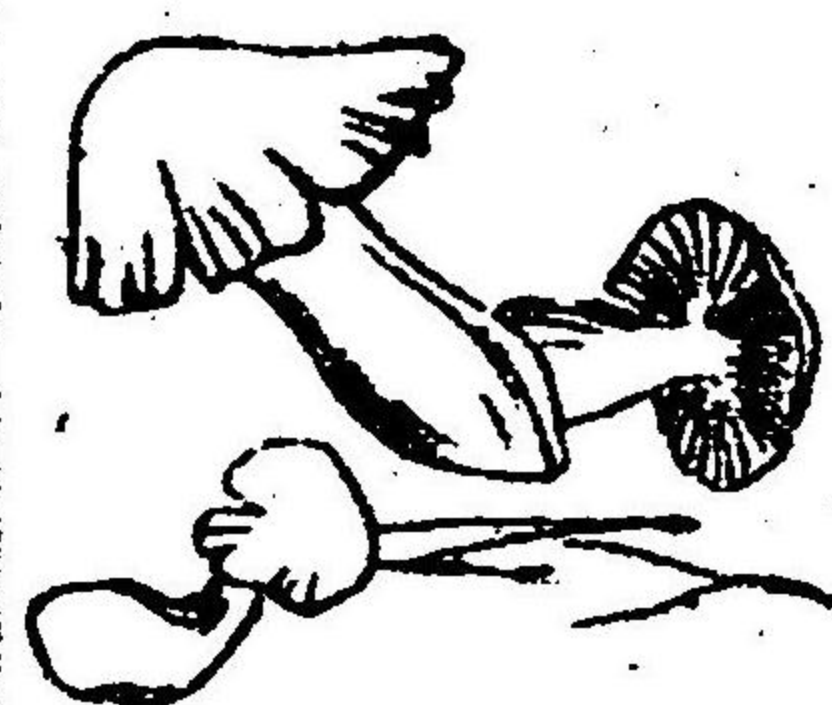
四郡

陶器

伊賀焼と称へ頗る古雅なり

松茸

各地ノ子ノ産也



烟草

上ノ子ノ製也

石炭

未詳

硫黄

上ノ子ノ製也

磨沙

上ノ子ノ製也

砥石

上ノ子ノ製也

燧石

上ノ子ノ製也

伊勢

十三郡

鯨子

津鉄子と称へ津より産り

綿

各地より産り

木綿編

松坂木綿と云ふ

紬

上よふを云ふ

櫛

伊勢櫛と称へ山田より作る

鯨尺

今河より製り

茶

丹生より産り

陶器

萬古焼と称へ其製他日異す

白粉

新加波にて製り

漆物摸

白丁にて作る

菅笠

有官より産り

草履

岡山の名産なり

烟草入

合羽の烟草入なり稲木より産り

塗箸

松坂より産り

蛤蜊

衆名より産り時雨蛤と称へ時雨降る頃其味最も美なり

真珠

處々海濱より出づ

鰻

上よふを云ふ

牡蠣

上よふを云ふ

青苔

馬瀬辺より出づると佳し

伊勢鯨

即ち紅鯨なり伊勢の海より産り相模より鎌倉鯨と云ふ



防風

二見

車渠貝

上よふを云ふ

海羅 西崎より出づ

和布 上より出づ

海帶 上より出づ

推茸 川俣谷より産り

串柿 上より出づ

銅 員辨郡の治田より産り

水銀 丹生より出づ

石炭 員辨郡の白木村より出づ

志摩 二郡

鹿角菜 處々海濱より出づ

海帶 上より出づ

梨實 麻生浦より出づ

五色砂 島羽の海岸より出づ 盆石と稱す

鱈 全所より多く出づ

鹽鯨 全所より多く製り

天然碁石 全所より出づ

銅山 島羽の赤崎より出づ

尾張 八郡

綿 各地より産り

結城棧留 名古屋より織り出づ

有松絞 一は鳴海絞といひ専ら浴衣地と製す

蒔扇 名古屋扇といふは名古屋より産り 其製頗る精ニキリ

常滑焼 常滑より製出づ 陶器あり

陶器 瀬戸焼といふは瀬戸より製す 東京へ出づ 故に東京人の多く

陶器を呼んで
瀬戸物といふ

七寶燒 名古屋より製し

鑄 南方鎮と称す

小刀 清洲の辺り鍛冶多く製し

赤味噌 名古屋の名産なり

藻魚 上は今下

蘿蔔 官渡大根と称し官茂村より産す
又今下又木曾より産す
味大にして且つ長く
味味も美なり



干鰯 木曾より産し

蜜柑 各地より産す

酒 各地より製す振州より及ぶれり
亦佳なり

藍玉 各地より製す

鐵沙 春日丹羽両郡より産し

砥石 上は多からず

水晶 出所未詳

眞珠 伊勢より下品なり

瑪瑙 上は多からず

三河 八郡

綿 各地より出り

木綿 東海道の中木綿を製する此國
と最も多し

酒 各地より製し

味噌 三州味噌と稱し好事家最も
賞美し

生糸 各地より製す

海鼠腸 佐久島より製す酒客これ
を賞す

温鈍 芋川温鈍と称へ海道一の温
鈍の名産なり

煙艸 各地より産し

白魚 外屋の名産なり



串柿 各地より産し

干姜 上よ今ト

雲母 吉郎山より出づ

砥石 名倉より出づ名倉砥といふ

基石 伊羅湖海辺より出づ

御影石 三州御影と称へ石質極州
御影及び山城の白川石は比

それの数を多く横濱
及び東京へいふなり

遠江 十二郡

葛布 掛川より産出し

塗物 濱松より製す

木綿 各所より産し

琉球表 疊の表より出所未詳

茜根 国領より出し

蜜柑 濱松の名産なり

筍 久野村より産し太くは美
味なり

納豆 濱松納豆と称へ濱松より産し

飴 菊川飴と称へ菊川村より製し

ト治 横須賀山より産し

干姜 目領より出づ

紫根 上ノ全ト

松茸 小笠山より出づ

蕨餅 日坂の名産なり

柑子 白羽村より産れるハ実大なり

椎茸 石打村より産す

海苔 佐良の海辺より出づ

和布 上ノ全ト

鰹節 海岸野より製し

鮒 気賀の名産なり

鰻 荒井の名産なり



白羽柑子 掛川より五里ほど南なり
白羽村より出づ

金 出所未詳

紫石 上ノ全ト

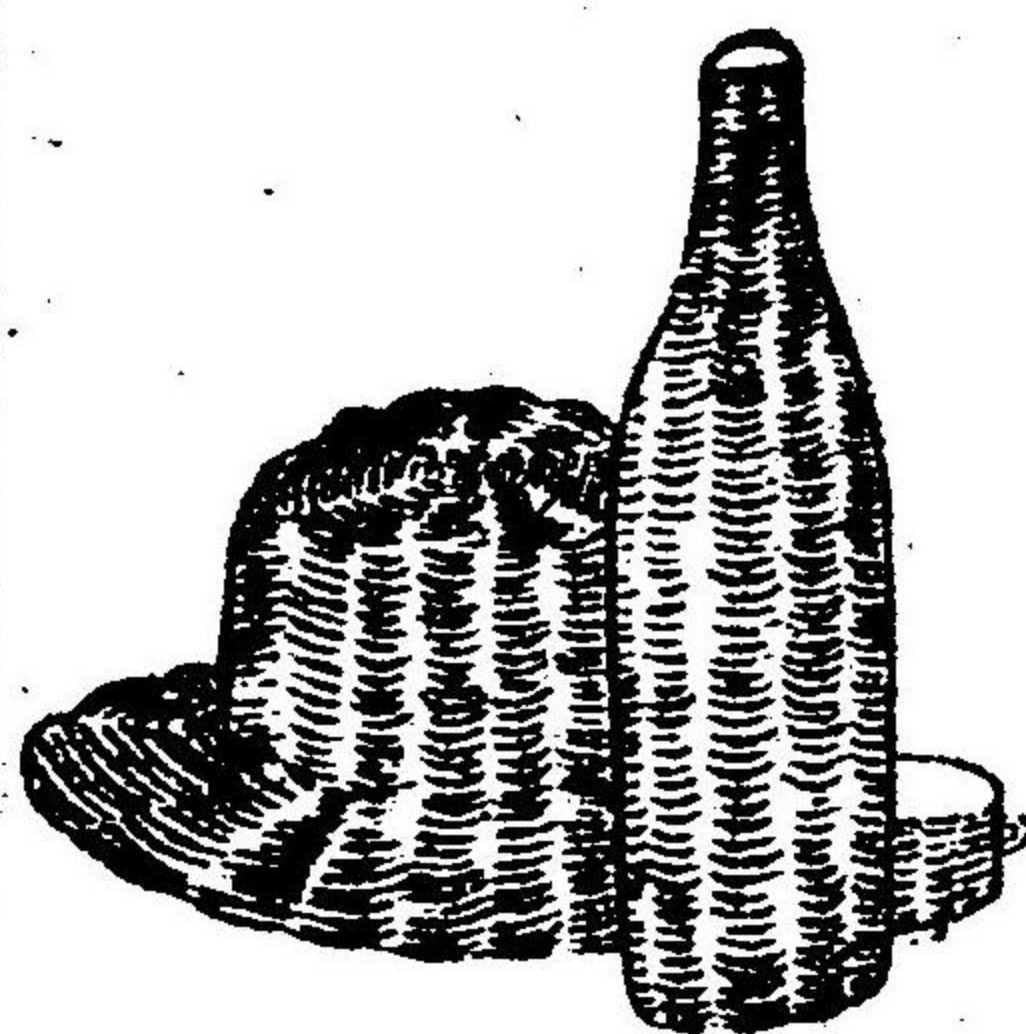
葡萄酒 上ノ全ト

水田 上ノ全ト

駿河 七郡

茶 安倍茶と称へ安倍郡の菅久保より産るを佳し

駿河細工 竹又の木より諸箱類及び笠
オと静母の町より製し



紙子 戦後紙子と名付け安倍川辺より産出

半紙 駿河半命と称へ産原郡より産出多し

酢 善徳寺より出ると風味最も美なり

漆器 静岡の町々より製出

蜜柑 久能より出づ

菓 大井川原よりあり

椎茸 沼津の近傍より産出多し

松露 三保の松原より出づ

松茸 静岡の近傍より多し

甜瓜 上今

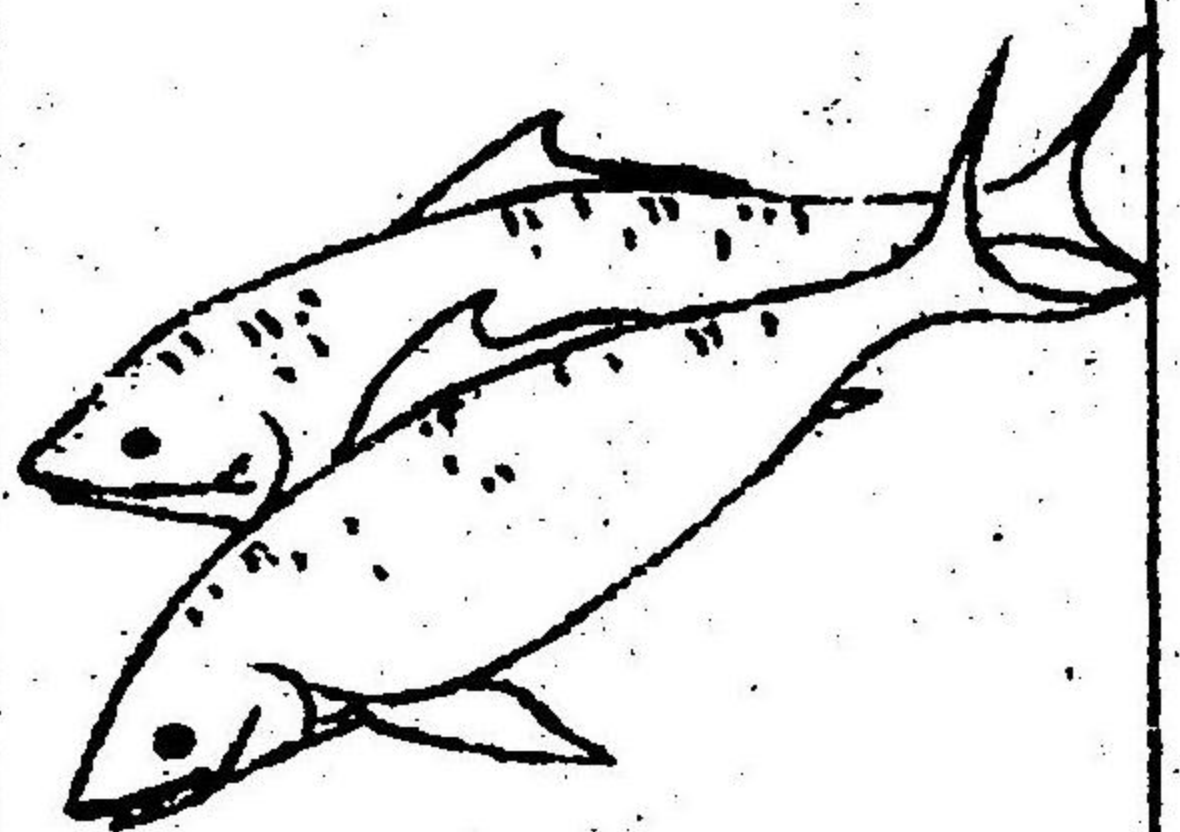
蕨 朝比奈より出づ

不二苔 西々谷川よりあり

シラス干 江尻の海濱より多し

鯨 蒲原の近傍より多し

鯛 沖津鯛と稱へ他は異なり、俗に鱈と不二の形あり、大小色々海面より獲る



藍蔵 処々海面より獲る

野駒 不二山の麓に牧場あり

十團子 うつりやの名産あり

丸子石 丸子より出る

金 安倍郡の日影沢村よりあり

砂金 同郡の白木村よりあり

盆山石 丸子よりあり

硯石 岩淵の名産あり

甲斐

四郡

生絲

郡内処々より製り

絹

郡内より作り出れられを郡内
細し

紙

甲州紙と稱へ郡内より産り

海氣絹

山梨郡より産る多し

材木

処々の山中より出づ

葡萄

処々より産るれども岩崎と津
一



林檎

処々より産り

小梅

上り今下

搗栗

上り今下

柿

大和柿と稱へ実大なり柿柿
しく四方へ出れ味最も美なり

梨

山梨郡多し

胡桃

処々あり然る此国は果実多
し故に一説に甲斐の斐の字は木

の實をり木の實天下は甲斐に多し

駒

古くは巨戸郡処々は牧場は
て良馬を産りし

甘州

処々山間あり

黄連

上り今下

金

巨戸郡の保村及び黒川村に
あり

砂金

保川早川雨畑川にあり

石炭

都留郡の八ッ沢村にあり

硯石

雨畑より出づ石質極めて佳なり
多く東京へ輸出

題目石

生沢川より出づ

水晶

巨戸郡より出づ

伊豆

四郡

八丈紬

八丈島より産し

酒

江川酒と称し味佳き

雁皮紙

加茂郡処より産し

葛粉

天城山の近傍より製出し

材木

諸山より代り出し

薪

天城山より出さず

炭

上り今ト

山葵

上り今ト



黄楊

処々山中より出し

鯛

河、海濱及び島々より産し

榮螺

上り今ト

鮑

上り今ト

鯉節

上り今ト

紫胡

河々山中より

釣藤

上り今ト

切石

伊豆市森へ加茂郡より出さる産物
もも、末屋建業、用ス

竹

箱根より出る

硫黄

天城山より出つ

金

加茂郡の毛倉村より

椿油

島々より産し島々の産物甚多
もも、詳しふれ、録せん

相模

九郡

伊豆相模

七

箱根細工 箱根より製する木細工なり

貝細工 鎌倉江の島より製す小丸の
玩物なり

竹 箱根竹と称し細くして諸器を製す

梅干 小田原の名産なり

塩辛 上り全下

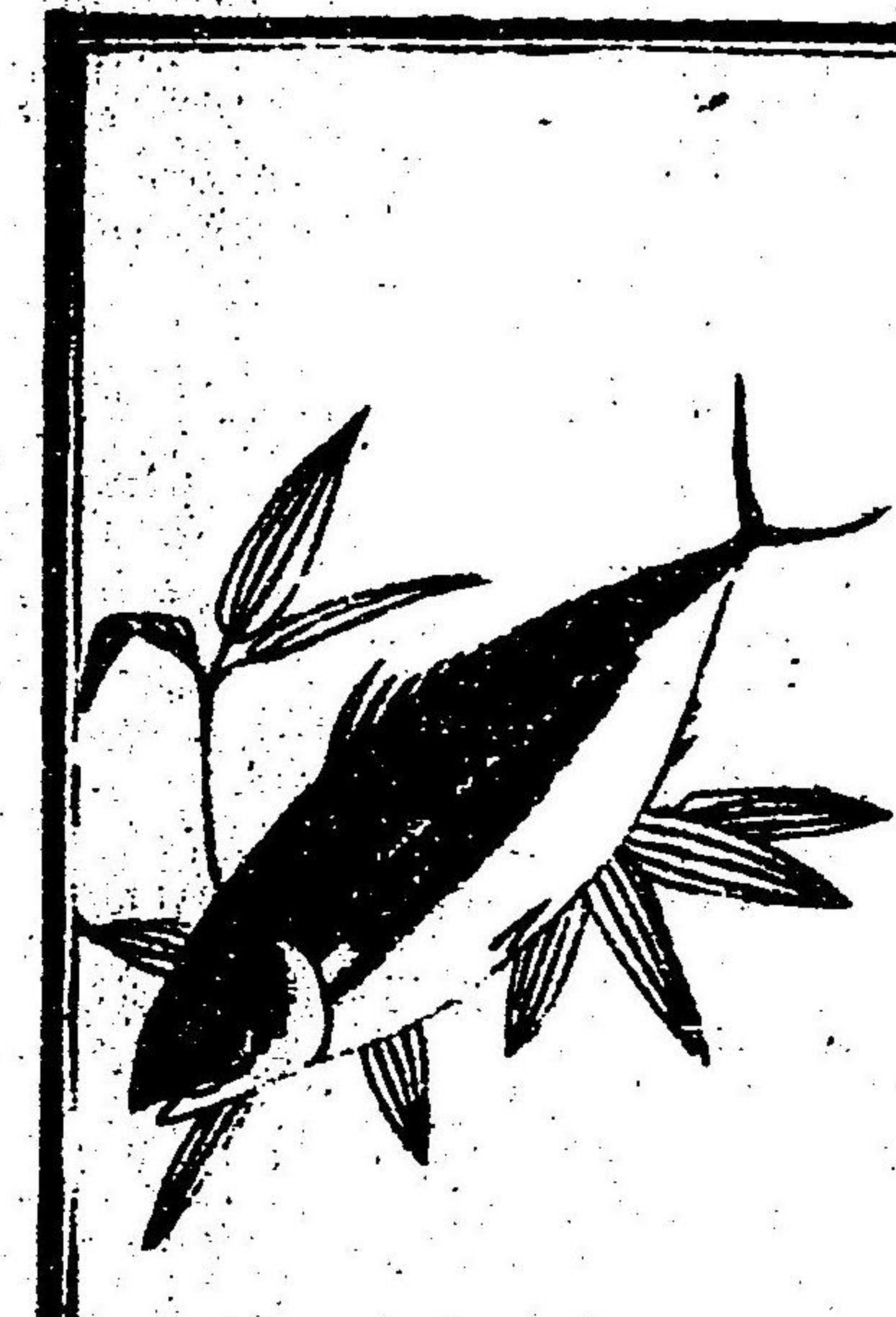
水飴 浦賀の名産なり

薪 鎌倉山及び丹波山中より出づ

炭 上り全下

山椒魚 箱根の湖水より出づ

鱧 鎌倉の海産なり



蝦 世々鎌倉海老より製す

華臍魚 処々海面より漁す

鯛 上り全下

烏賊魚 上り全下

海豚 上り全下

鰻 河々海濱より出づ

外郎 小田原の名産なり

紫胡 鎌倉より出づ

盆山石 大いそより出づ

秦野根 秦野より野原より自然に生ず

紅花 鎌倉より出づ

星降梅 十間坂より出づ

鼠大根 鎌倉より出づ

江豚 江の島より出づ

海雀 小田原浦より出る

根府川石 根府川より出る石にて磨石及
ひしき石に用ひる

製鉄 横濱製鉄所ありて大形の鉄
具と製出

武藏 廿二郡

絹 秩父郡より織り出

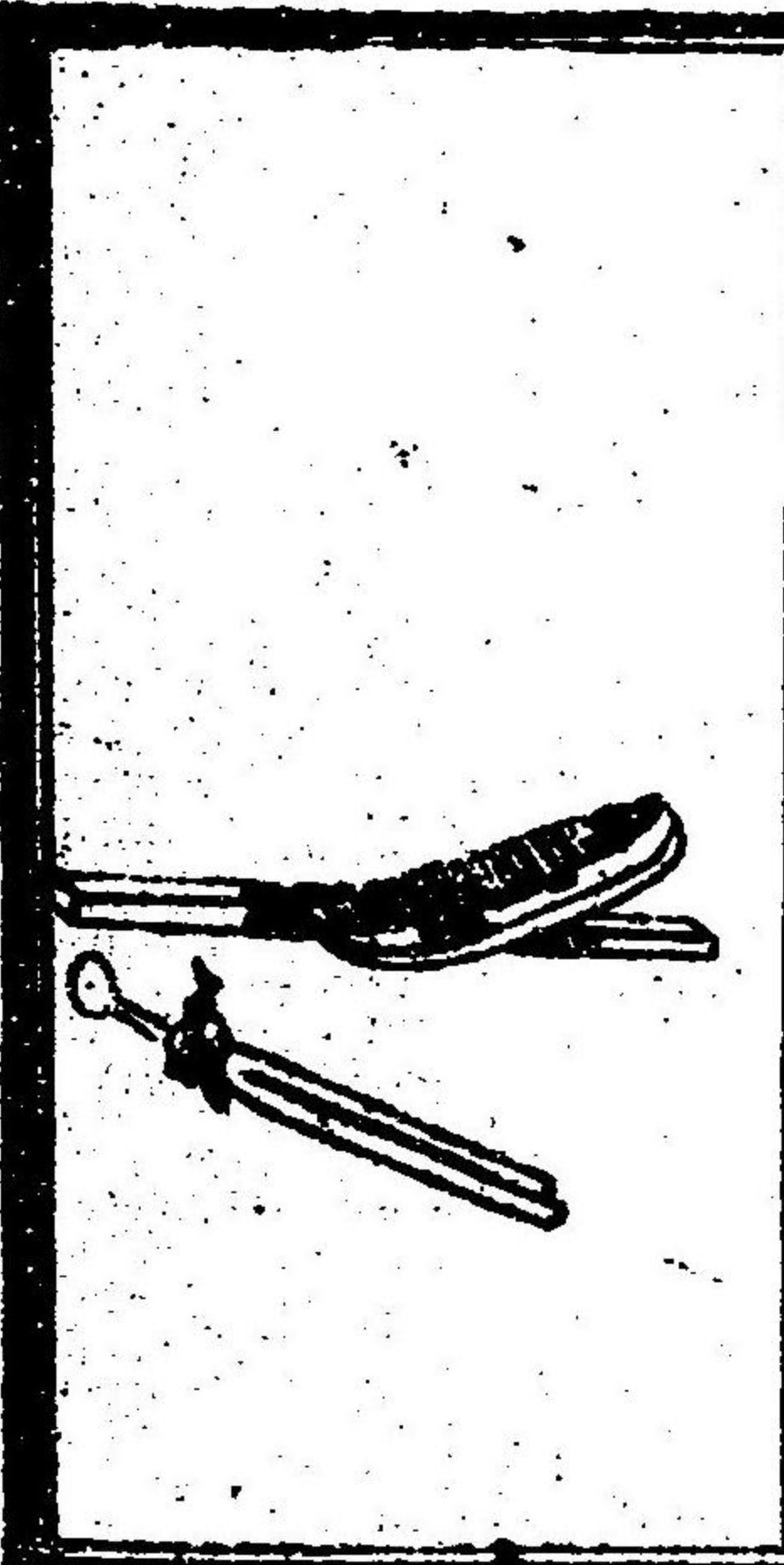
諸織物 八王子足子織り最に多

綿 青梅綿く唱へ青梅より産

漆器 東京町々より製

象牙細工 上は全ト

蠶甲細工 上は全ト



玉細工 上は全ト

團扇 上は全ト

煙草入 上は全ト

縫箔 ヒヨウチ

紫漆 上は全ト

煉化石 今戸橋場小梅ホも製

履 西洋形の履と製する近來多
多

錦繪 東京町々より製



時繪 上は全ト

和唐紙 玉川より製する玉川唐紙

西諸物品 横濱及び東京町々より

烟草 秩父郡より産する多し

鑄物 川口及び深川より出り

川越平 川越より産する織物にして袴地なり

烟草 東京町々より

海苔 古時浅神田より製す 故に浅草海苔と称されども今ハ品川大森より製する多し

葱 岩槻葱と称し岩槻より産す短くして白根多し

蘿蔔 練馬より出るを佳し

梨 大森田より出る味は殊に美なり

桃 河々はれれど越ヶ谷田より多し

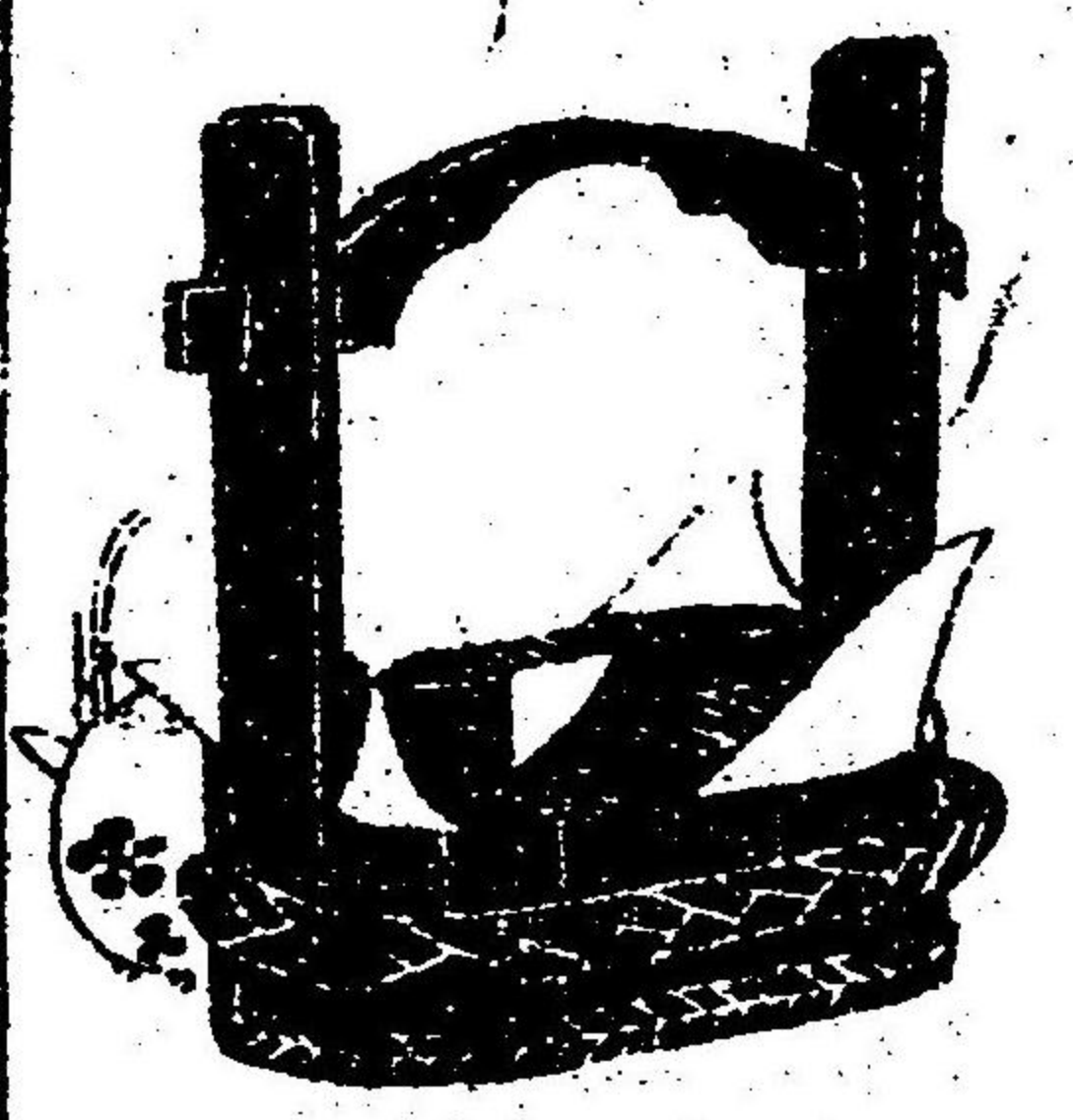
甜瓜 馬子瓜と称し中野田より多し出づ

漬菜 三河島より産するを佳し

鱒 玉川より産す

鯉 利根川及び隅田川より出る味美なり

鰻 隅田川の下流より出るを江戸前と称し味美なり



牡蠣 横濱野毛より出る其味甚だ美なり

白魚 佃島田より多し

鰕 芝鰕と称し芝浦より産す

蜆 川口を以て最上と云

海鼠 金川より多し

素麩 久我より製するを佳し

銀 秩父郡の中津川村より出る

銅 上ノ目ト

石炭

熊谷辺より出さる

石炭

八王子より製するのて上品と云

安房

四郡

魚油

浦々より絞る

鱒ノ糟

浦々より製此国海岸多、漢業最も成す

牛酪

峰野辺より製、古来牧牛場ありて牛と産する多、然も其肉味奥州より及ぶと云

心太艸

水仙

寒々より

水仙

地気暖くして寒中花開く海岸、岸巖石の間より



牡蠣

東海岸より多

浪子

現に似る貝より食用と云

海苔

小湊より出る

公苔

合西より製

石

房州石と稱へ石質軟くされ、建築用と云、故に多く東京へ出

磨沙

房州沙と唱へ、磨石と云、和名と云

上總

九郡

茶

東金辺より多く産出す

紅花

長南より産する上品と云

樽材

市原郡より多く産し、味美なり

鯉

大多喜川より産

鮑

東濱より出つ、極りて大なり

安房上總

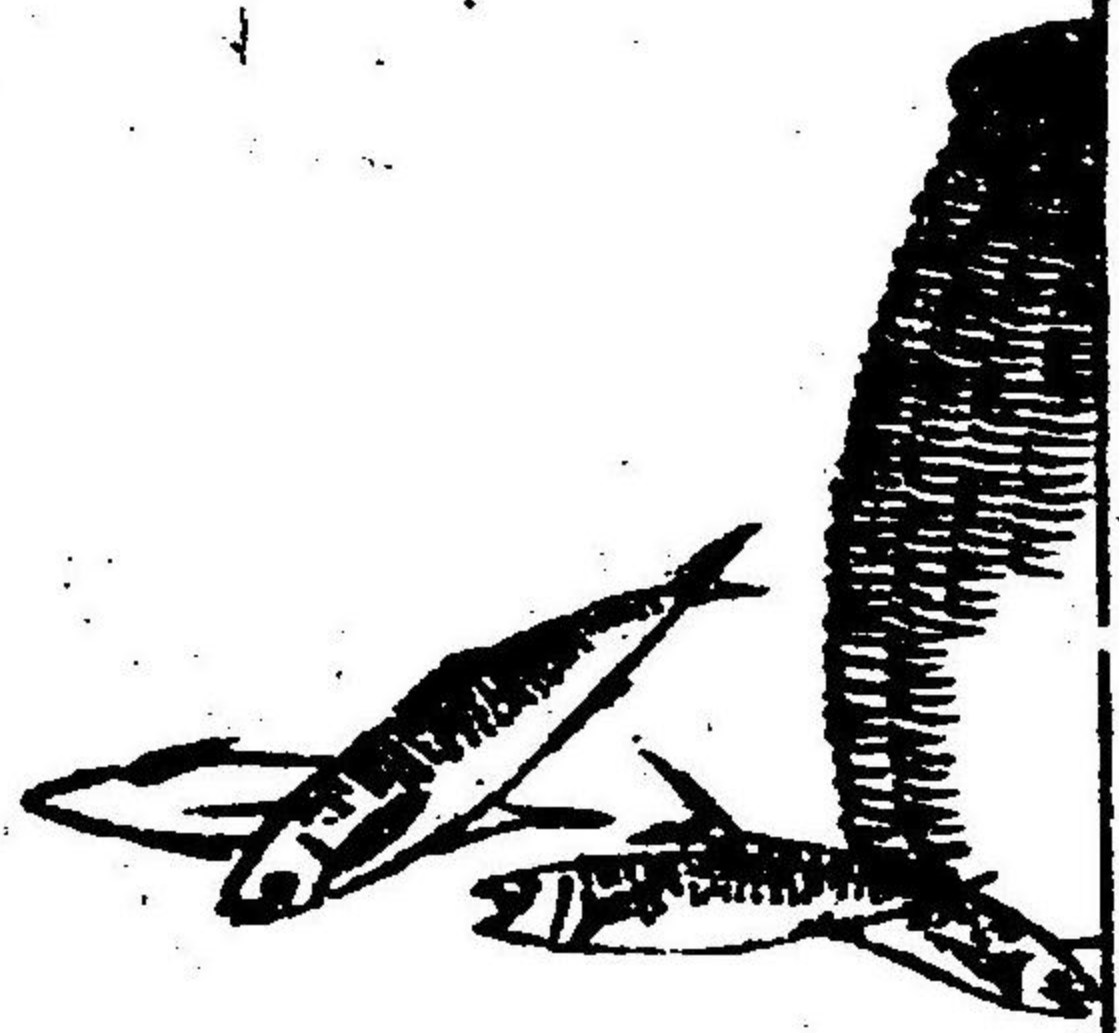
廿一

蛤 九十九里より産するハ珠王大ニ
味佳なり

鰯ノ糟 東濱より産す

干鰯 上はかきト

鰯 上はかきト



魚油 上はかきト

雞 河内村々雞と書す多し東京及公
横濱へ輸出す又雞卵を産す也

下總 十一郡

細 結城越前林へ結城より産す

茶 佐倉通より産する多し

味淋酒 流山の名産なり

海苔 若西より出づ近來淺草海苔と
價を同よム

栗 三度栗と書し一歳三度実と書す
小金原ニ多し



葛粉 佐倉より産し又中山葛粉や
赤へ中山より産す

甜瓜 処々村々ニあり

西瓜 上はかきト

炭 佐倉炭と稱し佳品なり東京
へ輸出する勝り

鮒 印旛沼より産す

鰻 上はかきト

雁 上はかきト

鴨

上三ノ島

鮭

利根川より産ル

泥炭

後見川の上より出づ土人泥炭と
あつ火を燃して糞くのみ

塩

行徳塩と稱へ行徳高谷妙興ニ
又の浦々とも製ル

鉦子縮

鉦子より織り出ル

常陸

十一郡

大方紙

佐竹より出ル

小杉原

上三ノ島

彩雲紙

上三ノ島

生糸

国中所々とも製ル

茶

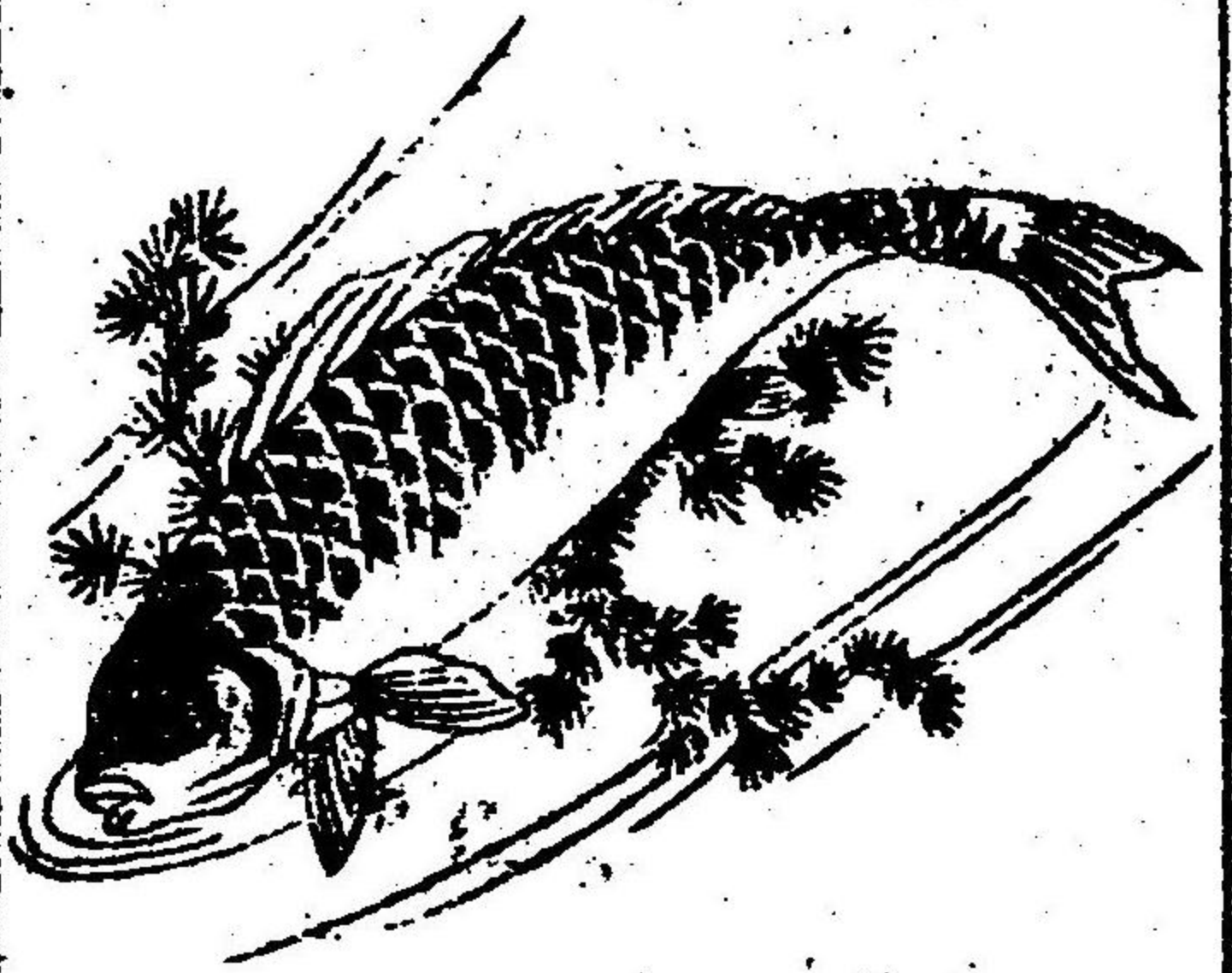
各地より産ル

烟草

上三ノ島

鯉

美和田の名産なり



鮒

霞浦及び牛久沼より産ル

浮龜

水戸より出るといへる亀の類なり
食用とせむ所の方なり

石炭

多賀郡の松野及び那珂郡の小豆
畑山より産ル

砥石

苗山より出づ

碁石

出所詳し不明

銅器

水戸々々製ル

漆器

上三ノ島

東海道

近江

十二郡

米

近江米一称へ最上品

大豆

大豆一称へ各所又産

小豆

大納言と呼び粒大なり又各地より産

絹

長濱地より産多

晒布

野洲晒布一称へ野洲より出

蚊帳

高宮より産

麻布

上ノ全ト

畳縁

上ノ全ト

陶器

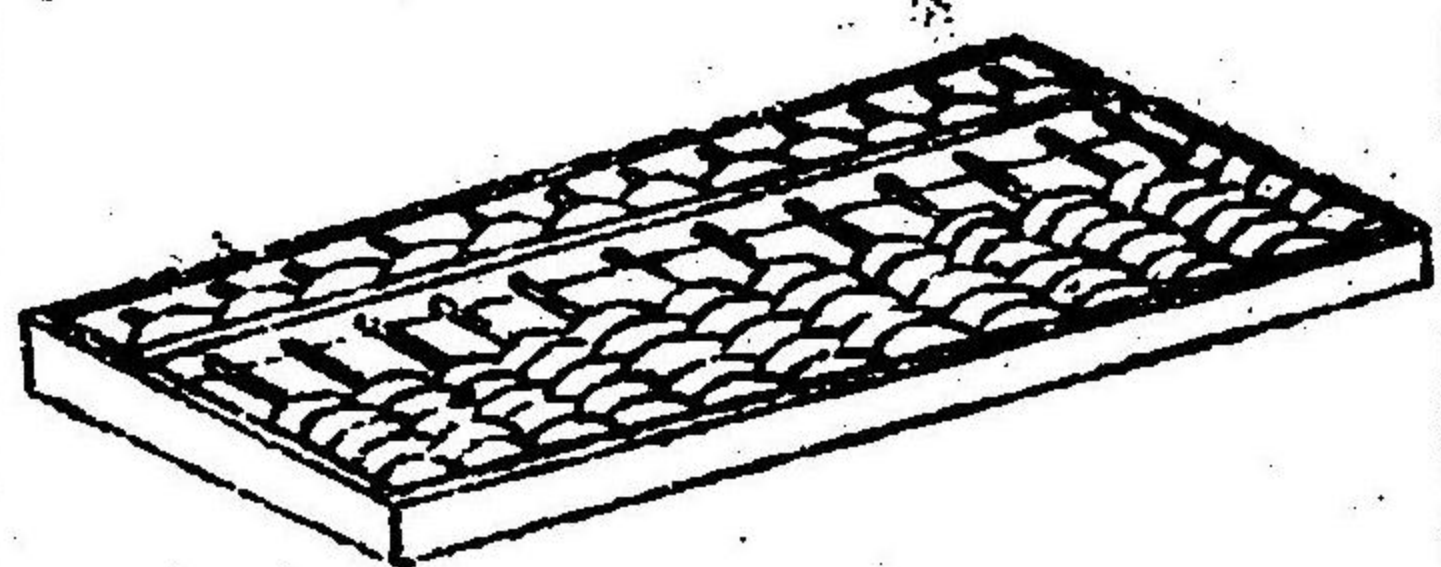
信楽焼一信楽山の麓より製

竹鞭

草津森山より出

算盤

大津の名産



針

追分より出

椀

日野より出づ世ノ日野椀と云

笠

水口の名産

漆盆

朽木より製

鳥子紙

小山より出

鍋釜

辻村より製

藤行李

水口より産

烟管

上ノ全ト

圓座

八幡より製

升 武佐より製り

墨 上ノ今ト

温鈍 日野より製り

納豆 観音寺納豆と称へ観音より出り

苧安 カリヤス草がやう似たる草より黄の漆物に用ひ各地に産り

青花紙 露草の花の汁をまきつけて漆を紙に染み各地に産り

柳厚板 桂川より出づるれよく組板をなと作る

艾 伊吹山より産り諸国へ出り

スク藻 栗本より出づる中よある埋木として薪の代り用や

蘿蔔 志賀山中の名産として甚だ大

蕎麥 各地より産り

蕪菁 日野辺と佳し

菜 日野菜と称へ日野より産り

鮒 源五郎鮒と称へ琵琶湖より産り其名付る所以洋をらん



鰻 堅田より産り

蜆 勢田堀と称へ勢田辺より産り

諸子 愛智川より出づる小魚なり

鱒 琵琶湖より出づ

鯰 上ノ今ト

硯石 高島硯と称へ高島より出づ石質上品よりこれをも諸国へ輸出せり

銀 愛智郡政村より出づ出額純銀六ノ目余

銅 同郡石部村より出づ出額純銅五千四百九十斤余

布 長濱より出づ

糸 上今令

氷魚 田上川より出づ

不灰木 栗本村・地中より出る

美濃

廿一郡

紙類 美の紙と云障子と張るは上之布
折紙扇の地紙も各地より製す

尺長奉書 聖結帝は用ゐるのよき各
地より産れ

生糸 各地より産れ

真綿 上今令

酒 養老酒より多藝郡より製れ

小刀 関の鍛冶とれと製れ

剃刀 上今令

提燈 岐阜より出づ



甜瓜 真桑村より出づ故に今世は真桑
赤瓜といふ味極く甘し

柿 峰谷より出づ一柿一七四方
へ出す

葱 官代村より産れ

干大根 各地より産れ

鯰 岐阜の名産なり

鯉 墨俣川より出づ

銀 郡上郡の上長尾村よりあり

銅 同郡の畑佐村より出づ出額大
抵二万五千六百二十五斤余

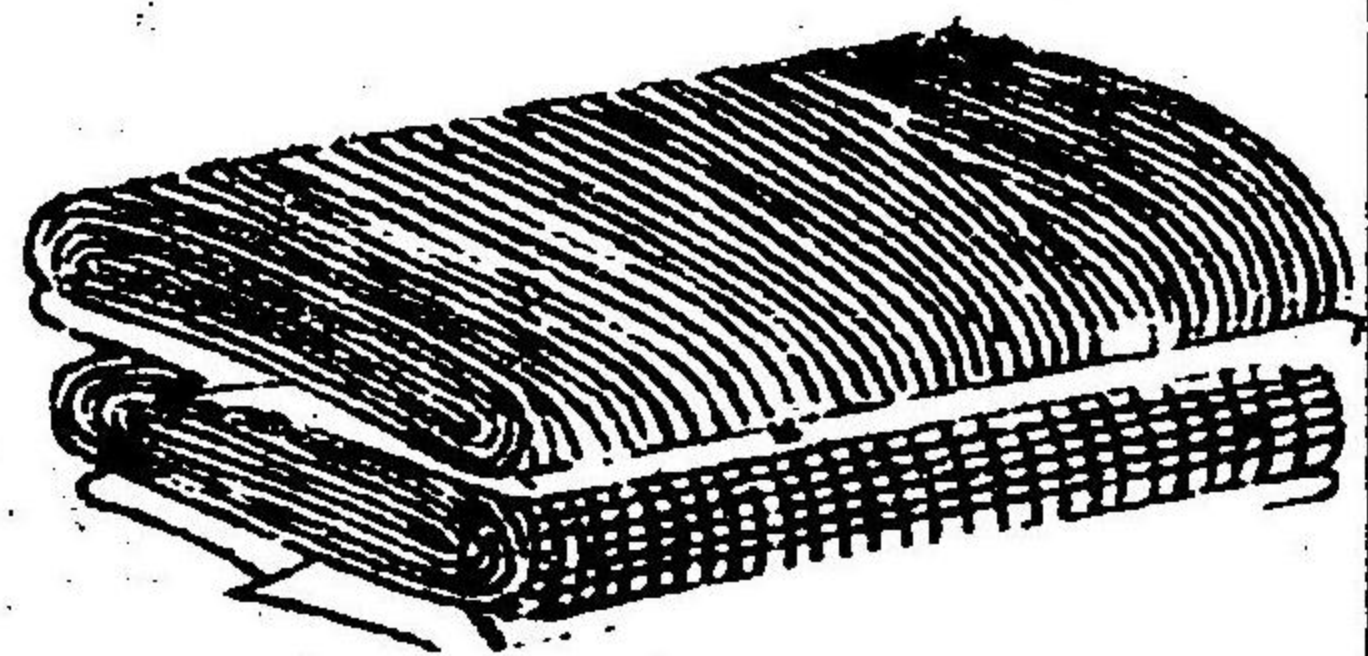
鉛 同郡の寒水村よりあり

飛驒

四郡

紬

各地より産出



綿

上ノ全ト

麻布

上ノ全ト

材木

諸山より出づ榿木の類多し

金目鯉

諸箱類を製り高きより出

葛粉

河より産出

蕨粉

上ノ全ト

搗栗

上ノ全ト

鱒

古川より産出を佳し

金

古城郡の森部村より

銅

同郡の鹿岡谷村より出づ出額大
純銅三十三万平。本斤余又同

郡の東濃村より出づ出額大九万九千九百
三斤余入同郡の和佐保村より

鉛

同郡の内四ヶ所より

根深

官代より造る

槻

土井より生ずりの上品

信濃

十郡

生糸

各地より製り我同生糸の上品
此国及び陸前陸中より

真綿

上ノ全ト

蚕種 上ノ全ト

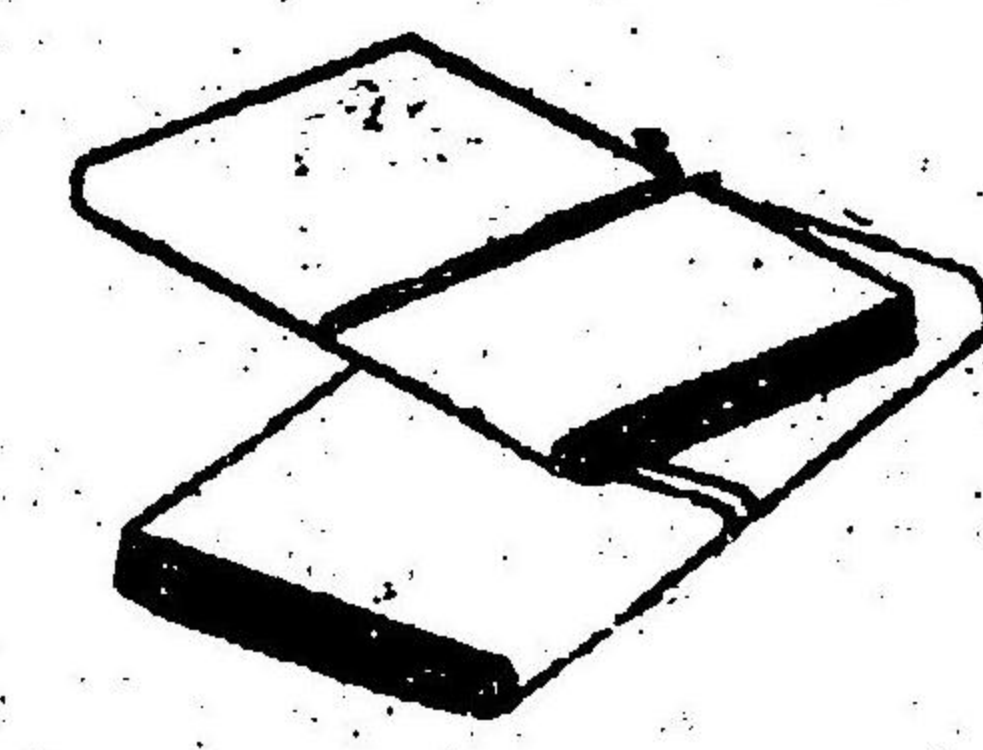
上田縞 絹及び木綿ノ織ル上田ノ産也

絞木綿 上ノ全ト

太布 上ノ全ト

麻布 木曾ノ産也

紙類 可々ノ製ハ奉書等小杉原ノ最上ノ品也



烟艸 北野烟草ノ宮ノ神ノ出

曲物類 奈良并ノ出

石炭油 伊奈波ノ出

水賊 國原ノ産也

紅花 各所ノ出

芍薬 奈良并ノ出

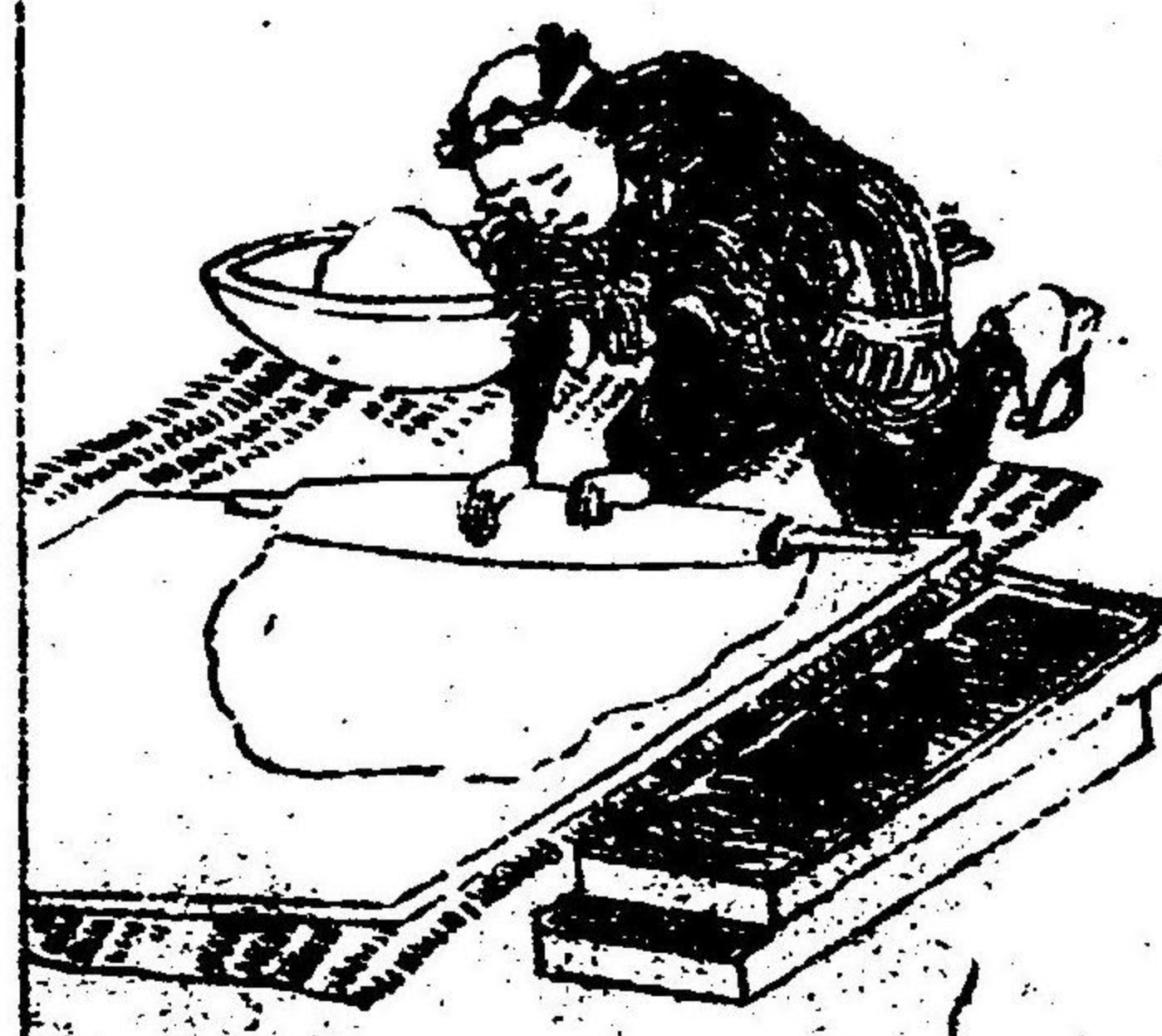
杏仁 同上

鯉 諏訪湖ノ出

鮒 上ノ出

鰻 上ノ出

蕎麥 更科ノ名産也



銀 安曇郡ノ大植村ノ出

硫黄 高井郡ノ灰野村ノ出

上野

十四郡

生糸

生糸と産する最も多く近來
母の製糸場と設け仙人と招き
婦女子と一々欧州の製造と傳習を
しむ因て製糸極めて精工なり他日國
内第一の生糸と産する
これ國產なり

新田絹

新田より織り出れる絹なり

日野絹

日野より製を故に日野絹と
いふ

太物織

高崎前橋館村河より織
り出れる

蚕種

河より産れる

白苧

佐野より出づ

漆

各地より産れる

烟草

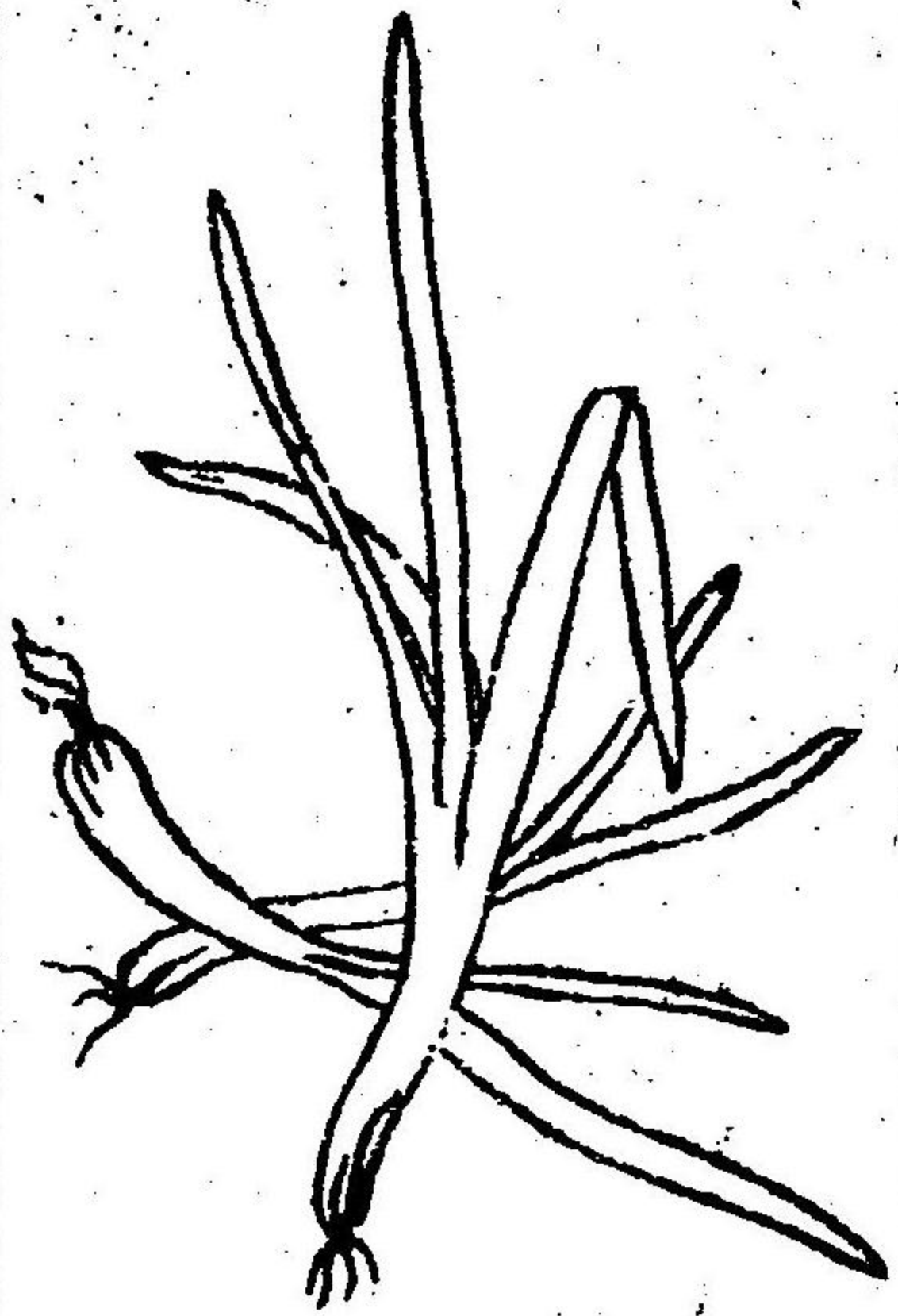
上ノ会ト

三度栗

上ノ会ト

白葱

下仁田より産れる白葱多し



鯉

利根川より産れる

盆山石

戸次より出れる

石炭

群馬郡の草津村より出づ出額凡
千三百斤余又同郡の赤坂村より

硫黄

吾妻郡の大前村より出づ出額凡
五万斤余

明礬

同郡同村より出づ出額凡千五百
斤余

下野

九郡

生糸

各地より産れる足利郡最も盛ん

絹キヌ 足利絹と称へ足利より産する多し

團扇ウチハ 宇都宮より産し

漆器ヌリモノ 日光より産し日光塗と云ふ

櫛シ 宇都宮の名産なり

笠カサ 宇都宮の名産なり

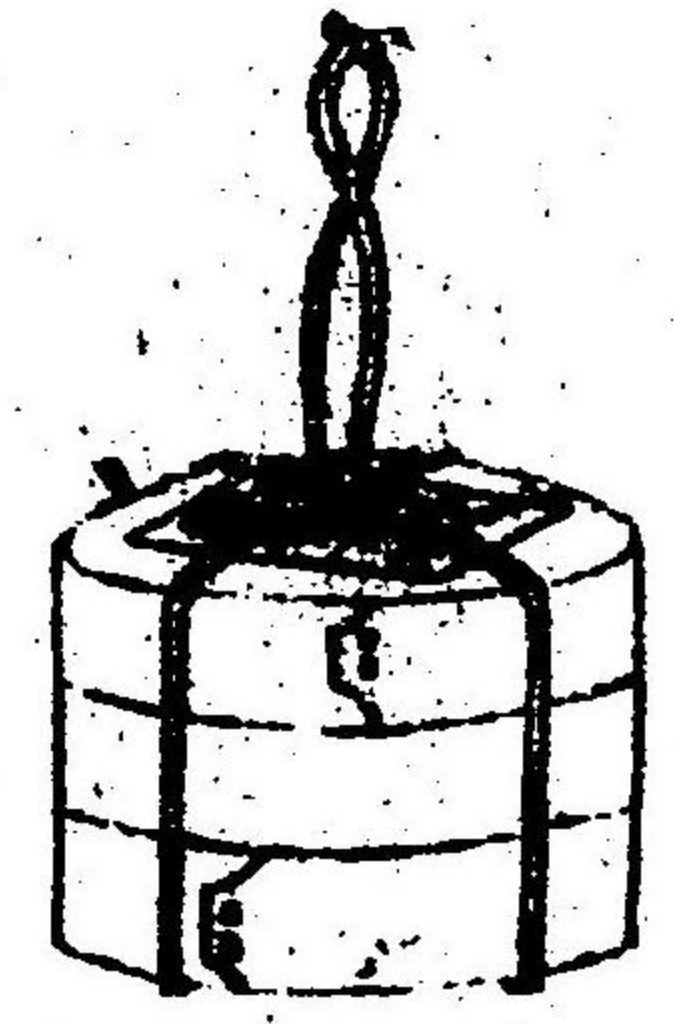
木綿モウジ 真母木綿と称へ真母より出づ

檜細工ヒノサイ 日光より産し

川海苔カハ 日光中禪寺より出れり中禪寺苔と云ふ

大方紙オホホウシ 那須より出づ

蕃椒トウモロコシ 日光の名産なり



牛蒡ゴボウ 猪兼より出づ

葱ネギ 官村より出づ

麻アサ 度沼麻と称へ度沼より産し

人參ニンジン 日光より出づ

金キネ 河内郡の篠井村よりあり

銀ギン 那須郡の三斗小屋よりあり

銅ドウ 安蘇郡の足尾より出づ出額凡七百六十五斤余又塩谷郡

硫黄イワ 那須郡の那須岳より出づ出額の東房村より出づ出額凡百斤余

硫黄イワ 凡二万八千七百五十五斤余又塩原郡の塩原村よりあり

石炭セキタン 那須郡足利郡よりあり

磐城

磐城

生糸 各所より産り

真綿 上は今下

絹 養城郡其他所より織り出

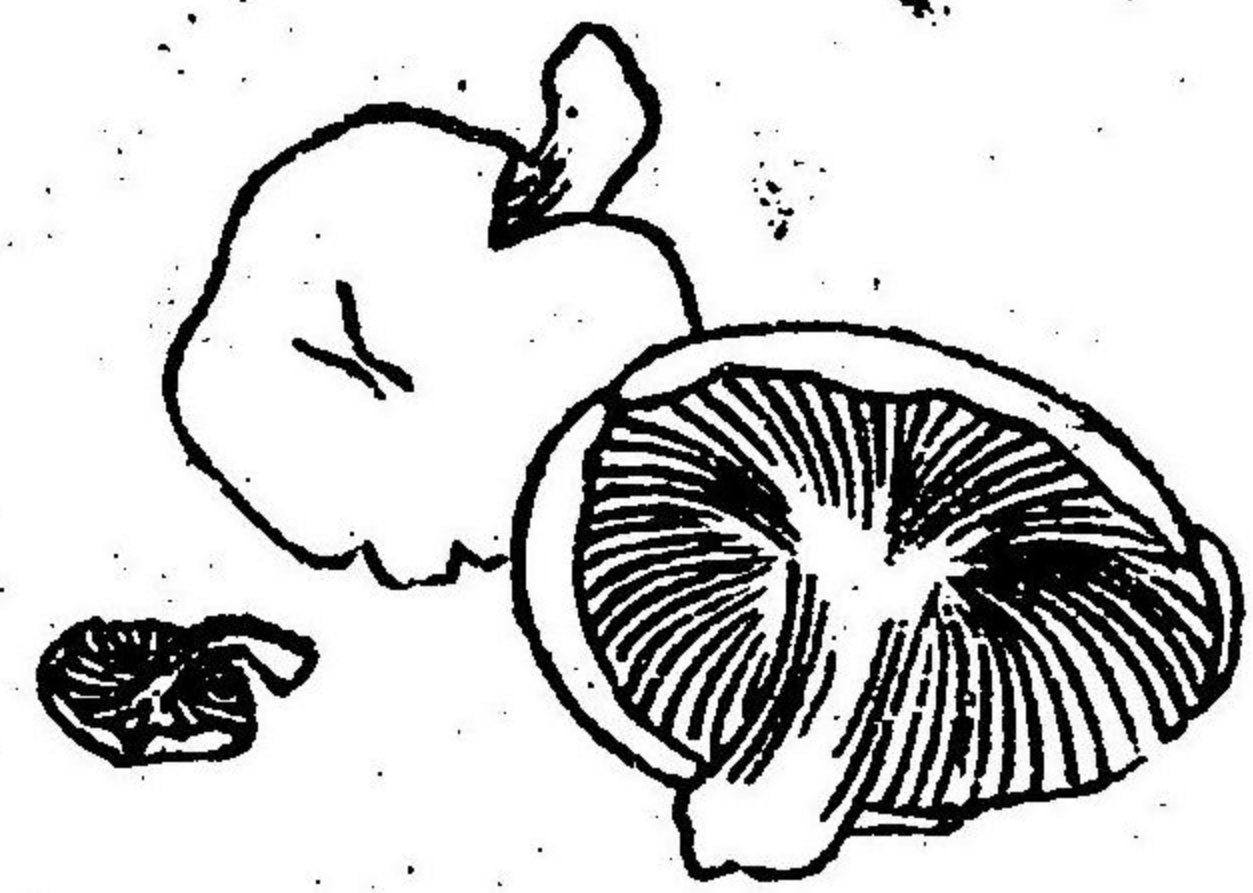
八反織 上は今下

魚油 養城及行方宇多郡の海濱より産り

鯛ノ粉 上は今下

陶器 相馬焼と称し相馬より出づ沙焼

椎茸 所々より出づ



塩 所々海濱より製されども切濱未次ハと麻んまうら

鰹節 所々海濱より産り

干鮑 上は今下

石炭 前多郡及行方宇多郡養前郡小

京は養城石炭と云ふ多常陸より産すもの

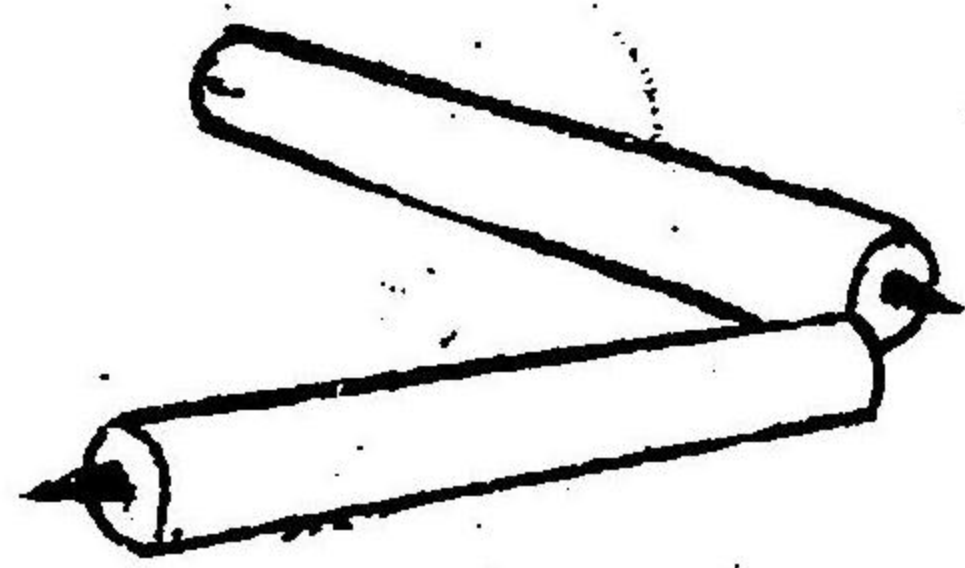
岩代

絹 川俣絹と称し川俣より産り

紬 二本松の名産なり二本松郡より

文字摺絹 信夫より産り

蠟燭 會津の名産なり多々四方へ出り



岩代

漆器 上と同ト

塩 猪苗代より出づ山塩ナリ

大豆 西より産ル

胡桃 上と同ト

硯石 出所詳ナリ

砥石 西より出ル

金 那麻郡の黒森より出づ出類凡
八十目又會津郡河沼郡安積郡

白川郡ナ
ニ

銀 大沼郡の輕井沢より出づ出類凡
十五斤又大沼郡の白坂及那麻

那の岩尾村
等あり

銅 會津郡の赤岩より出づ出類凡二
百斤又河沼郡及大沼郡より

硫黄 安積郡の安達太郎山より出づ
出類凡三万二千斤

陸前

生糸 西より産ルれども気仙の辺より
出る者上品ナリ

真綿 上と同ト

蚕種 カイコ 西より製ル

米 仙台米と稱へ産出する夥し



仙臺平 生絹を織る地ナリ

斜子織 上と同ト

八反織 上と同ト

紬 仙台絹と稱へ西より産ル

紙布

仙台より出づ奉書紙とよりにて織りしものあり

乾精

仙台より出づ仙台精と称し

氣仙籠

気仙より産づ

馬

仙台馬と称し所々を牧場なり我国の馬此地を以て第一と云



埋木細工

仙台の名産なり

烟草

三春より産り

金海鼠

金花山の辺より産るを佳と云

鮭

石巻の名産なり

干鰯

海濱所々より産り

鯉節

上々全ト

金

栗原郡の小樽新町より又同郡の二の岡より

銀

五邊郡の本山より出づ出類凡万五百斤

鉛

栗原郡の鶯沢村より出づ出類凡二百十斤

陸中

十郡

紬

南部細く林へ南部より織り出り

縮緬

南部縮緬と云へ同所より産り

生糸

所々より製し其品陸前より上りて産出する

真綿

上々全ト

蚕種

上々全ト

推茸

所々より出づ

百合

上々全ト

甘草 上ノ全ト

紅花 上ノ全ト

馬 河々ニ牧場あり南部馬と呼ぶ其馬頗る強健なり然れども仙台ニ劣るなり

鮭 河々川より産む

鐵瓶 南部の名産なり



金 数野より出づ出額詳々ならず又井郡より

銅 鹿角郡の尾安沢より出づ出額凡八十斤

鐵 田伊郡の大橋村より出づ出額凡千五百六十二万五千斤余又鹿角郡の津谷川村より

陸奥 四郡

漆器 津輕塗と称し津輕より出づ頗る精工なり

材木 各地より産む

大豆 上ノ全ト

昆布 北郡及び津輕の海岸より出る多し

干鰯 上ノ同ト

牛馬 各地ニ牧場あり近來盛年最も盛なり

銀 津輕郡の尾太より出づ出額凡三十斤又南郡の碓氷内より出づ出額凡五斤

銅 津輕郡の尾太より出づ出額凡一万千六百斤又同郡の碓氷内より出づ出額凡千八百七十五斤

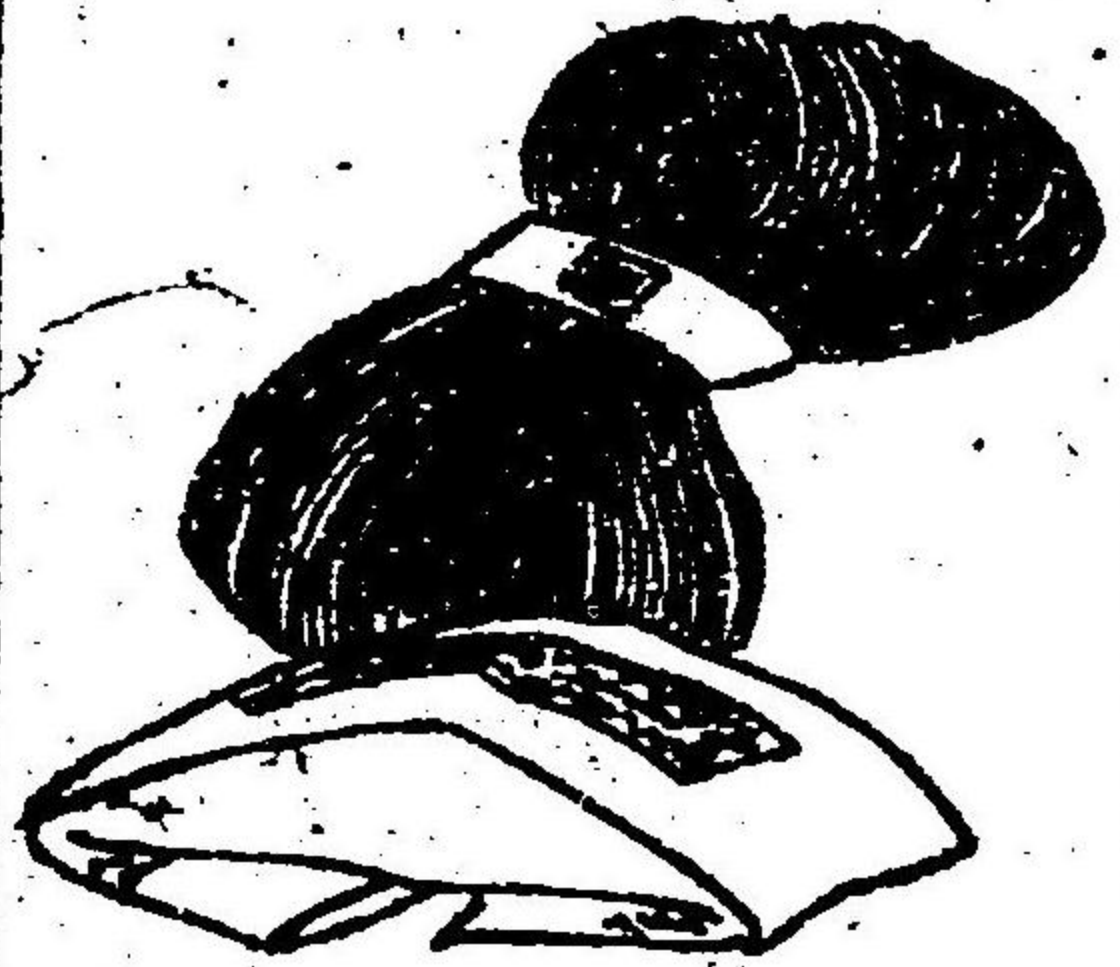
石炭 新田山より

羽前

四郡

生糸

各地より製し



蚕種

上ノ今ト

糸織

庄内近傍より織出し

酒

大山酒、林、四方、輸出、其味もまろり織内より及ぶれり、東北第一なり

紅花

最上より産し

金

村上郡の岩沢村、平房村よりあり

銀

同郡の関谷村、沢村よりあり

銅

会所の赤土より出づ、産凡十方五千斤、又同郡の空沢村よりあり

羽後

八郡

生糸

各地より産をれり、秋田郡と織

真綿

上ノ今ト

秋田織

秋田より織出し

畝織

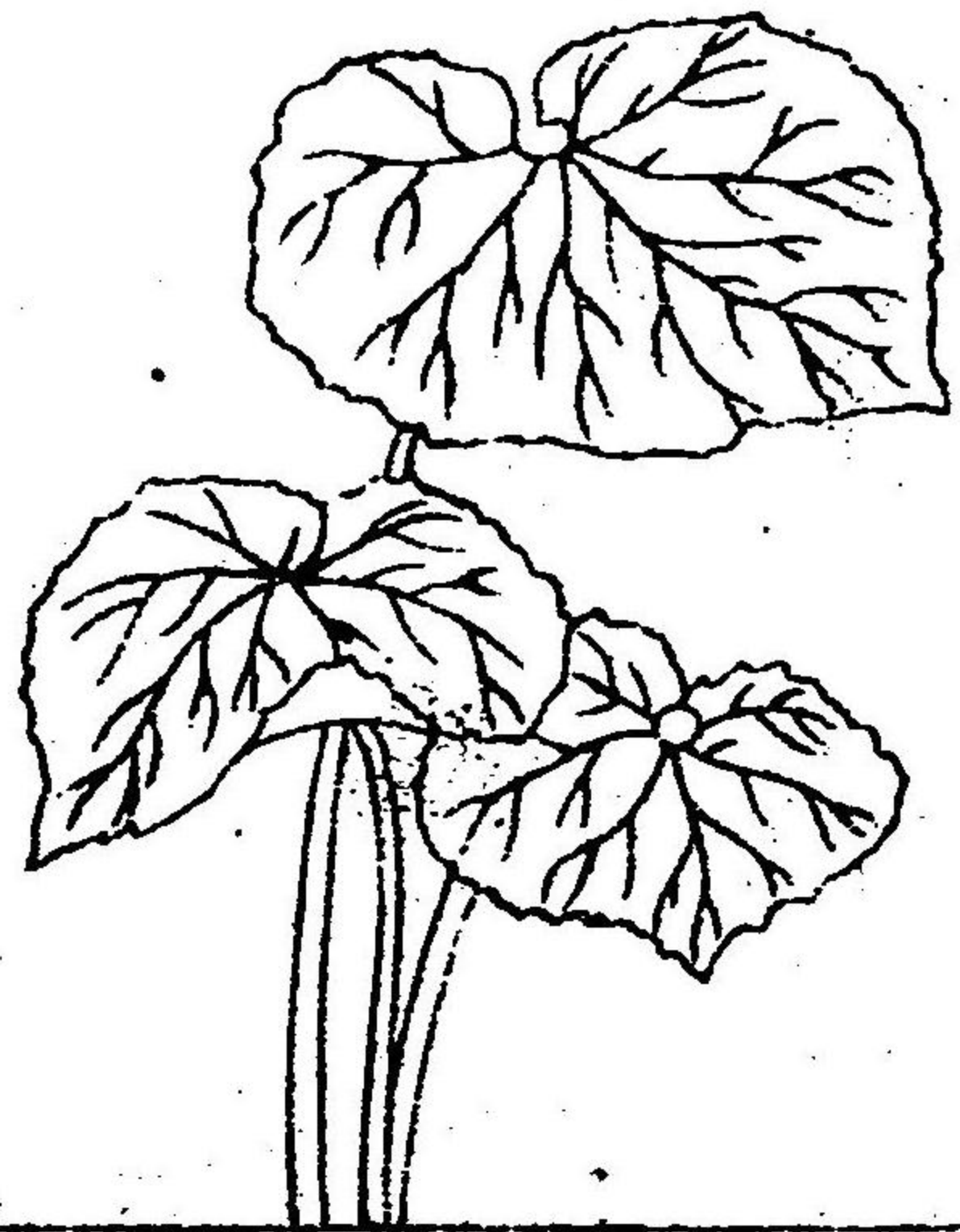
上ノ今ト

八丈縞

上ノ今ト、其他織物の白鳥織、狸織等あり

歟冬

秋田歟冬、極々大、葉の径六尺あり



塗物 秋田郡と盛岡より出

材木 諸山より出

串鮑 海濱所々より産

海鼠 上小全ト

金 秋田郡の大葛阿仁より出 出額 凡二十五斤

砂金 飽海郡より出 出額 凡一貫目十

銀 雄勝郡の院内村より出 出額 凡二百ノ目斗又山本郡の八森より出 出額 凡七十五斤又由

銅 秋田郡の阿仁小沢オヨあり 利郡の笹子村ヨあり

鉛 由利郡より出 出額 凡三万八千四百斤

石炭 山本郡秋田郡より出 出額 凡五十万斤

硫黄 仙北郡及び雄勝郡ヨあり

北陸道

三郡

若狭

厚紙 名田の庄より産

筆 小濱より製



漆器 若狭産と称へ小濱より製す頗々 精ニキリ多ク四方へ出

楊枝 名田の庄より出

桐油 小濱より産

酒 小濱酒と称へ小濱より製

厚朴 茶田所々より出

白朮 同上

若狭

三六

芍藥 同上

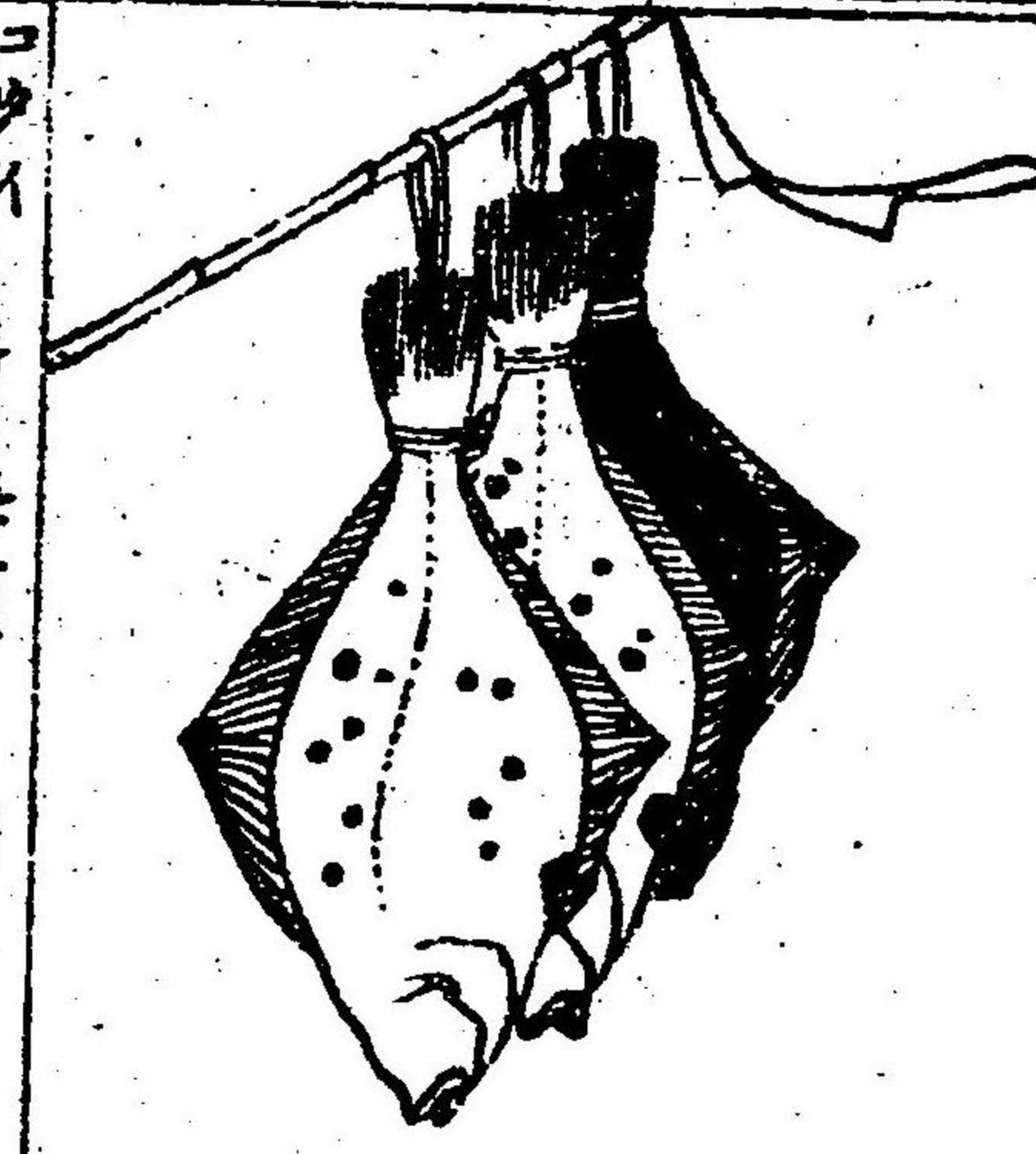
和布 濱より出

青堅苔 上は合ト

碇石 須賀浦より産

硯石 上は合ト

鮓 び鮓を所々海濱より干し
して西京へふる多



小鯛 所々海濱より出

烏賊 尺八烏賊と称し高濱より出
大飯郡の野尻町より産出額
凡六万四千二百五十斤

銅

越前 八郡

奉書紙 当國を以て第一といひ所々も
製

烏呂紙 上は合ト其他松類雲紙等
様あり

生糸 各地より産

真綿 上は合ト

紬 世これと奉書紙と云

蠟燭 福井より製

雲丹 福井の名産なり

綱行李 戸の子より産

索麵 丸母の名産なり

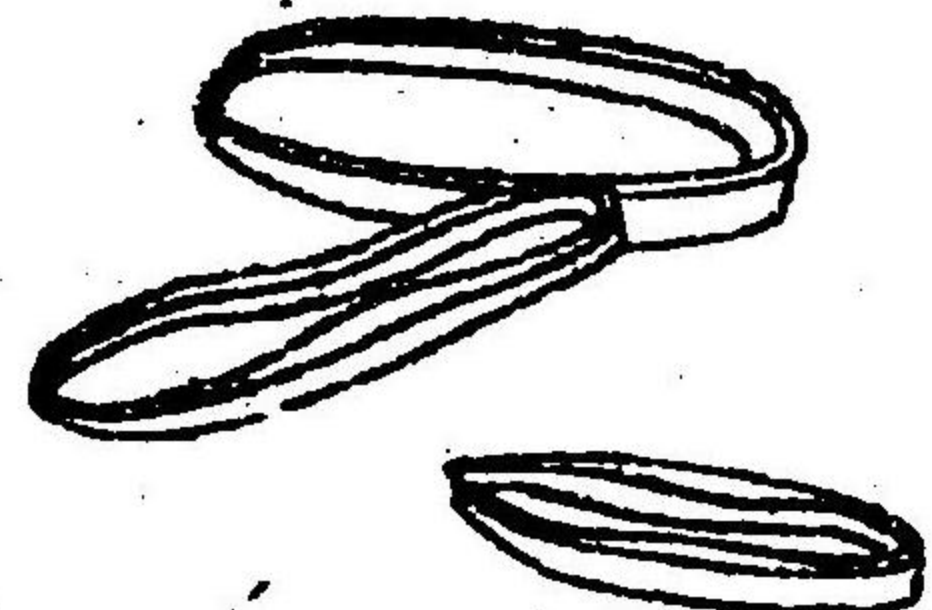
黄蓮 茶田各地より

瓜蒂 同上當國の品と第一といひ他國より
産る者い功能ありと云

葛粉 阿波より出づ

甜瓜 上ノ今ト

鑛 金津鑛より金津より産ル



鱒 三目より産るを美味とル

鱈 上ノ今ト

鮭 上ノ今ト

砥石 長きさ村より出

切石 北の庄より出

銀 大野郡の面谷より出 凡五百十
七斤此礦より銅及鉛と出 銅の出
凡五百四十斤銀の出 凡四百八十斤
又同郡の細野村より銀及鉛と出 銅の出

帯布 野村有美村等より銀銅と出
府中及福居より出

加賀 四郡

光綿 各地より産るを小本より出
上品より世とれど加賀綿と云

生糸 各所より出

真綿 上ノ今ト

陶器 九谷焼と称へ赤繪の陶器より
九谷より産ル

菊酒 金沢より産ル

落雁 金沢市中の産 湯島産と称へ
上品の菓子なり

墨表 出所詳ナシ

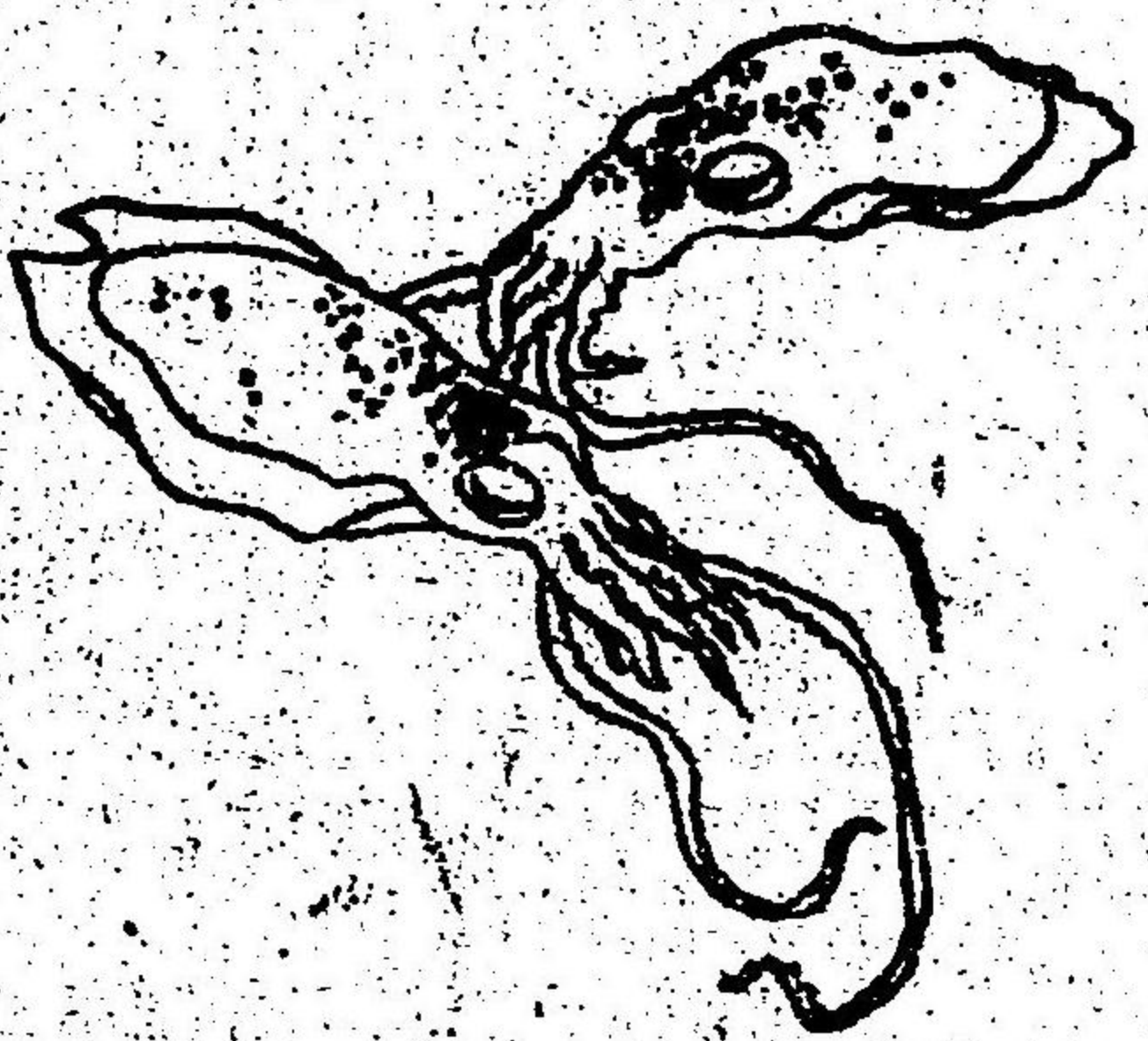
半紙 加賀半紙を其色白く其幅他
國の産と異ナリ

干鰯 海濱清々を製ル

鯰 浅の川より産むの味甚ど美
なり

鱈 浦々より出

烏賊 上はカサト



金 敏見郡の金平村より産む出類
凡二百日

銅 同郡の遊泉寺村より出づ

石炭 江沼郡の千崎村より出づ

能登 四郡

漆器 和島産と称へ和島より製す

素麵 和島の名産なり

鯖 世に知られどさし鯖とて大浦をより
出づ酒家最も賞美を



烏賊魚漬 海濱所より製し

金剛沙 出所詳をりぬ

雲母 上は同ト

石炭 上は今ト

コノ腸 海産の塩辛なり

能登 三十九

越中

四郡

生糸

各地より産されも尉の鼻及び白川より出ると最上多しといへ

真綿

上は今ト

木綿

各地より織出し漆地多し

畳表

出所洋々といふ

磨沙

栗の浦より産れ

黄蓮

茶品各地より

金

新川郡の松倉村より出づ

銀

全郡の龜谷村より出づ

銅

全郡全村より出づ

鉛

全郡全村より出づ龜谷鉛といふ

越後

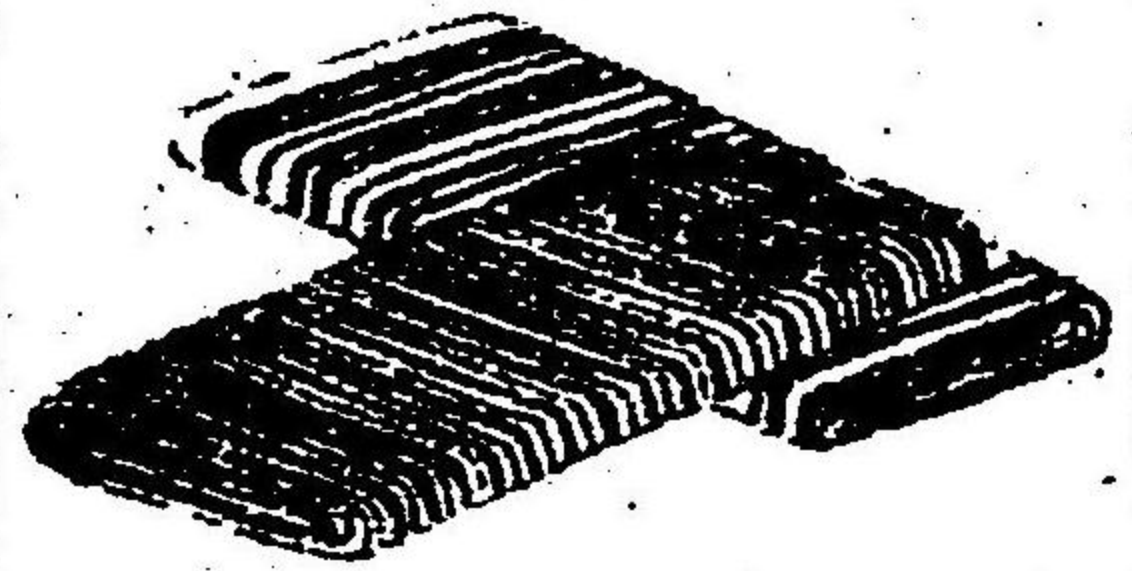
七郡

縮布

小千谷縮し稱へ小千谷より産し帷子の上品なり

紬

各地より織り出し朽尾油絞も上品なり



白布

松山より産れ

漆器

各地より製れ

蠟燭

上はあめり

石腦の油

蒲原古志郡お所々より産れも岩舟郡の黒川村より出る最上

多しといふ燧し

酒

三糸新潟各地より製造れ

茶

所々より製れ

越中越後

甲

片栗粉 上と全ト

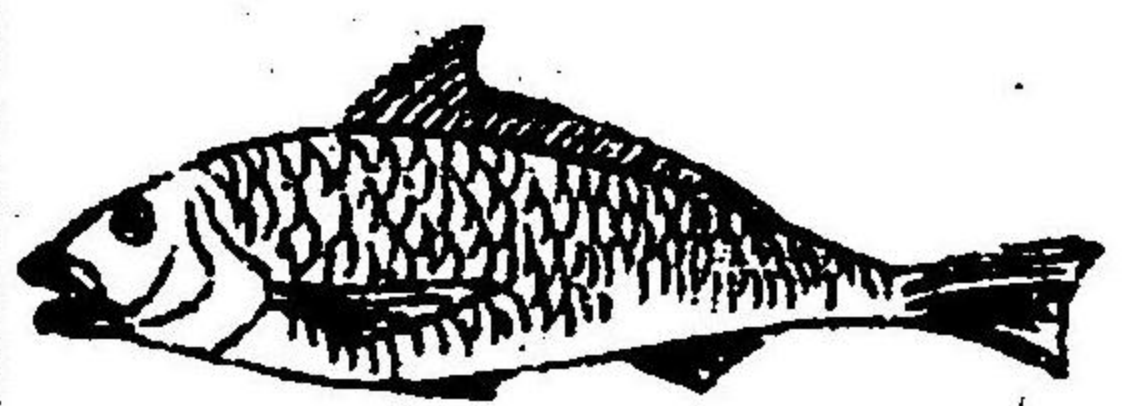
烟草 上と全ト

當皈 薬品米山より出ル

黄蓮 弥彦山より産ル

鮭 信濃川其他諸川より出ツ

鱒 上と全ト



絲魚 味奥川の名産ナリ

金 蒲原郡の五十沢村及び頸城郡の
絲魚川より

銀 頸城郡の大所村及び蒲原郡の
當沢村より産ル

銅 蒲原郡中野より出ル凡十六
万二千七百四十斤

佐渡

三郡

鉛 全郡宮崎上村より出ツ

石炭 全郡の赤谷村より

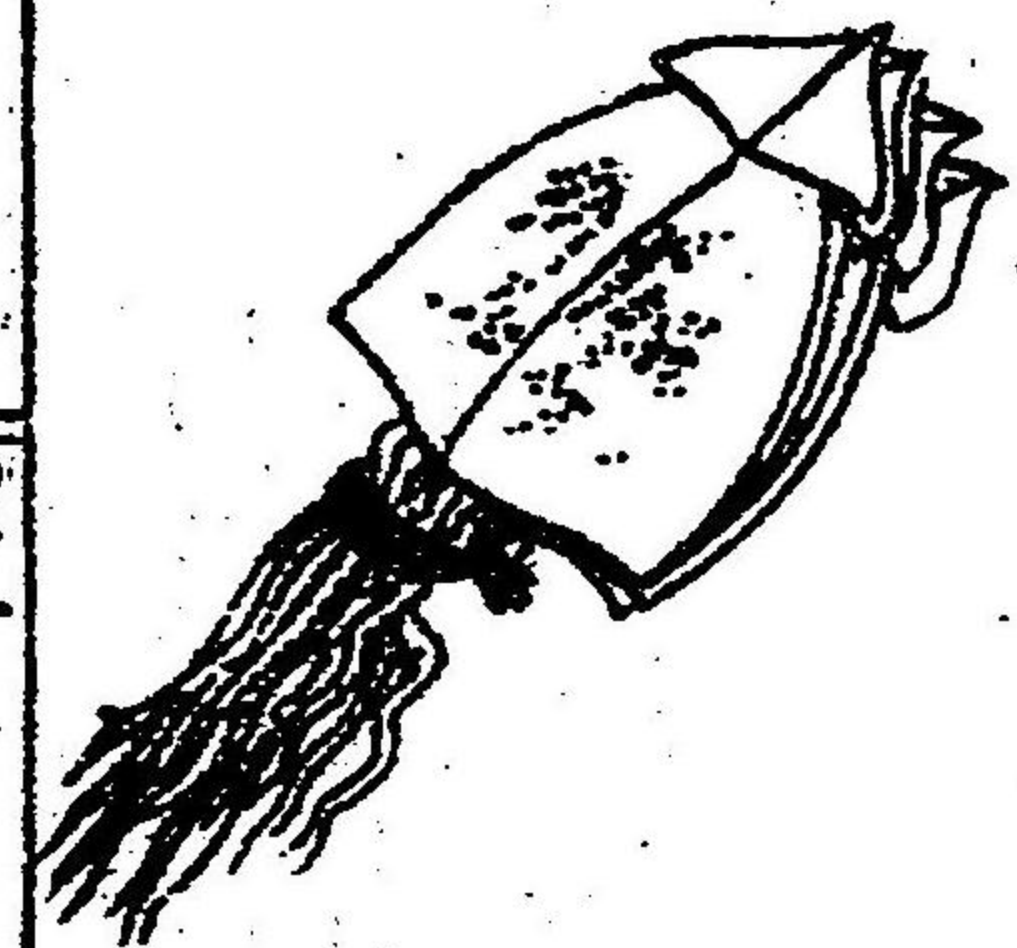
硫黄 頸城郡の大平村より

裂織 麻と裂きたらりのつて織るもの

陶器 金太郎焼と称へ金北山の産
て製ス

箱細工 五月山の杉及び桐より製ス

鯧 浦より出る



干鱈 上今下

瑪瑙 諸郡に産する多し出賣す

金 諸郡に産する多し出賣す

銀 上今下

北海道

渡島 七郡

鮭 松前多し

鱈 上今下

鰯 函館近海多し

鮫 函館より出る

鮪 函館近海多し大者無鱗魚にて死なれぬ眼より血を出し海魚

鰺 松前函館より多く出る

鰯 函館近海に於て多し漁り

帆立貝 江刺近海より多く出でる

牛 龜田に多し

硫黄 恵山より産り

金 松前の鑛山より出る

昆布 函館近海より多く出でる

蘿蔔 各地に産り

後志 十七郡

鮭 小樽高知より市吉平から多し

帆立貝 小樽高知より産り

鶯 積丹に多し

鰯 小樽高知より多し

鯨 岩内古平積丹与市高島より多し
 鯨 奥尻近き多し



鯨 小樽より出る

鮫 寿都古平積丹奥国高島より多し

煎海鼠 古市より製せ

アツシ 木皮と裂き織りたるものなり
 十人衣服とん

水豹 奥尻近き多し

昆布 厚岸近き多し

鹿 石狩日高後志を以て第一とん

銀 太樽の鑛山より出る

石炭 岩内より製せり
 岩内より製せり

硫黄 岩内より産り

石狩 九都

鮭 石狩川より漁るを第一とん又
 厚田より多し

鮭 濱益より多し出る

鷺 諸山より

膾膾膾

鹿 石狩後志日高三國を以て第一とん

熊

狐

石狩

煎海鼠 厚田より産す

鮑 厚田より多く出る

桑 国中最も盛なり

胡桃 川上は胡桃のみつ樹林なり

金 濱益の鑛山より出る

石炭 石狩郡より

天鹽 六郡

鮭 天鹽より多し

鱈 増毛より多し

蝦夷松 国中へ盛く生ず

カヘス 増毛産物より出ん

根 国中より多し

煎海鼠 増毛より多く製ん

鮭 上は全下

鶯 昔前より多し

昆布 當国近海より多し



北見 八郡

鮑 利尻礼文尻より出ん

鯨 糸也より産ん

昆布

天鹽

鮓

煎海鼠 利尻社尻子より製り

帆立貝 赤也より産り

膽振

八郡

鮓

幌別白老勇排より多く出り

鮓

山越白老勇排より多く出り

鮓

白老勇排より出り

臘臍

長万部より産り

煎海鼠

白老より出り

鹿

狐

熊

此田有味室蘭白老より多し



カヘス 幌前白老より産り

帆立貝 有珠室蘭より出り

鮓 室蘭より出つ

椒 室蘭幌利より多く出り

牛 勇排より多し

金 山越内の鑛山より産り

銀 上ノ今ト

銅 上ノ今ト

硫黄 幌別より産り

昆布

蛇田室蘭がより多く出

煎海鼠

白老より多く製

鯿

幌別より多く漁

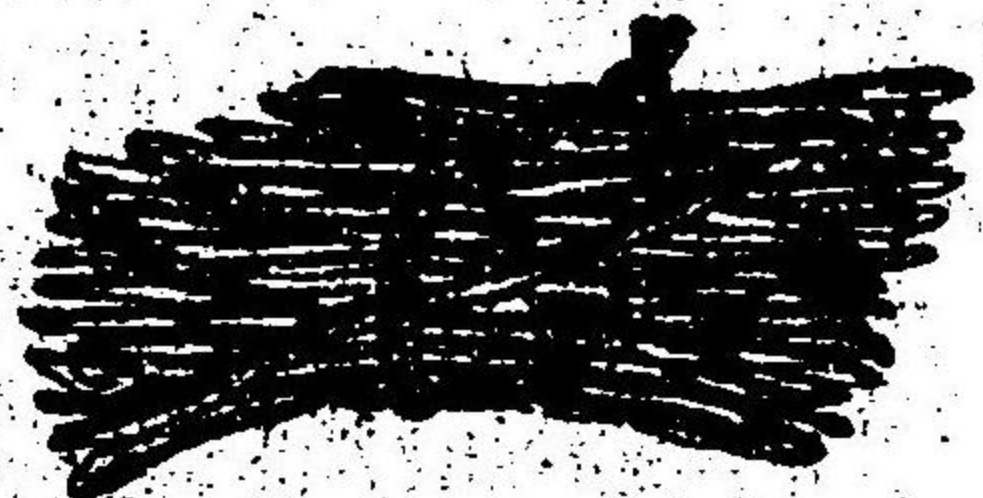
日高

七郡

昆布

三石より産多きを佳

鯿



煎海鼠

沙流より製

鯿

沙流より多く漁

麩

石狩内より多く出

鹿

石狩後志日高より多く出

十勝

七郡

鯿

十勝郡より産

鯿

上二全下

鯿

十勝郡より多く出

昆布

上二全下

釧路

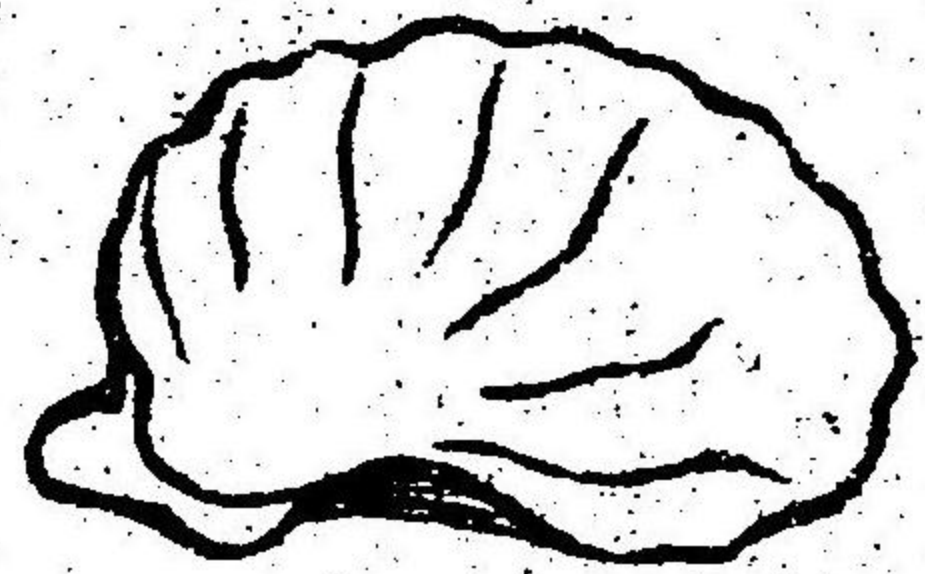
七郡

花錦鼠

花錦鼠より多く出

天

帆立貝 厚岸より出



鮓 上令下

昆布 厚岸より出

煎海鼠 厚岸より出

根室 五郡

鮓 此地より産するハ味殊ニ佳シ

海鼠 根室郡より産す

鮓 根室郡より産す

鷲 根室郡の辺より

石炭 川上より

水豹

海獺

昆布 根室郡より出

煎海鼠 上令下

千島 五郡

獵虎 エトロフより



根室千島

四七

黒狐
馴鹿

山陰道

丹波

太布 各地より産り出

木綿 上は全上金山木綿と云

陶器 丹山より産り

大豆 各地より産り

小豆 上は全上

蕨粉 上は全上

葛粉 上は全上

杉丸太 本邦多紀郡より出
後、但馬、保津川より出



ハ出子故曰山城と云れ
嵯峨丸太と云

墨表 各地より織り出

墨 柏原より製り世にれと切墨と

蜂蜜 各地村より製り

蠟 上は全上

桔梗 薬品

茯苓 同上

柴胡 同上

栗 佐藤栗と称へ龜山の名産と云

林檎 上ノ全

茶 上ノ全

砥石 佐伯産ト云

石炭 出所詳キルハ

銅 官垣村ナリ

丹後 五郡

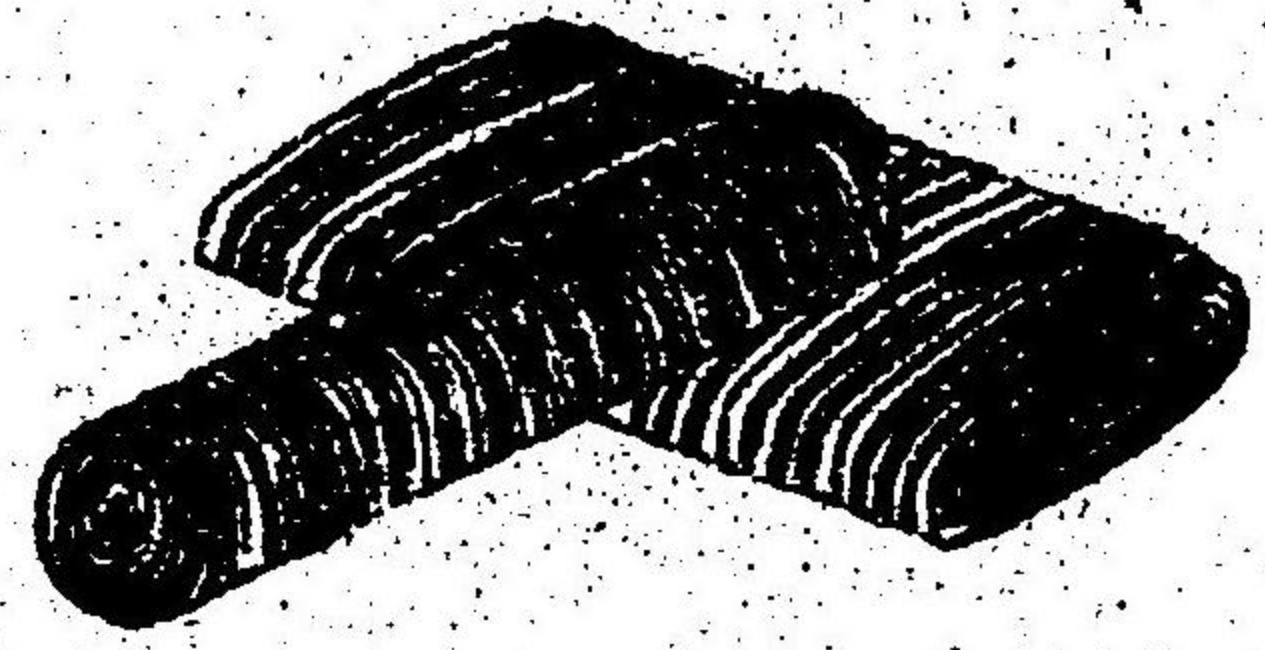
縮緬 官津田産其花トシ織ル出ル

綾織 上ノ全

撰茶 上ノ全

細 上ノ全

丹後縞 上ノ全



葛籠

鯛 全太郎鯛ト云浦々ト出テ

鱒 伊奈浦ト云産モノ其味美シ

淡菜貝 俗ニ文珠貝ト云

海苔 内壘海苔ト云

銅

石炭

砥石

丹後

五九

但馬

八郡

生糸

各地より産り

絹

出石崎と鳴門出石より産り

真綿

各地より産り産り多し

紬

上は同ト

紋紙

村田の名産なり

陶器

城の寺及び瀬戸より産り

柳行李

上は全ト

海苔

上は全ト

砥石

諸磯より出づれど諸磯産り

芍薬

薬品

黄連

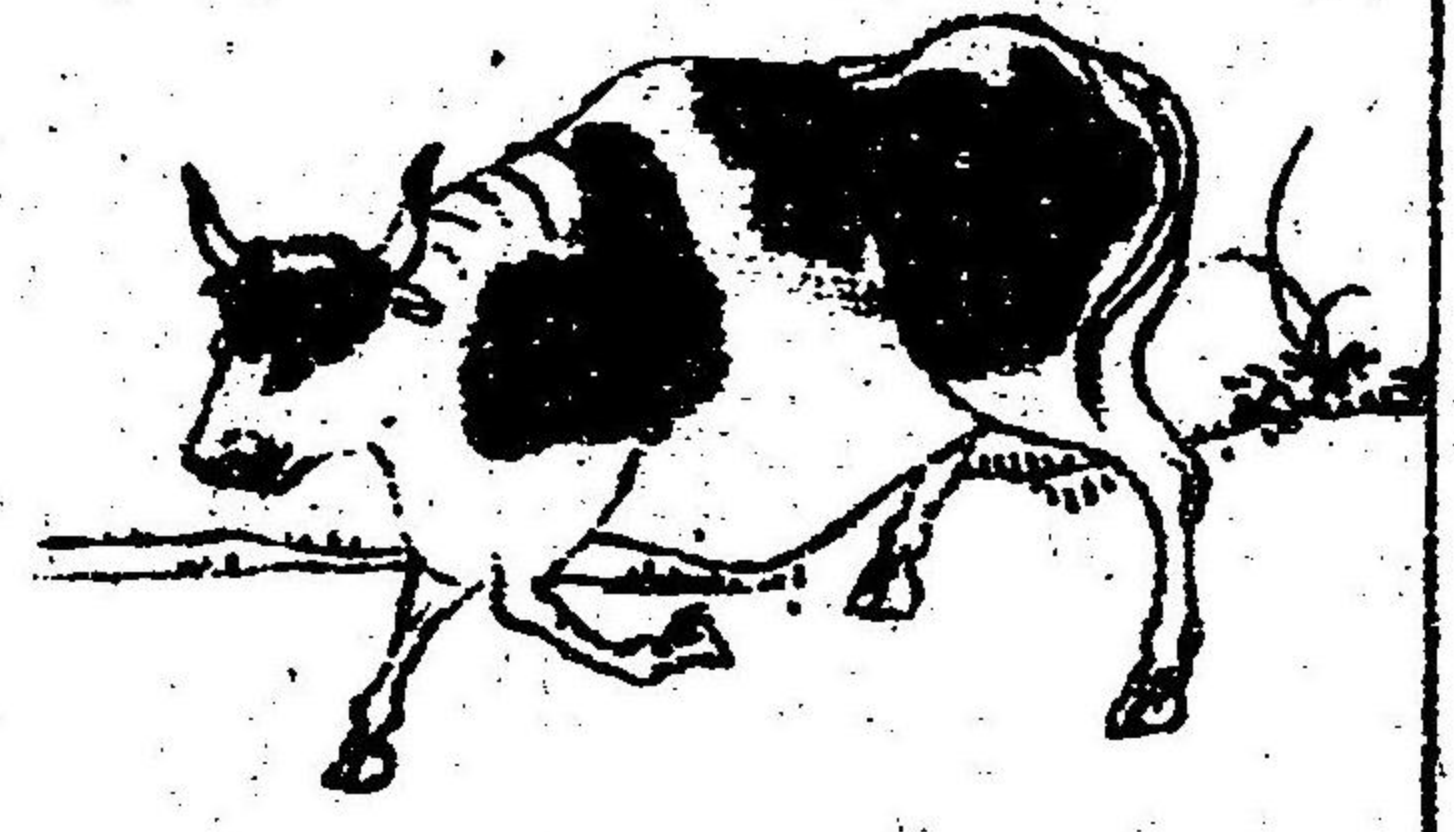
同上

半夏

同上

牛

所々は牧牛場あり



山椒

朝倉より出づ

金

潮来郡生野より産り

銀

養父郡の吉井村より出づ

石炭

因幡

八郡

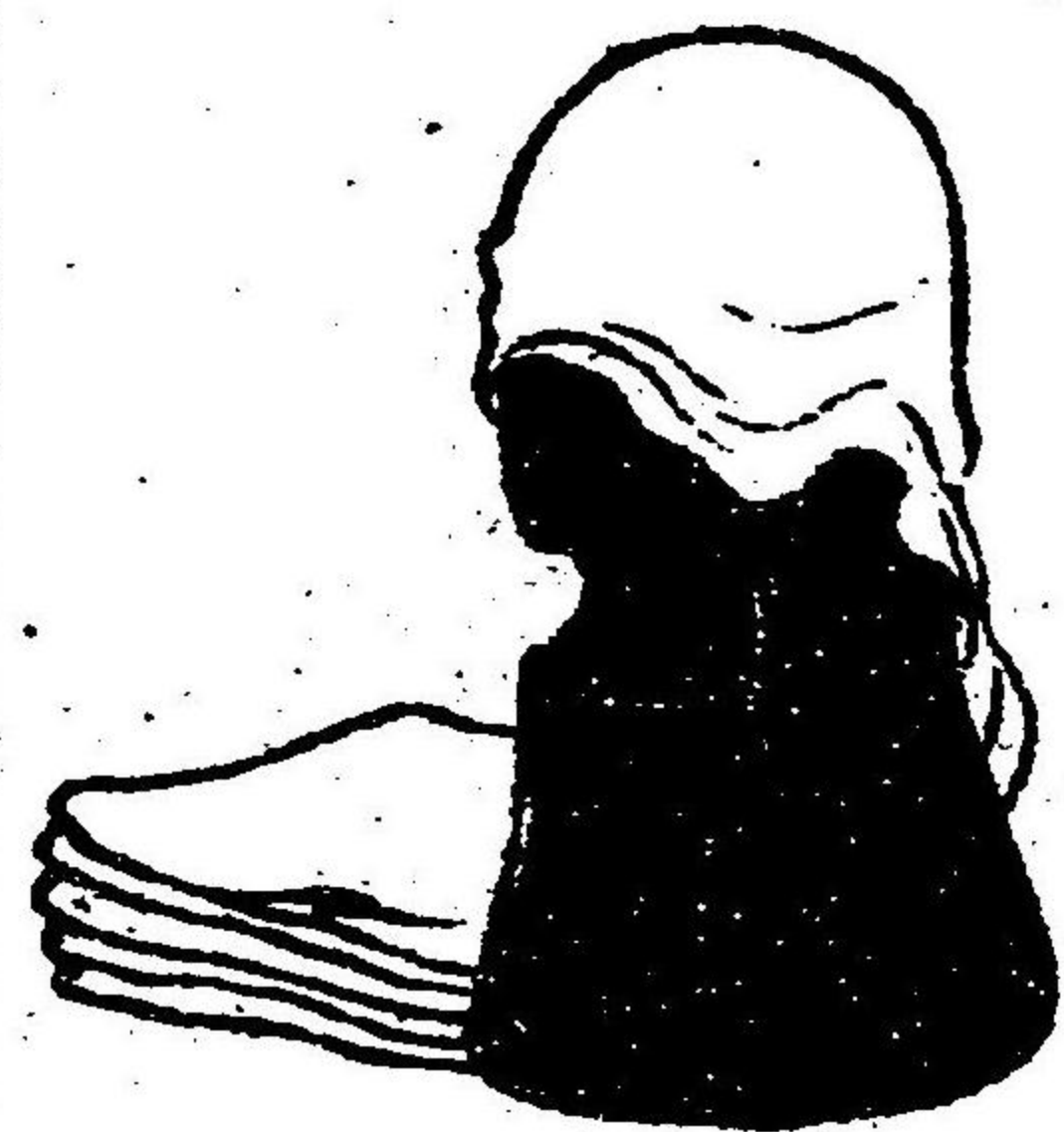
生糸

各地より産り

但馬因幡

五千

真綿



綾子

鳥取より産す

鼻紙

引田より産けり今引田紙と云ふ

材木

諸山より出

畳表

各地より織り出れり

菅笠

河内より産す

木地

木北山より出

海素麵

河内海中より産す海草之

金

銀

銅

岩井郡の蒲生村より産けり出額
一萬六千斤

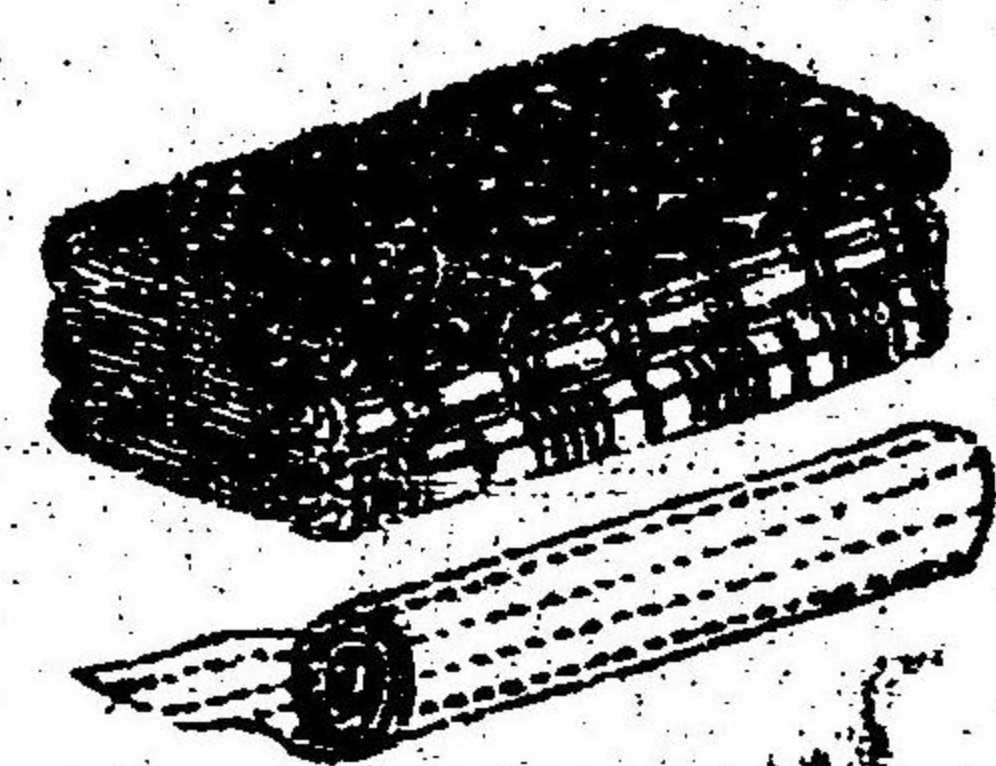
雲丹

伯耆

六郡

木綿

各地より出



縹綿

上又全ト

扇斗

米子より出づ

畳表

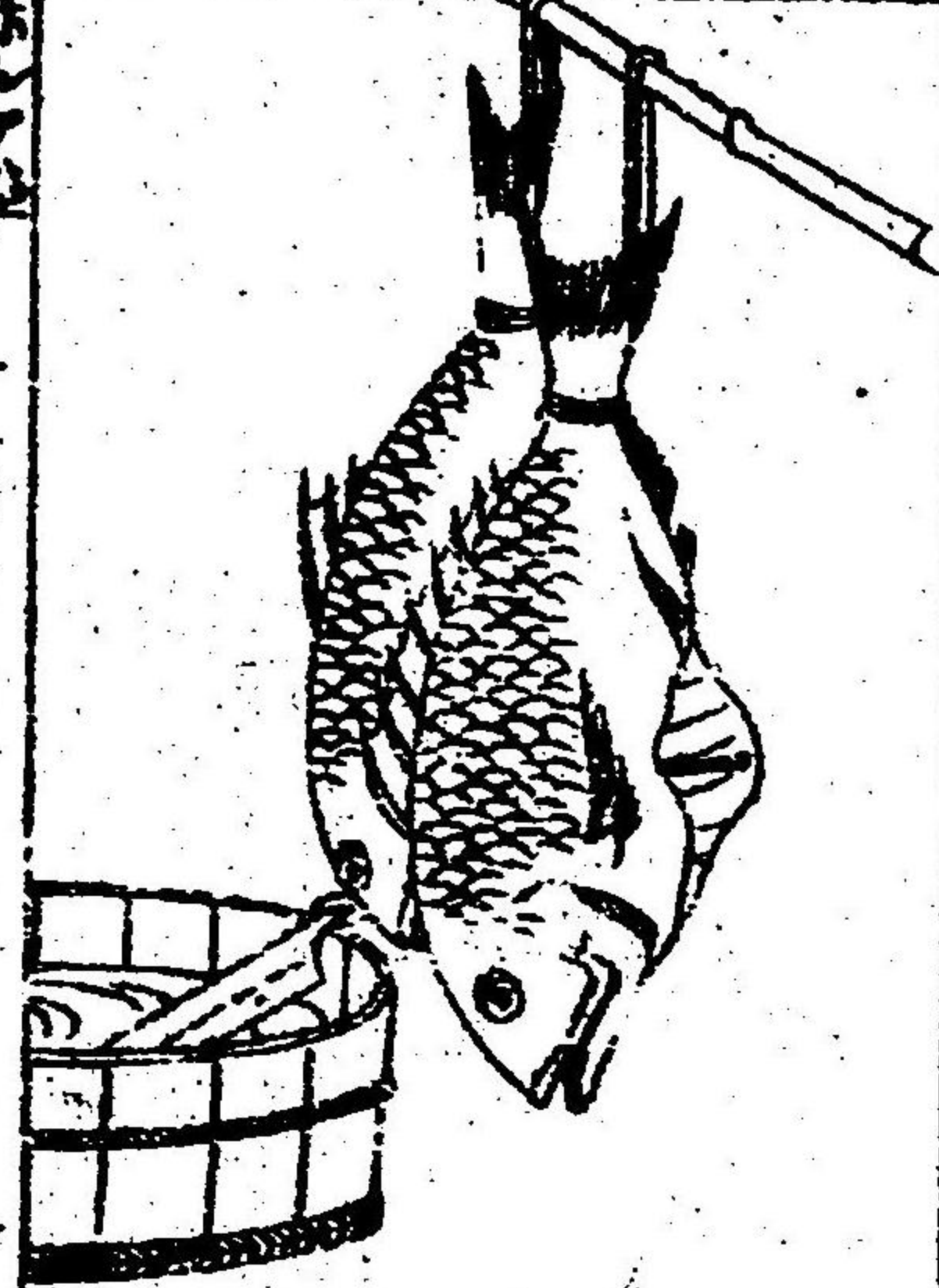
白砂糖

各地より製す

黒皮茸 大木より産り

材木 諸山より産り 賀露浦(出)

干鯛 浦々より産り 製り



干鮑 上り同ト

鐵 八橋久米郡オノより出り

石炭

銅鐵

出雲

十郡

紙 野白紙と唱へ野白より産り

桐油 松江より産り

陶器 上り今ト

瑪瑙經 上り今ト

蜂蜜 各地より産り

黄蠟 上り今ト

白蠟 上り今ト

瓜 野木村より産り

蜜柑 雲州蜜柑と称へ大なる味美し

苔 十六島苔と称ふ

鱸 松江より産り 味美なり 彼ノ支那の松江と名を同し

魚又名産り 奇と云ふ

塩 浦々より製り

干魚 上り今ト

丸鮫

上々今下

和布

加賀沖より産す

銅

章守郡の山雲里より出づ出額
凡十三万五百斤

石炭

全郡夫田村より出額九十万
斤

瑪瑙

雲丹

半夏

高根郡より産ん

石見

六郡

諸紙類

各地より産ん

折敷

濱田より産ん

葛粉

各地より産ん

陶器

瓦

碁石

高根郡より産す



銀

銅

鉛

錫

石炭

遠摩郡より産す

隱岐

四郡

石見隱岐

五十三

材木 周吉隠岐郡より出づ

牡蠣 浦々より出づ

桐板 世に島桐といふ人多く此地より産り

干鮑 浦々より製す

干海鼠 上は全下

鑛物 未だ詳しき事

山陽道

播磨 十六郡

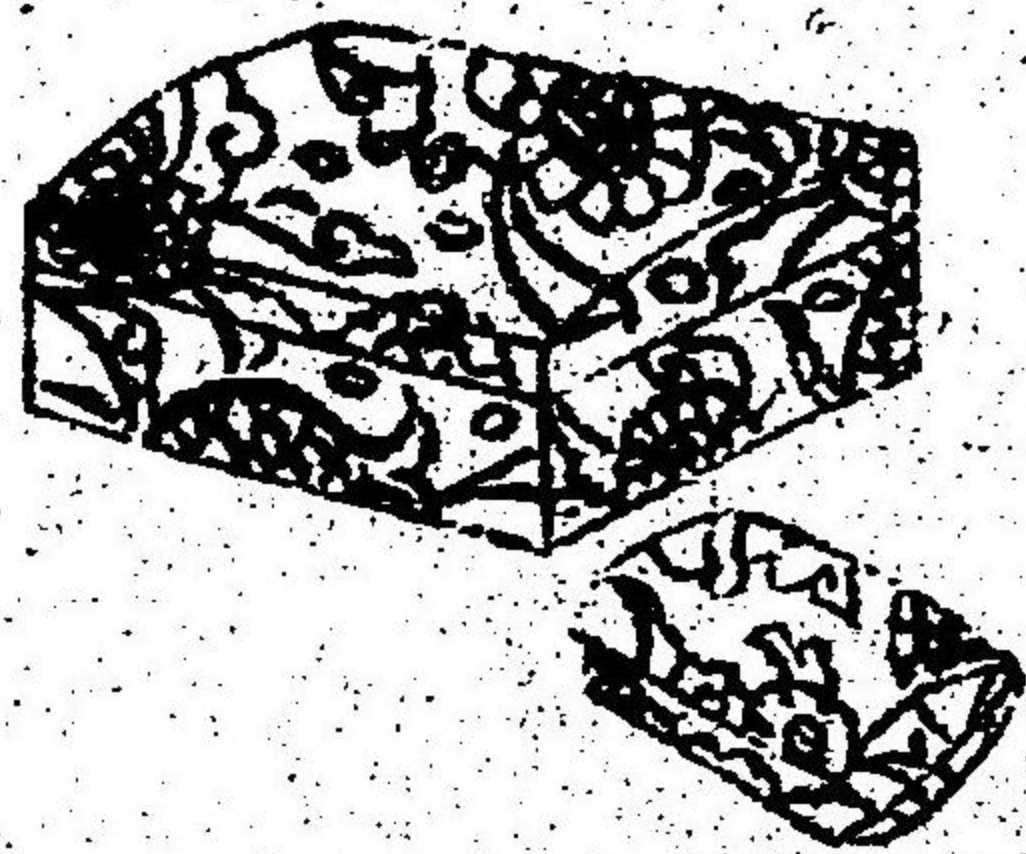
晒木綿 明石より産する多し

明石縮 明石より産す故に明石縮といふ

書寫竹

陶器 舞子の濱より製す故に舞子焼といふ

革細工 姫路より製す故に其革といふ



鍋 野里鍋といふ野里より産り

酒 姫路及び明石より製り

塩 赤穂塩といふ赤穂より産り

白蠟 各地より出り

茶 上は全下

飯蛸 高砂より産り

鯛 明石淡路の間に産するを徳久

瀧野鮓 滝野より産す味美なり

牡蠣 浦々より産り

海苔 細平海苔と香の佃子より産り

銅 多可郡の豊前村より

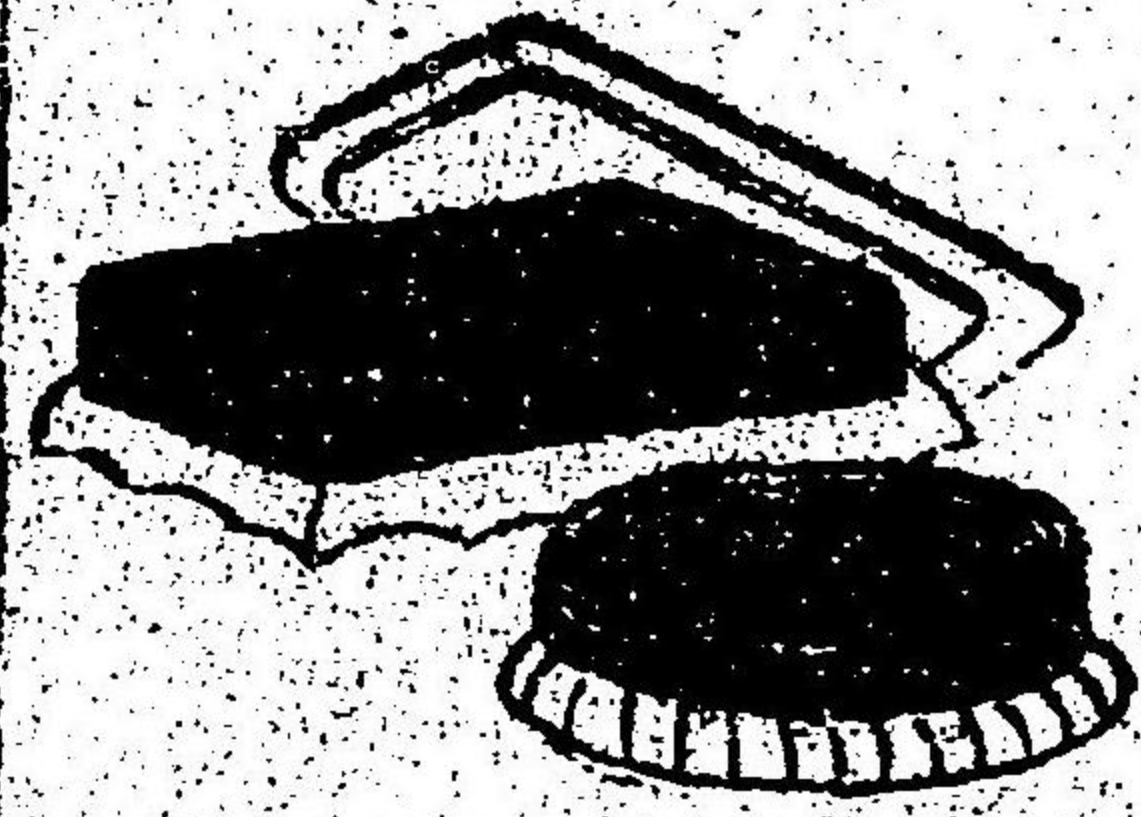
石炭 明石郡の中山村より

美作 十二郡

雲齋織 津山勝山各地より産り

烟草 各地より産り

硯石 高田より出ても高田硯といふ



焼酎 各地より産り

銅 英田郡の川井村より出づ出額凡九千斤

備前 八郡

酒 吾山辺酒造家多し

醤油 吾山の名産なり

素麵 上ノ全ト

陶器 別部焼と唱へ酒瓶藍堂及び徳利など制も土質頗る堅世これと備前焼とソノ

茶 各地より産り

綿 上ノ全ト

真田紐 上ノ全ト

墨表

材木 諸山より産り多く牛鹿等へ出り

刀劍

各地より産ん



海苔

藤戸より産ん

烏賊

牛窓の名産なり

章魚

下津井より出るを佳しん

蠟石

銅

備中

十一郡

紙類

大高檀傘及び小菊紙小杉紙等各地より産ん

生糸

各地より製す

柚脯

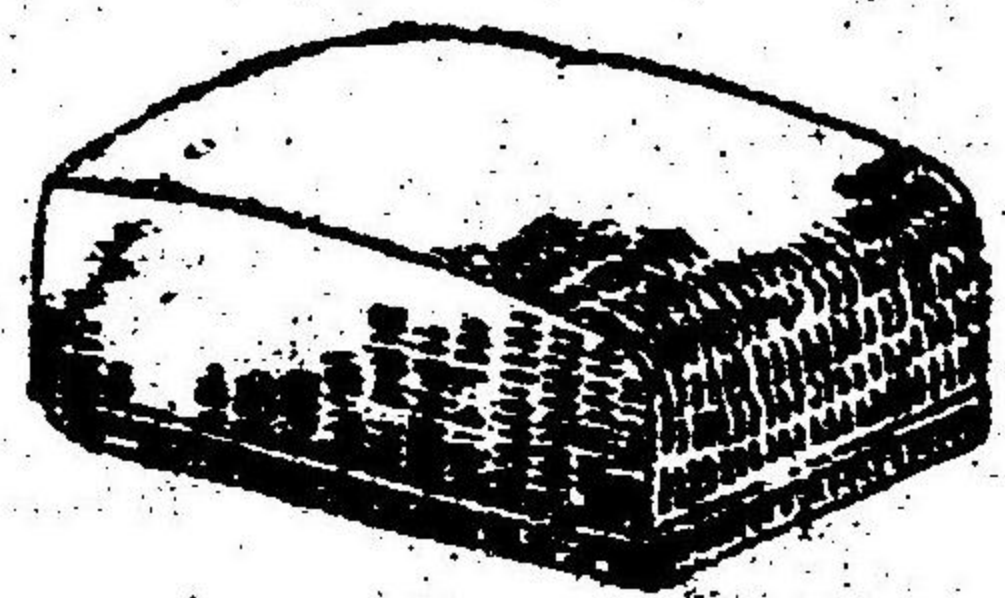
松山の名産茶菓子なり

陶器

大原焼くふ

柳行李

松山より製す



銀

阿賀郡の多治部より

銅

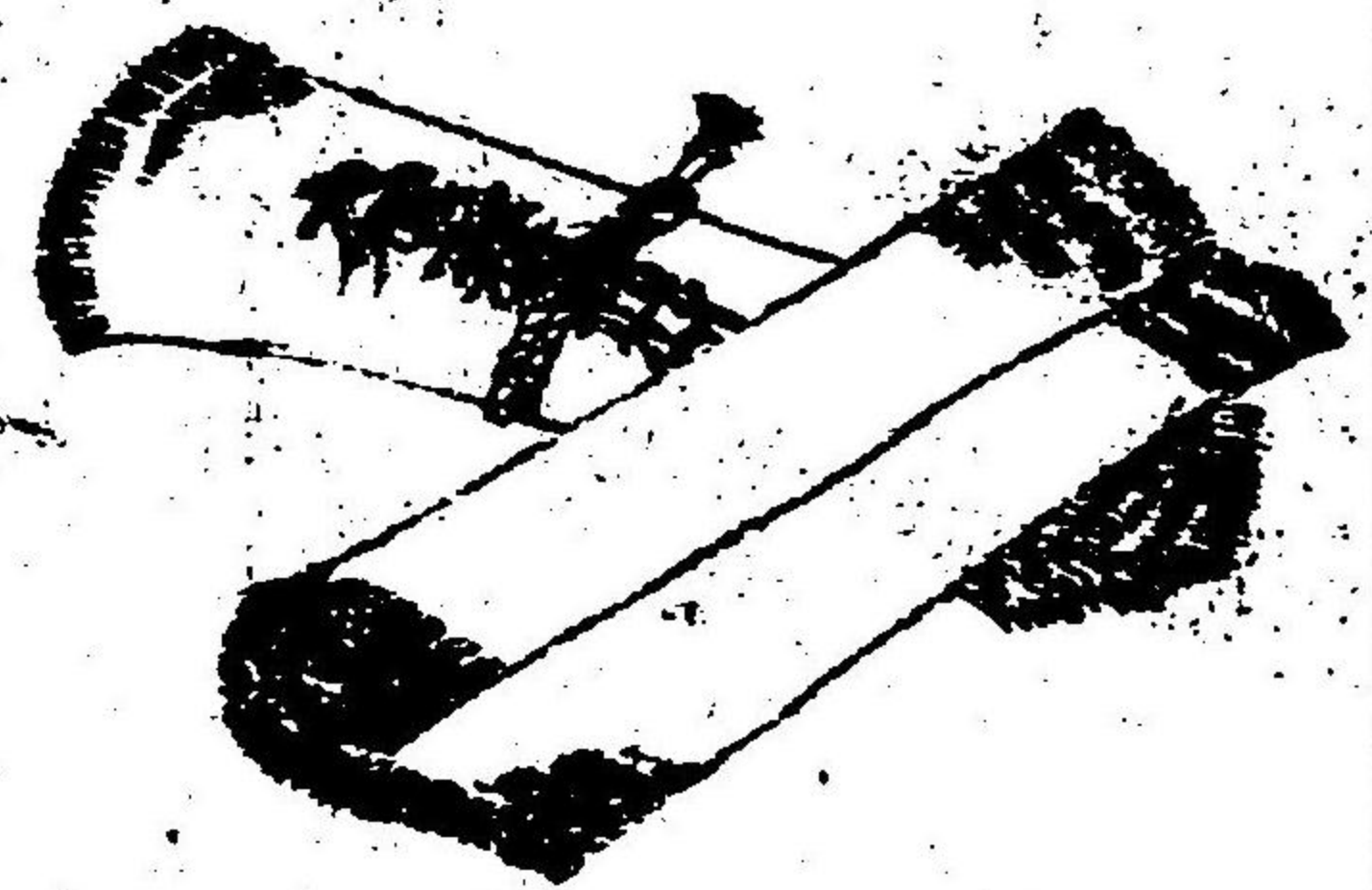
川上郡の吉田北方より出づ出類九七方二千九百斤

備後

十四郡

墨表

上田より東京まで備後集



編笠 鞆より産り

繰綿 各地より出づ

保命酒 鞆の名産なり

盆山石

鉛 御調郡の小原村より出づ

安藝

八郡

紙 諸口迎へて多く製を半依り

紙子 廣島より産り

木綿 各地より産り

綿 上は全ト

細 上は全ト

傘 廣島より産り

木地類 上は全ト

下駄 上は全ト

竹 天野より産り尤も大き竹なり

杉 西条の名産なり

蜜柑 各地より産り三瀬町へ出り

海苔 廣島海苔と稱へ廣島より産り

山葵 新城の名産なり

鯛 野路より産り味甚だ美なり

塩辛 蒲刈より産り味甚だ佳なり

蠣 カキ 沖津村より産する多し

烟草 タバコ 各地より産し

釣藤 ツクシ 廣島より出る

半夏 ハンゲ 上と今下

銅 ドウ 高宮郡の深川村及び名田郡の八木村より出づ

石炭 セキタン 豊田郡の松通寺山より

蜂蜜 ハチミツ

周防 六郡

木綿 モン 各地より出づ

木綿縞 モン 熊毛郡より織り出れる多し

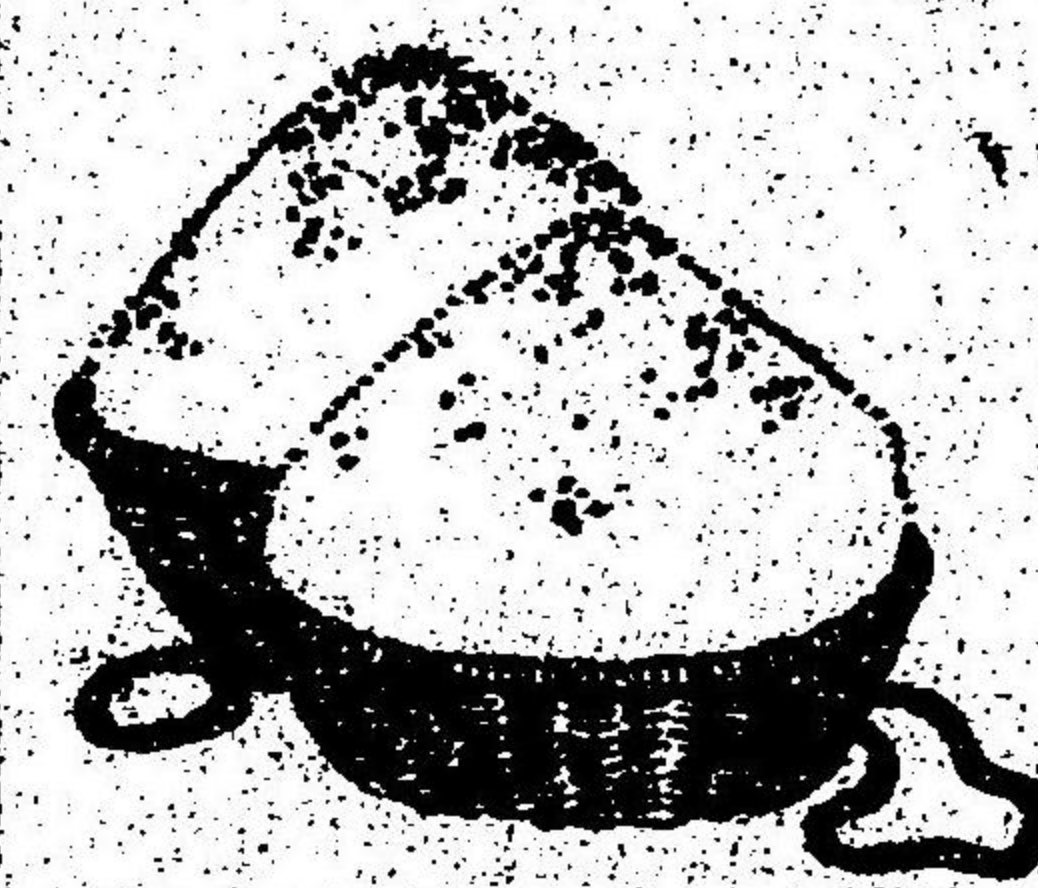
縮布 チヂミ 上と今下

生蠟 キナ 玖珂郡岩目の辺より製し

紙類 カミ 山城半紙と称へ岩国より産す又杉原紙鳥の子紙あり

結塵子 ケツジン 山口の名産あり

塩 シホ 浦々より製し



陶器 ドウキ 佐渡郡より出づ

砂糖 サトウ 各地より製す

銀 ギン

銅 ドウ

長門 六郡

周防長門

三八

木綿 各地より産は

絞鹿子 上は今下

縮布 上は今下

陶器 萩より産は茶碗皿鉢の類上る

竹細工

籐細工

諸紙類

素麺 長府の名産なり

海苔 向津奥より産は

鮑 三島より出づ大なり味美し

鳥賊 塩生より出るを佳し

鯨 吉見川より産は樽鯨と称し

鰈 水中にて獲り捕らるなり

鰻 下の関の名産なり味甚美し

鯨 所々海濱にて捕ら



雲丹 世に雲丹と賣るものハ越前

第一とされども長門より産す

硯石 赤間が関の名産なりて石質

碁石 紫色を帯ふ上品なり

碁石 筋濱の名産なり

石炭 赤木より出づ

緑青 長登より産は

銀

銅

南海道

紀伊

七郡

漆器

黒江産 漆 黒江より産

椀

根木挽し 稱 古昔根木きき
造り 今 黒江より其形

の椀及び折敷
を製出

忍冬酒

和哥山源次郎太夫の製
名を得

油煙

高野より出

傘紙

川根より製

紙子

新宮花井より製

白蜜

熱野より産

藕

沢川より製

墨

太平墨と稱 加茂谷より産

塩

多度賀より産

醤油

湯浅より産

豆腐

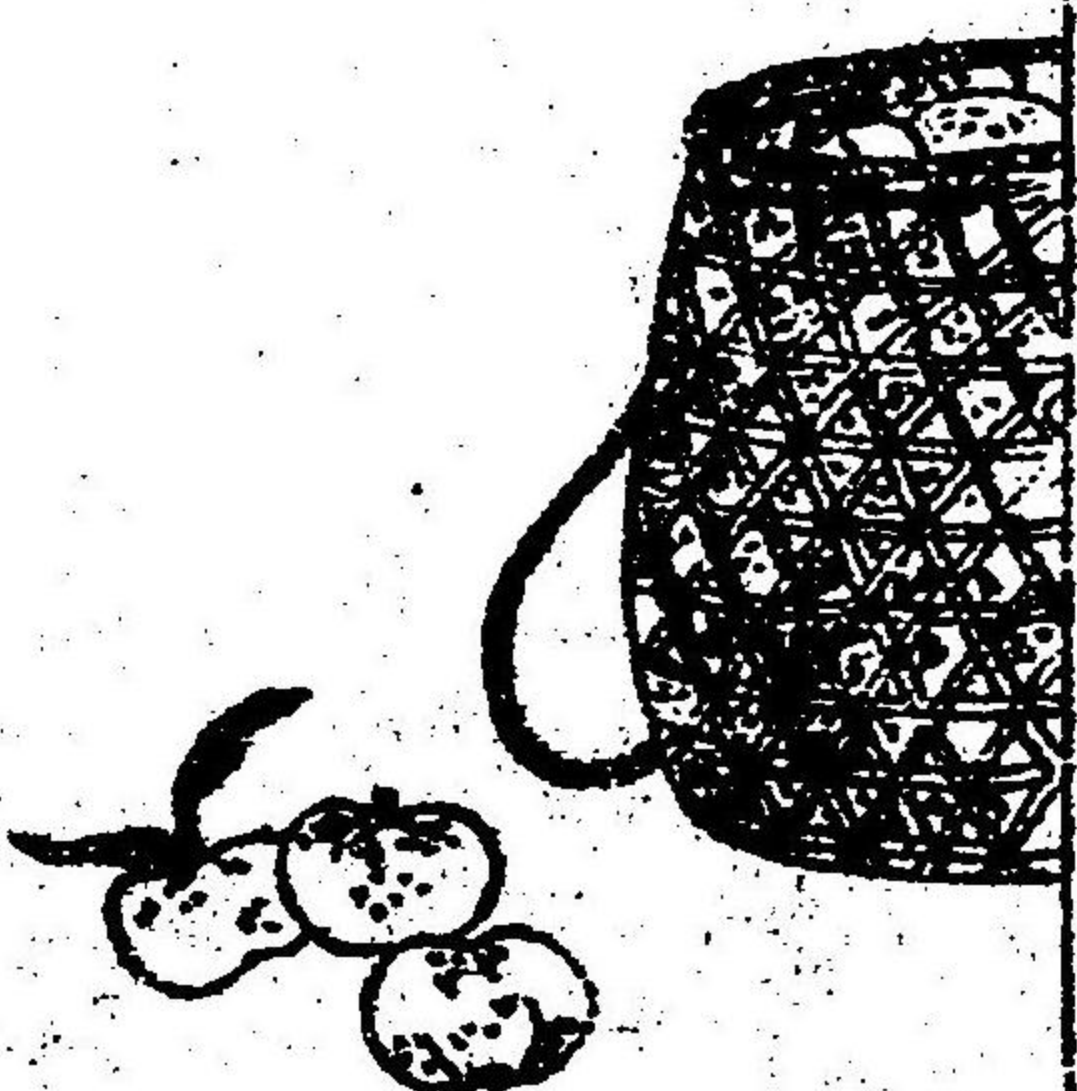
高野豆腐と唱 高野の名産

材木

檜 杉 榎 椎 柳 類多 諸山
より出

蜜柑

有田より産



陳皮

上 今下

岩茸

高野より出

干版

上 今下

紀伊

本

松茸 日高より産する味美なり

陶器 各地より製す

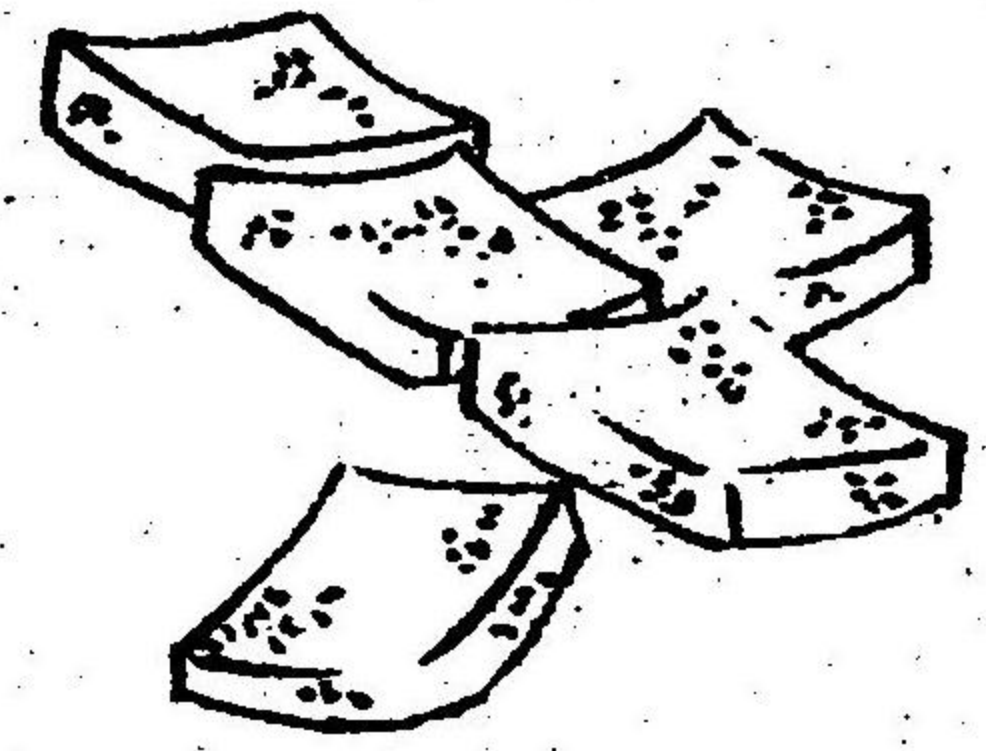
黒砂糖 上は今ト

木綿 上は今ト

絞液織 上は今ト

雲齋織 上は今ト

氷豆腐 上は今ト



蠣 玉島より産する佳品なり

鯨 熊野鯨と唱へ熊野浦より

鯨 木の葉鯨と唱へ和舟の浦より

鯛 上は今ト

鯉 紀の川の名産なり

鰯 有田川より出づるを佳し

砥石 神子濱より出づ

碁石 那智より

庭石 大崎より切り出

銀 日足村より出

銅 上は今ト

鉛 上は今ト

石炭

緑礬 熊野より産

蜂蜜 熊野より産

淡路

二郡

陶器

青海苔

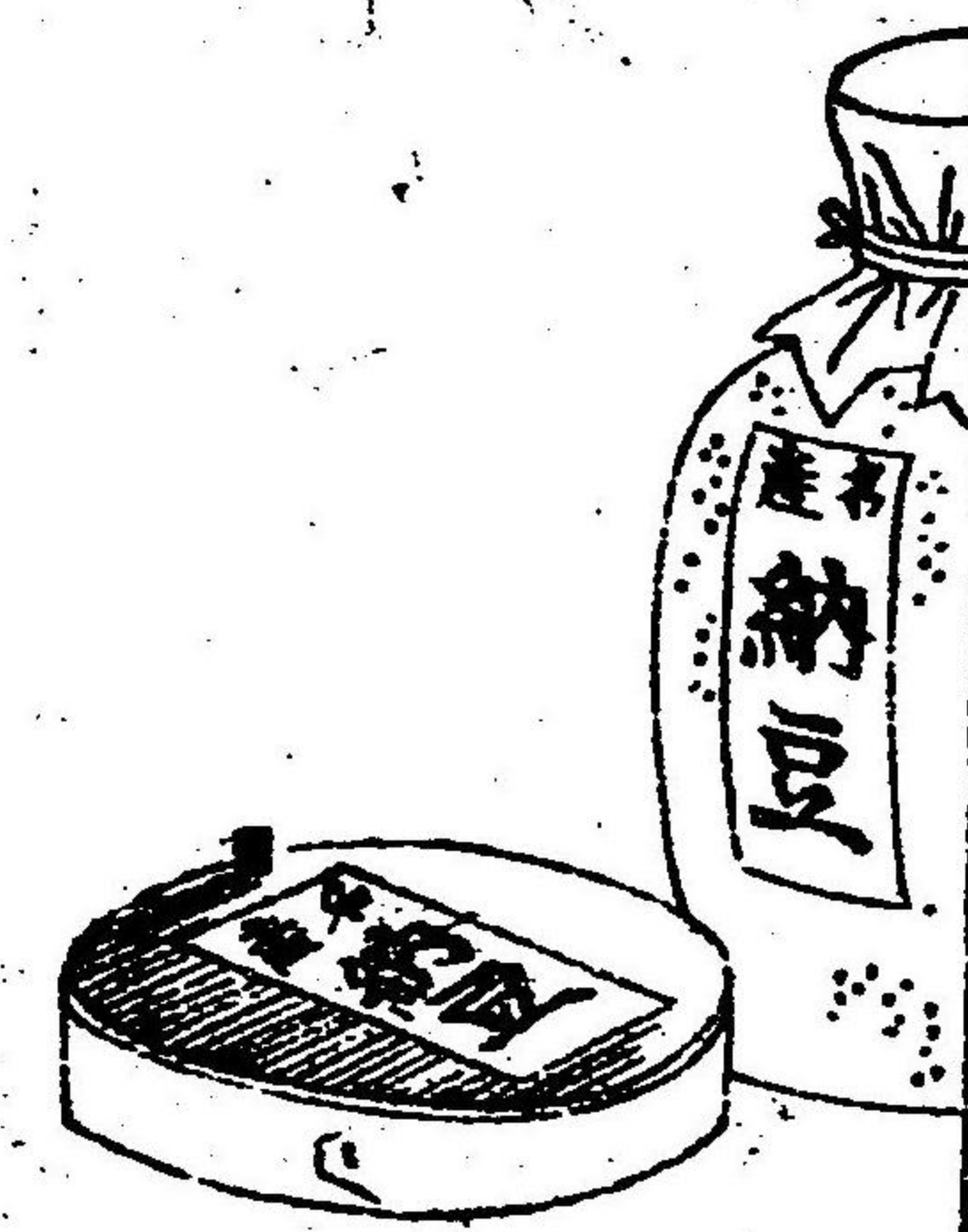
浦々より出づ

塩辛

志保より産ん

納豆

金口の妙唱寺の産なり



木綿

各地に産るれども下品なり

鯛

佳味にて他国へ譽れし浦々

紫螺

海濱に多し

辛螺

上り全ト

石炭

瑪瑙

蠟石

色黒し

銅

三原郡より

阿波

十郡

木綿

各地より産ん

縮織

徳島より産るるを佳しん

鯉節

浦々より製す

砂糖

各地より出ん

煙草

上り同ト

蛤蜊

撫養より産る碁石を作し

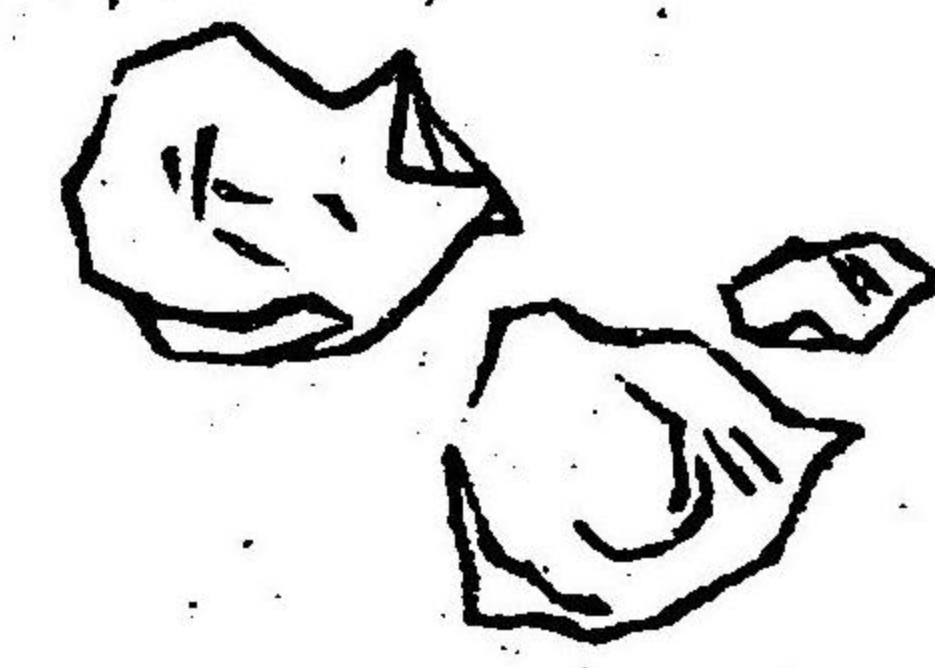
素麵

各地より製ん

藍玉

上り同ト

燧石 火打崎より産る



和布 鳴門の名産なり

銅 名西郡の神領村及び勝浦村の銅野村より産る

石炭 今郡相野より産る

金

銀

水銀

瑪瑙

琥珀

讃岐 十一郡

木綿 各地に産る

白砂糖 上又今下

飴 全以雁飴と称へ高松の名産なり

團扇 高松の産なり

蕎麥 各地にて作る

藍 上又今下

蟹 八島より多し俗説に平家の一門化して蟹と云ふ



讃岐

六十二

前海鼠

小豆島の名産なり

海鼠腸

引甲より産する佳味なり

石炭

小豆島の村々より出額凡六百千六万二千五百斤

伊豫

十四郡

紙類

本書紙仙花紙其他数種有り
上品なり

木綿

各地より産し

高機織

和氣郡より織り出以多し

陶器

塩

浦々々々製し

素麵

松山の名産なり

大豆

大洲より産し

紫草

上り全下

簾

鯉節

浦々々々出以

鰯

宇和島より出づれんとウツ鰯

鮑

御寄より産し故に御寄鮑と



室鱈

同所より産し

白藻

米島の名産なり

蜂蜜

各地より出以

蜜蠟

上り全下

銅

大洲の日出村より産し

伊豫

六十四

棕櫚 各地より

鼈甲

半夏 當國の産と一寺より

土佐

六郡

諸紙類

本書半紙を上品なり

鯉節

土佐節は鯉魚の鱗より産すと一寺より



樟腦

各地より産する実を蒸して其利極めを産す

砂糖

各地より産す

生糸

上と全下

縮緬

上と全下

檜材

白髪山より伐り出さる

檜鏡

檜を以て鏡の柄に用ひて其佳なり世にこれを須久利と云ふ

薄板

野根山より出さる

茶

各地より産す

蜂蜜

由須原より出さる多し

木綿

各地より産す

鯨

浦々より産す

炭薪

各地より産す

蜜柑

各地より多し

茯苓

茶品

五倍子

同上

馬 世に七位駒と云

硯石 元浦より産す

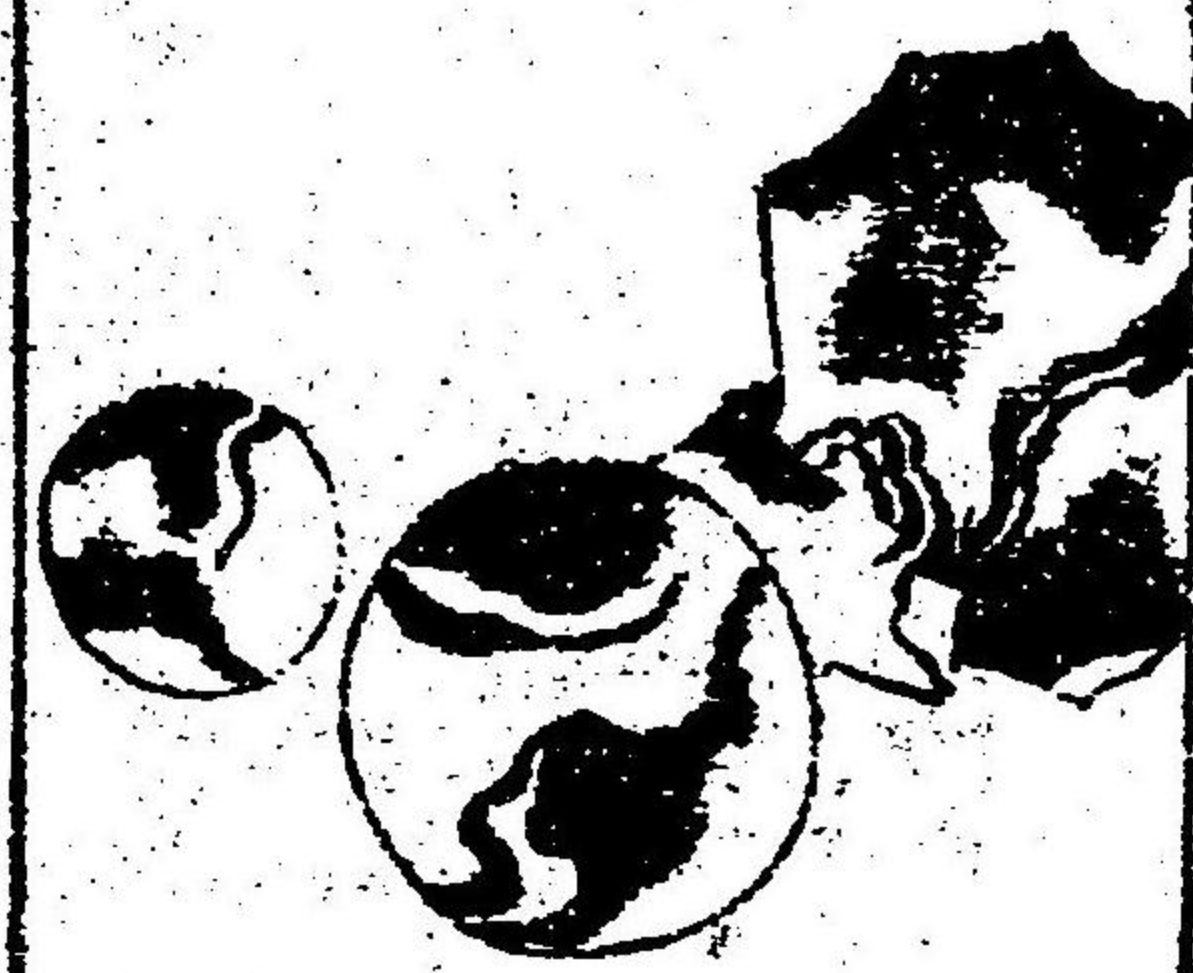
荒砥石 甲浦より産す

銅 土佐郡の本川村及び吾川郡の安房村幡多郡の田の科村より産す

石炭

金

瑪瑙

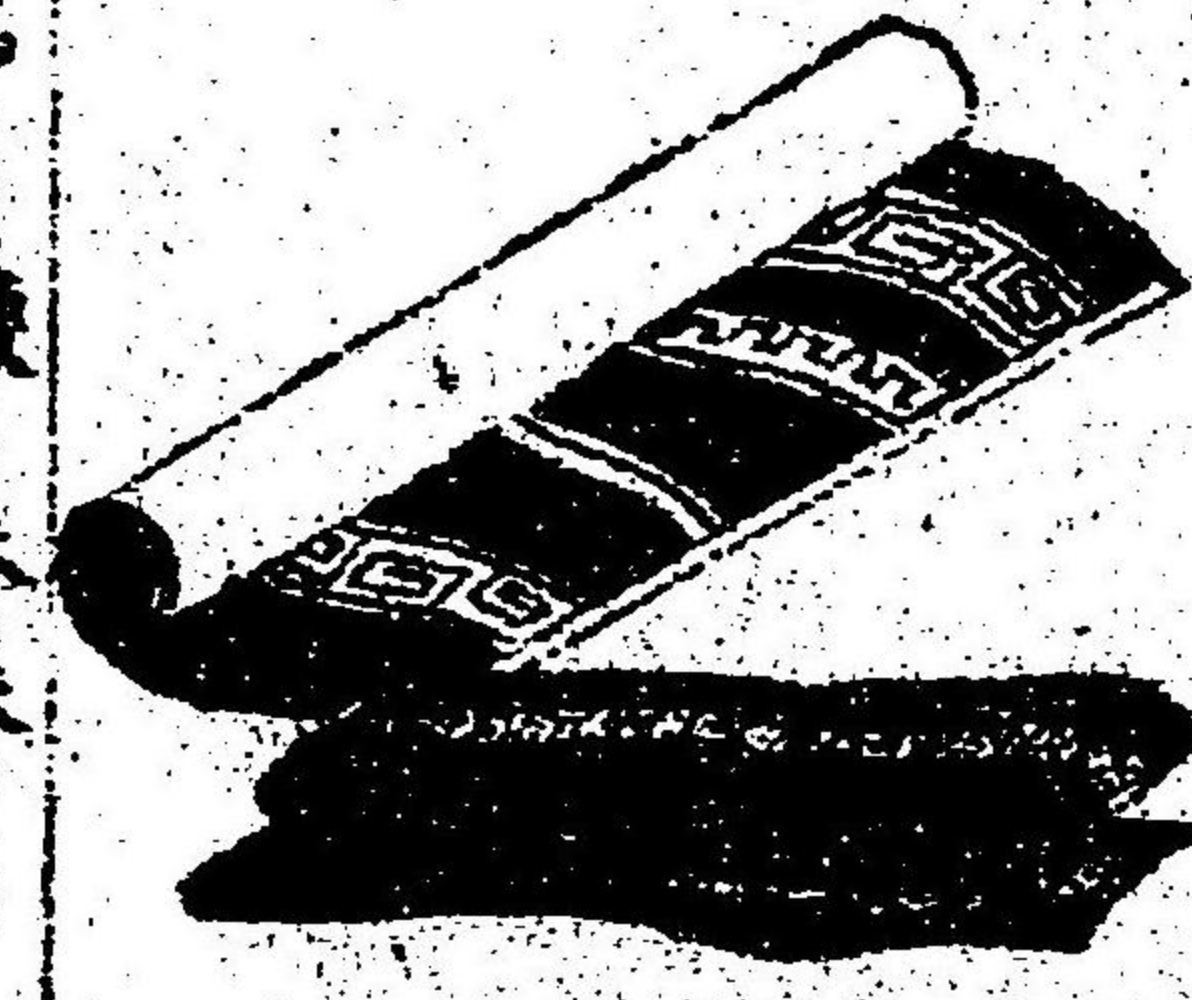


燧石

西海道

筑前

博多織 博多より織り出され産地帯地と産す多し佳品なり



練酒 博多より醸す味美なり

塩 所々海濱より産す

鯨 上は全下

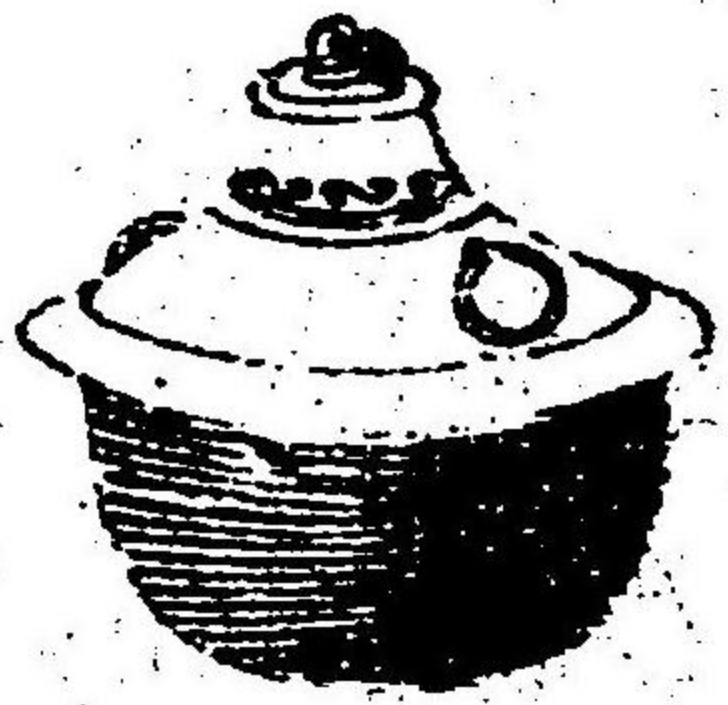
海鼠 上は全下

蛤蜊 上は全下

鮑 鐘水寺より多く出づ

鱈 玉島川の産す

釜
芦屋釜と称す遠賀郡の芦屋
の里より産し



石炭
遠賀郡鞍手郡嘉麻郡穂波
郡等より産し出額凡七千九百
九十四万斤

筑後 十郡

諸紙類
久留米及び柳川等より産
し上品なり

蜜柑
各地より産し

紅花
上と全下

油
上と全下

海苔
高菜より出づ故に高菜海苔と
す

石炭
三池郡箱崎村其他所々より
産し出額凡五千八百五十万斤

銅

燧石

豊前 八郡

小倉織
小倉より織し出額水師
ノ

陶器
石臼の焼しもの

生蠟
各地より産し

茶
上と全下

大根
上と全下 太くも味佳なり

海苔
小倉海苔と稱す小倉より産
し

硫黄 湯の森より産ル

金

水銀

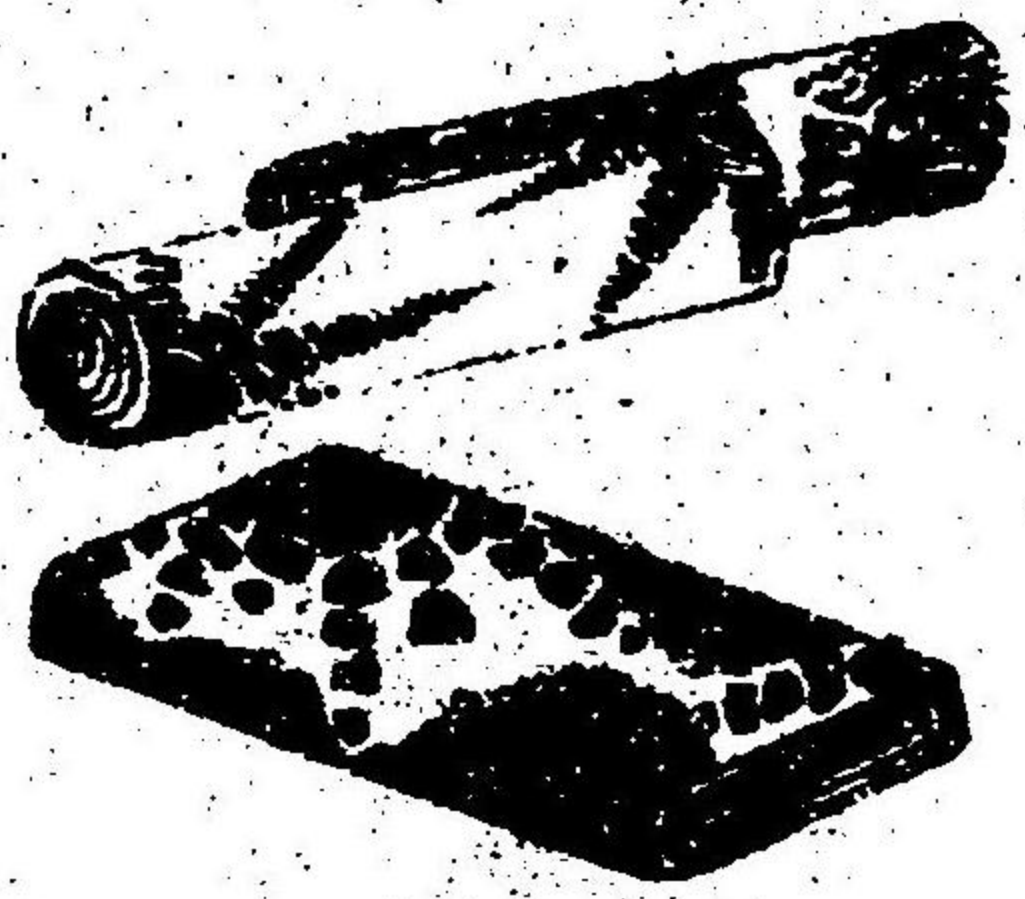
水晶

曲豆後

八郡

絞木綿

紺の使ひ染めをうせしき
絞りとよ



梅

佐伯より花大くて同じ運
せられし豊後梅とよ
麻地酒又朝生酒とよ

酒

竹

中津より産ル中津の太竹とよ

蜜柑

各地より産ル

筆管

嬰粟子

宇智山より

陶器

蜂蜜

各地より産ル

塩

浦より出ル

硫黄

逸見郡より出テ出額凡十五万
十八百斤

明礬

同郡より出テ出額凡二万七千
七百斤

金

銀

銅

鉛

瑪瑙

空

半夏 中津より産ル

釣藤 上ノ全ト

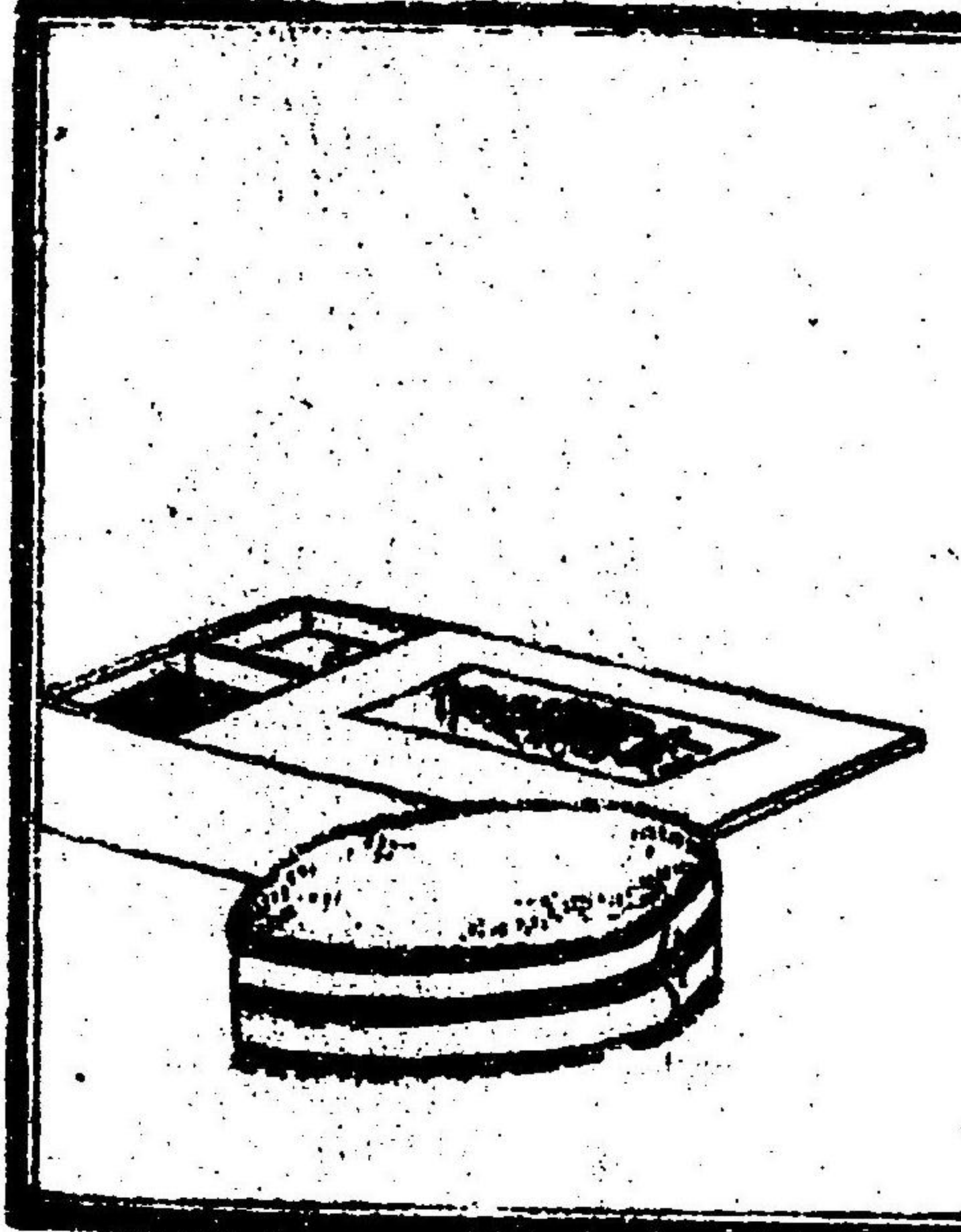
肥前 十一郡

陶器 有田の皿山ヲ以テ製シ世ニこれを唐津焼ト稱ス伊万里等も此ノ類ニ屬ス

新上 品ナリ

疊表 佐賀の名産ナリ

烟草 各地より産ル上品ナリ



木綿 各地より産ル木綿の織物ナリ長壽より産ル

砂糖漬 長壽の産物ナリ

蓮芋 上ノ全ト

西瓜 上ノ全ト

葡萄 上ノ全ト

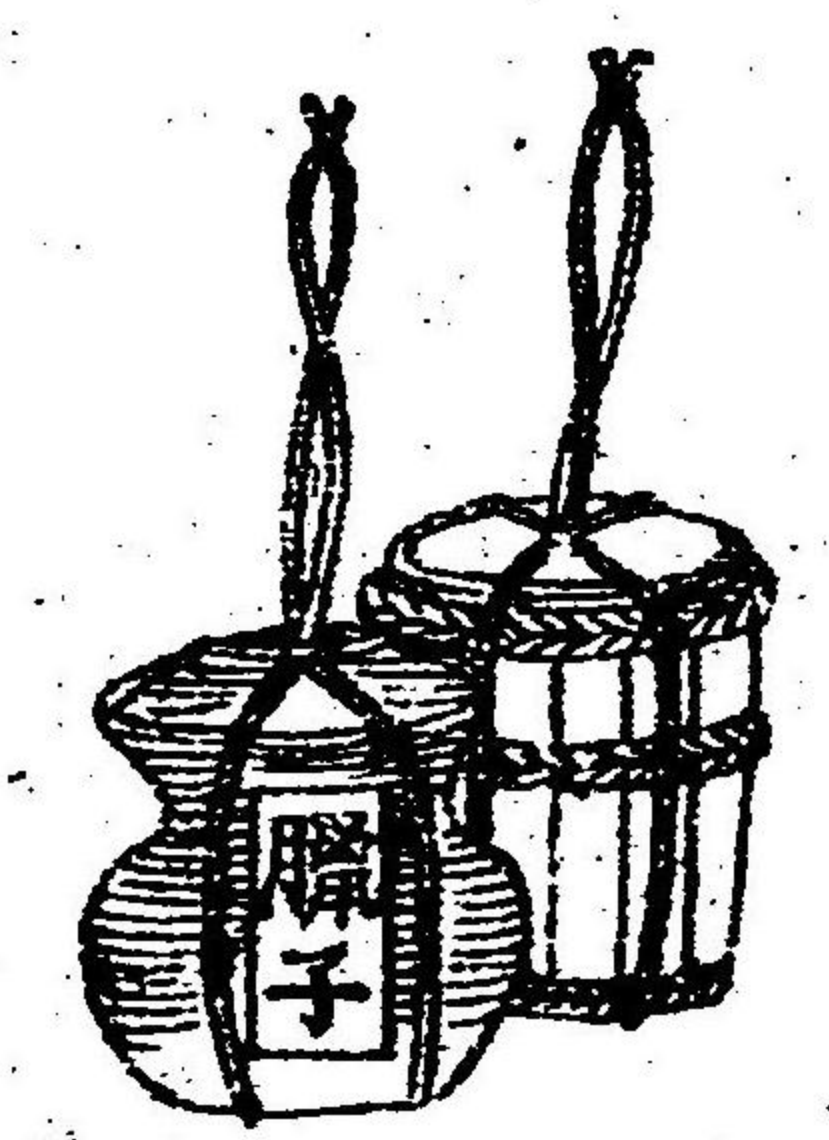
蘿蔔 竹尾より産ル大く長く味美ナリ

鰯 五島鰯ト稱ス五島より産ル味美ナリ

雲丹 上ノ全ト

鯨 五島鯨ト云フ

臘子 野毛より出づ酒客賞スナ



鮑 平戸より産出 鮑魚 四方
一 出 出

海茸 寺井の名産なり

石炭 唐津より産する多し又松浦郡
彼井郡等より産出 今出額
凡一万四千二百五十五万斤 我國の石炭
は此地より第一の佳産なり

硫黄 高来郡の温泉より出 出

明礬 同前より出 出

水銀 平戸より出 出

肥後

十四郡

米

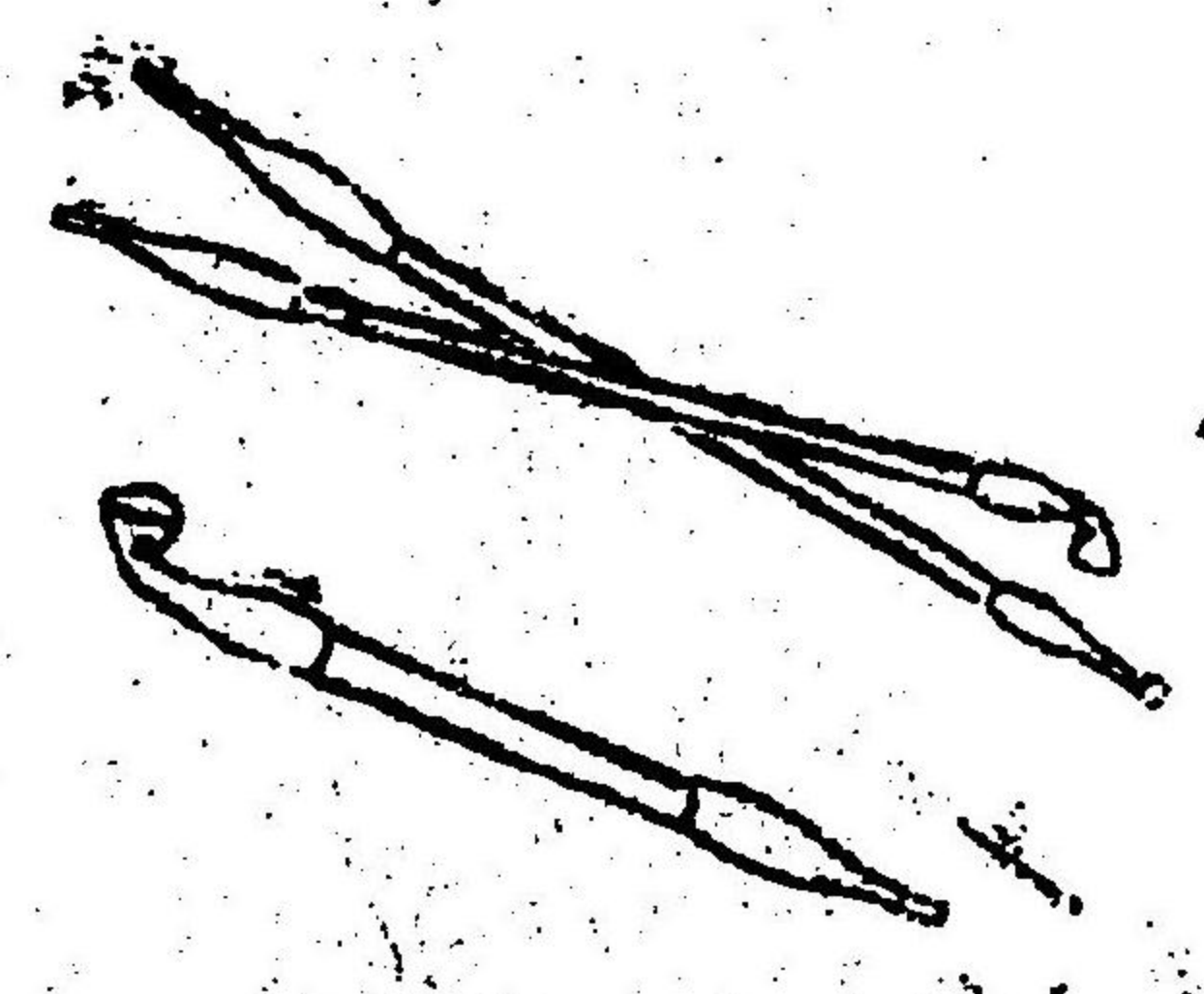
肥後米と稱し上品なり

皮籠

肥後より産 出
相良より製し相良焼と云

陶器

肥後烟管と稱し熊本より
産 出



絞木綿 高橋より製 出

蜜柑

八代蜜柑と稱し八代の名産なり

諸紙類

上 出

烟草

各地より産 出

樟腦

上 出

砂糖

各地より製 出

種油

上 出

油糟

上 出

海苔

水産寺海苔より江津川より
出 出

野大根 久保田より出づ

菊地海苔 菊地川より産れ故に名く

芋蔓 世にれり肥後芋蔓より

砥石 天草より出づ故にこれと天草
砥石

碁石 志岐より産る

燧石 火の川より産る

沙金

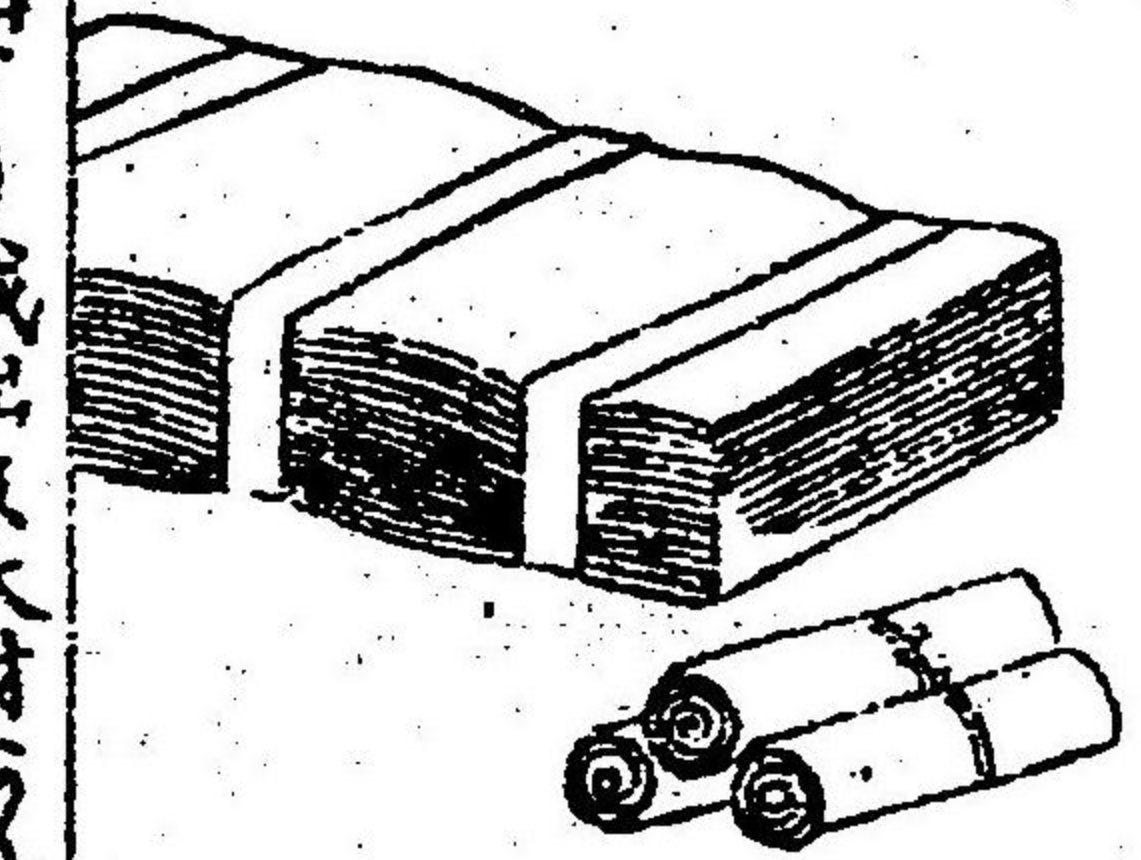
銅

石炭 天草郡より出づ

日向 五郡

樟腦

諸紙類 各地より産る高半切し紙へ
半切し製する最も多し



材木 諸山より伐出れ大材なり

生糸 各地を製る

蚕種 上り金

茶 上り金

漆 米良より産る

煙草 各地より産れ上品なり

舞節 浦々より製る

銅 白折郡の七折村より出づ出額凡
三万三千百五十斤

鉛 全郡上内村より出づ出額凡
六十八斤

銀

水晶

大隅

八郡

生糸

各地より製し

蚕種

上と今下

煙草

上と今下

金

横川郡より出づ

銅

曾於郡の国府より出づ

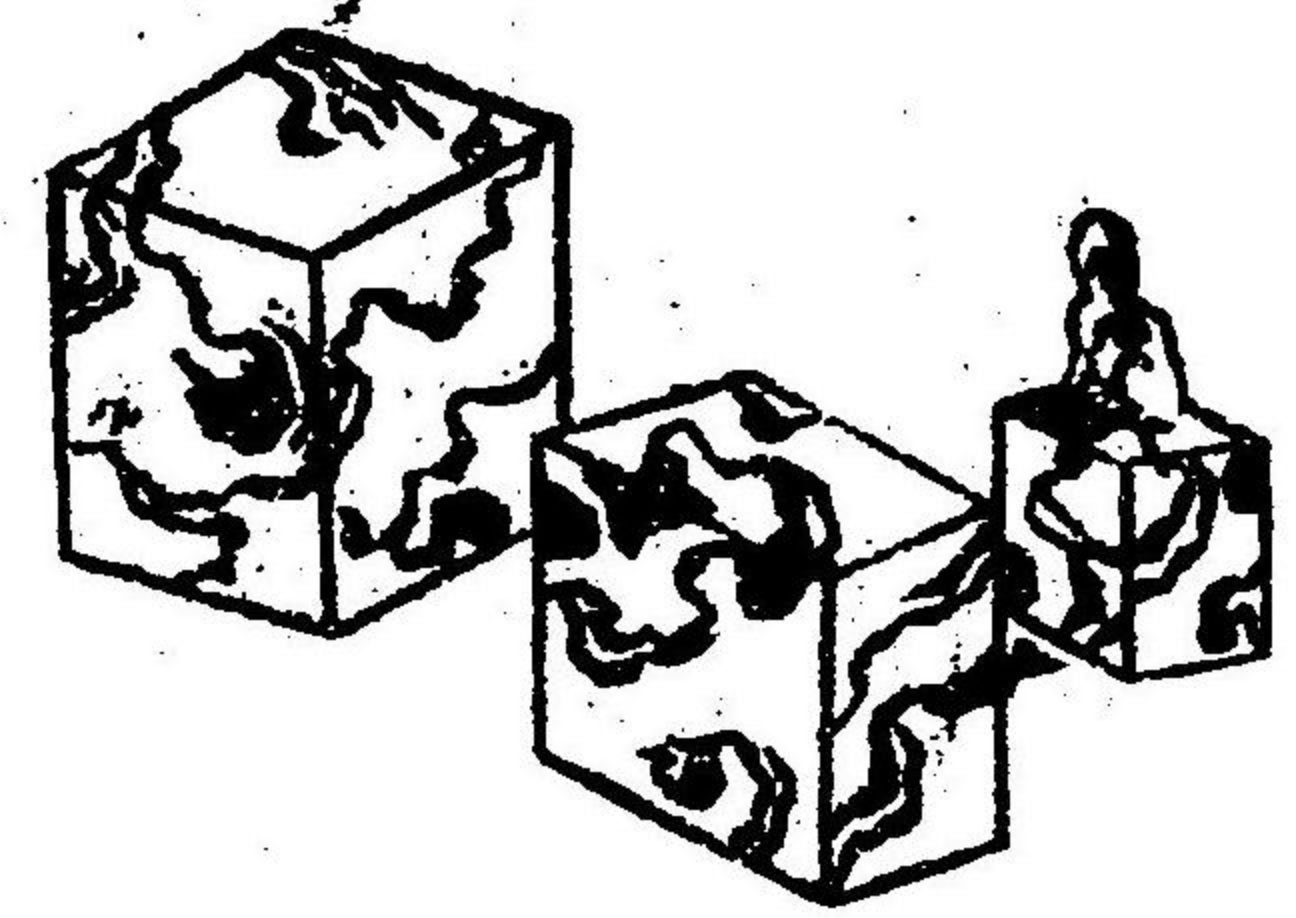
硫黄

取護郡より出づ

硯石

花剛石

蠟石



薩摩

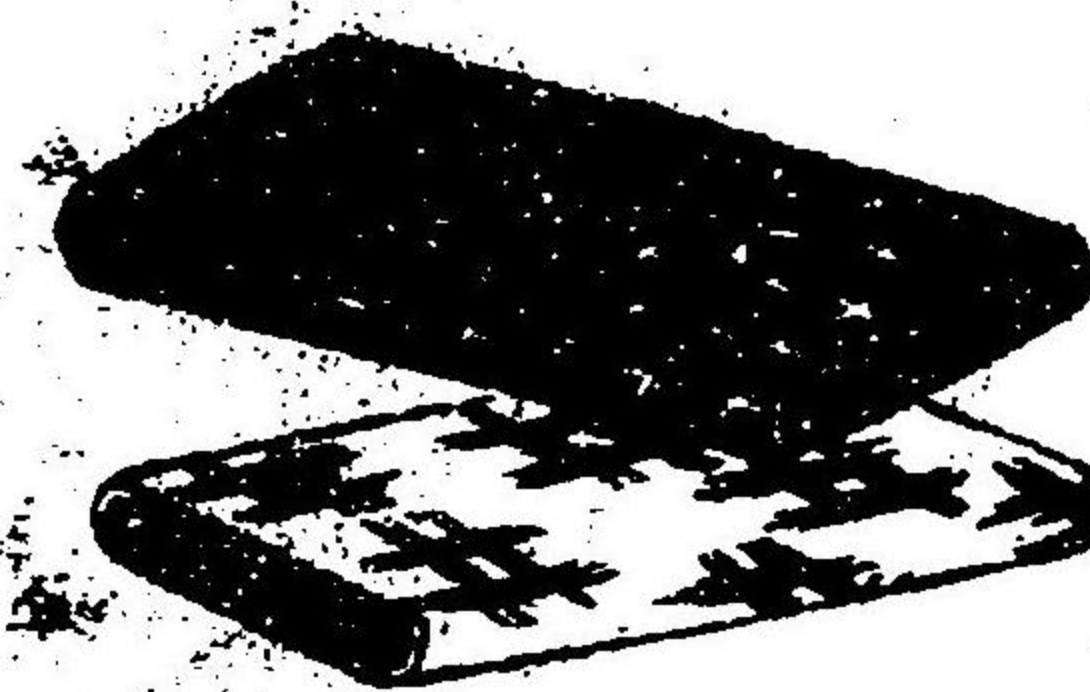
十三郡

上布

薩摩上布と稱し世人最も賞美し惟子と云

木綿紬

其深色色は異なり四方へ産出せり



大隅産

七十二

芭蕉布

烟草 国府より産以上品より

泡盛酒 焼酎より

陶器 薩戸焼、赤、上品より、白

蠟燭 世に薩摩營燭と称する下品多
まづも此地は上品の營燭なり

挽物細工

材木 諸山より伐り出り

樟腦

蜂蜜 各地より産り

蜜柑 各地より産り

馬 河辺郡の鹿等郷より出づ

金

銅

銀

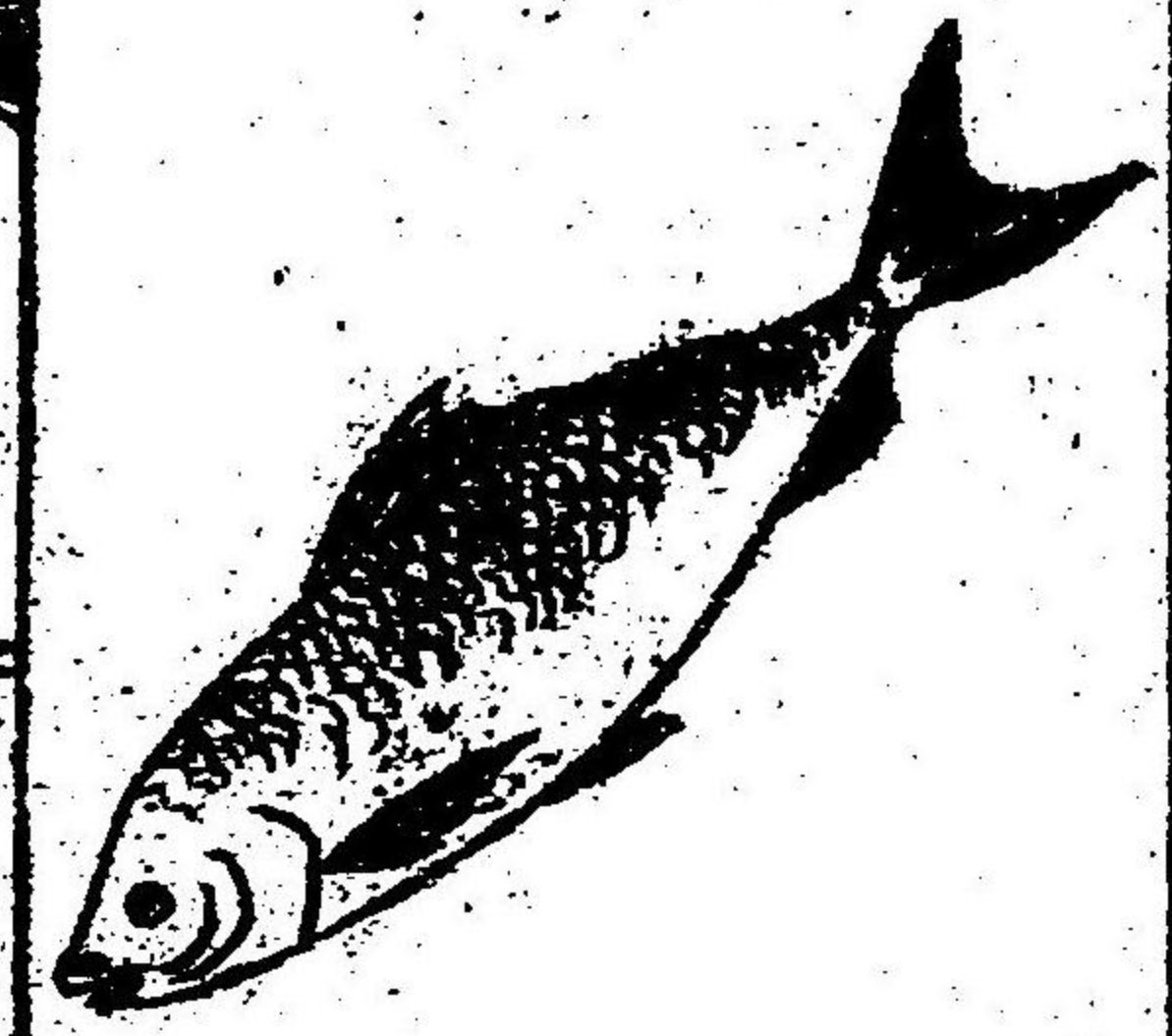
鉛
水銀
硯石
石炭 其他礦物多し

壹岐 二郡

綾布 各地より製す

雲丹 浦々より製す

鱒



鱒

七十三

鯨

花紋石

紫土

對馬

二郡

陶器

上呂よりびにれり古雅なり

椎茸

鯨

浦々より出づ

鰯

上ノ全ト

煎海鼠

上ノ全ト

銀

砥石

水晶

琉球

砂糖

北部の諸島に於て多く製す

烟州

各地に製す

泡盛

首里よりこれを製す家四戸あり



紅酒

南部諸島に於て製す

紬

上ノ全ト

上布

上ノ全ト

芭蕉布

首里の産と上品なり

對馬琉球

木綿 沖繩姑米惠平屋南部諸島
てい製をれど内地へ製する
と佳し

生麻 南部諸島より製す

蠟 姑米島より出ん

硫黄 島島より多く沖繩島より少く産

石炭 沖繩島

鐵 上り全ト

硯石 惠平屋より出ん

磨石 上り全ト

蠣石 上り全ト

銅 大島より産ん

米 姑米島八重島宮古島ホム多
くく貴人の食より薩州より
琉球米と云ひて
下品とす

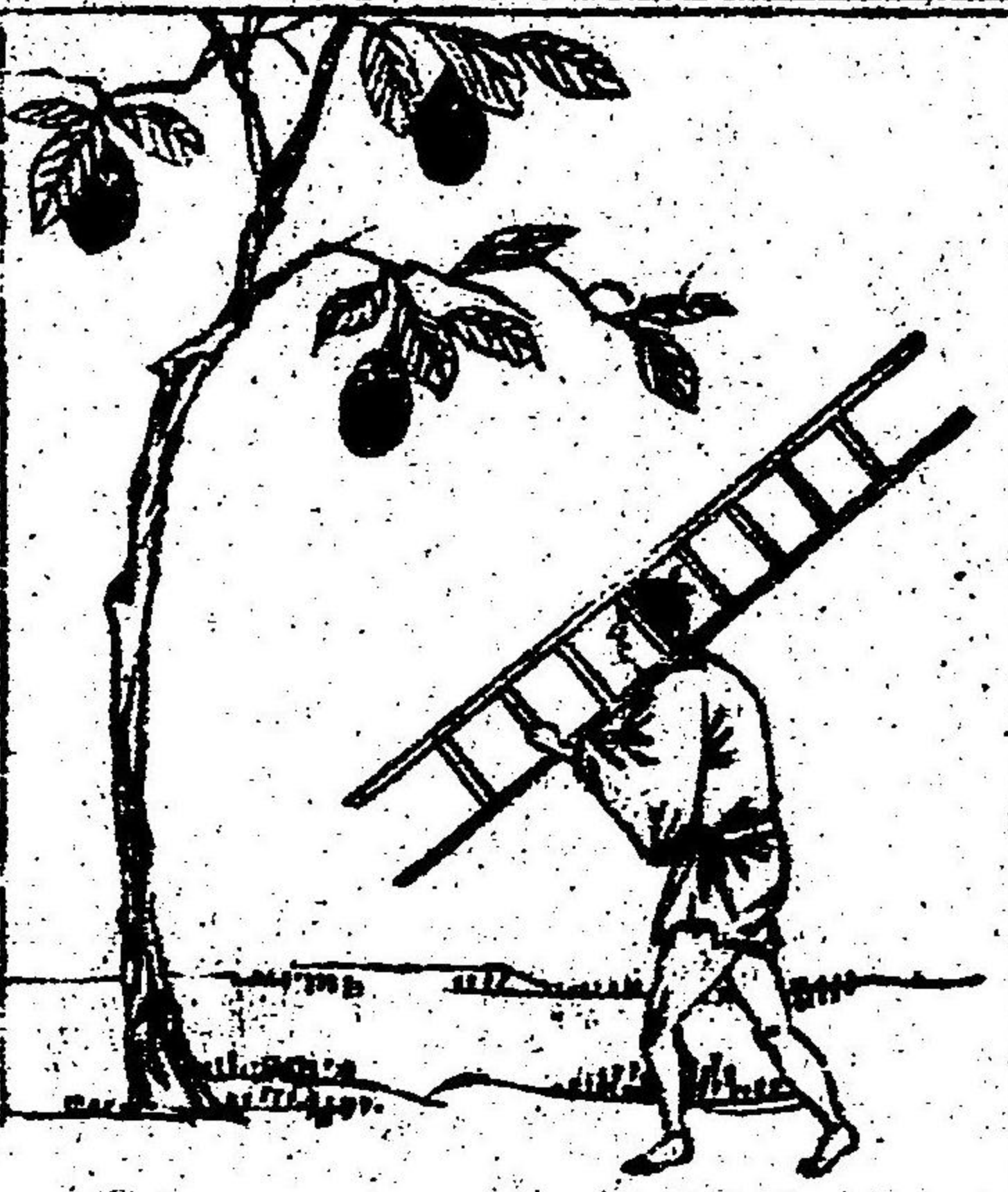
落花生 諸島より多しと雖も徳島
ハ殊より多し

薩摩薯 諸島盛んに植て日用の食
とん

琉球薯 薩摩薯の一名なり

甘蔗 諸島より多く植ると之より大
島ハ尤も盛んなり

茄 此島の茄の樹は高く高さ丈余
日及び終年実と結ぶ大を西瓜
の如く階子で用ひて
これを取るなり



蘿蔔 上り全ト長三尺周圍二尺
及よりのなり

西瓜 上り全ト味美なり

蕨 諸島の山中より大なる本あり
土人の薪炭として用ひるの産

松露 土人の薪炭として用ひるの産
と佳し

海帶 久高より出ル

檜 木理堅密、良材なり、鬼界島、腕泊、産するを佳し

阿旦 諸島より出ル

阿旦布 諸島より織り出ル

馬 多毛の名産なり

鹿 久高島計、羅摩島より多し

佳鮓魚 久高島の産、上品なり

珊瑚 八重山より出ル

松紋 上品なり

滑石 鬼界島より産ル

白金 上品なり

漆器 朱塗と上品、婦人よりの製、男子よりの画と入る

先嶋織 南部、諸島より織り出す、即ち上品なり

薩摩餅 薩州人の琉球餅と云

棉紙 諸島より製ス

清紙 上品なり

護壽紙 紙中、上品なり、その紙

日本物産字引終

よ在て害を避まんよるよるよる我ら
腹中よ貯ある一所の墨を避て其身
と隠るりのをり

烏賊の黒漬

これハ烏賊よ煮て塩よを交て漬
けよるりのをり

鱒ノ粕

これハ鱒より油をとりたる跡を精
えん若養物よまよりのをり

鑄物

鑄物ハ鉄又ハ青銅を火中よ溶
鑄よ注入して造る諸物品即ち銅金
の類をいふをり

糸織

糸織ハ絹の糸糸よ織りよるりの
よて黑白島よ色あり

和泉石

これハ其質硬くよ白片其他の
よ連りよたよる

碧青

碧青ハ諸山の石屋の上よ生る大石
本取の如く米り曝し遠く晒

硫黄

硫黄ハ石の下よ伏生よるりのよ其性大
熱よこれよ産る近傍よ火の温泉のよま

車渠貝

帆立貝とよふをり

○ろの部

緑青

緑青ハ銅坑中よ生し画エこれと以て
緑色と彩るりのをり

緑礬

緑礬ハ礬石と煎て製しよるりのをり

○はの部

針

針ハ鉄よ造りこれよ糸を通し衣
類其他のものを仕立るる用のをり

花鹽

花鹽ハ塩と小よ花梅の花の形よ焼
きよるりのをり

沙魚

沙魚ハ魚の干し物

沙魚の形色鱗は似て小く細き鱗
なり頭大口潤く腮大く眼止る向
ひ秋は至ると海又海近き川は群行
をるりの多し

半紙

半紙は楮の木の皮を取て製するもの
又西洋より葉又ハ古切として製そ

八丈絹

八丈島の上入山繭と以てこれを織る甚
ど強く其色年を経て変るる

箱根細工

湯本に於て造る所の枕物おもて
箱根細工といふ

八反織

経緯とも絹糸を以て織りたるもの
して地合厚く其量並の反物の八反より
多と以て名といふ

光絹

絹の尤も上等なるものを光絹といふ

蜂蜜

多くの蜂一隊とて一毒の多き草花
と来て之を蜜をりりく又木の枝又

ハ木空に作りりりくと木密といひ土中
に作りりりくと土密といふ

半夏

この春苗を生す其葉竹に似たり
秋の末に至ると其根の塊となり
と半夏といひ其色の白きとあり
佳といふ

鼻紙

きへて小蒲紙に糸紙をかく称する所
の糊多く軟くして小判をりりりといふ

白蠟

漆の木の実に蠟を製し又再ひこれと
製して白色なりめと白蠟といふ

蓮芋

蓮芋は状ち根芋の如くして茎は孔
なれども蓮の如く糸をひいて味は
又和して食用しとて又其根は硬
くして食ふべからず

芭蕉布

芭蕉の成長して三年に至るとの
ときより煮て五六日の間流水に漂し
置き後其皮肉の糸を繕して織る
これと芭蕉布といふ

博多織

博多くしらの地より織り出し唐織にて男女の帯に仕立用ゆるものなり

蛤

蛤の其形状栗の実に似て外色は紫の斑ある貝にて海中に生じ食用とす

蓮藕

蓮根の池沼水の泥深き所に造るものなり六月頃紅白花を開き其根は長く節あり又其節は空の穴なる水葉あり

○にの部

人形

人形の土又ハ鋸屑と糊とを圓の人物と造り上ハ胡粉を塗り彩りてりて小兒の玩具物なるものなり

胡蘿蔔

胡蘿蔔の其形は大根に似て細く長く色は赤くして味の甘きものなり

錦繪

錦繪の草花人物など美濃に彩りたるものなり

人參

人參ハ自然生のものあり種生のものあり共ハ春苗を生じ其葉五葉中心は一茎を生じ粟の如き花咲く其葉ハ糸の如く其色ハ紫は白色と帯ハ秋に至て実をひきびきの根を掘り薬用とす

鯢

鯢ハ状ハ鰻の如くして口は眼大くして赤く軟きを鱗なりて脱易く其色ハ蒼碧なり肉白く脂多く細き刺あり冬より春に至るまでこれをとりて鯢干し四方に販賣す頭尾ハ田圃に培ふ

庭石

庭中を往来する為ニ配列せる石とす

忍冬酒

忍冬を加味し酒とす

新田絹

新田の地名より此地より織出以絹のことなり楮絹の條を参らん

ほの部

には

乾瓜

干瓜ハ瓜と細く切りて日よ干し
るものなり

干飯

精ハ糯と飯を煮て晒し乾し粒を挽き
頭末と去り中等的物と以て食用に供は
るものなり

庖丁

庖丁ハ鉄ノ刀金とを合せて造り木の
柄を嵌め食用品と切るものなり

干鯛

干鯛ハ鯛を日よ乾しるものなり
培養物もそのものなり

盆山石

盆山石ハかざり所の土色なる石
なり

干大根

干大根ハ大根を長くしたえハ小さく
切て日よ干し上るものなり

干鮑

干鮑ハ貝と去り其肉のみと日よ曝
し上るものなり

干鱈

干鱈ハ鱈の腸と去り遠方へ送る
為に乾し上るものなり

保命酒

保命酒ハ味淋製の元も濃く甘き酒
なり

奉書紙

楮の皮を糊と多く加へて厚く大判に
漉き上るものなり

帆立貝

帆立貝ハ其殻黄白色なり又紅
班を帯ひ上るものなり其片は扁く
蓋の如くこれと帆の如く立てて風
乘しく海中と游行するものなり

○ハの部

紅

紅ハ紅花の汁とより灰汁とを以て
燕脂と製し婦人の面色を飾り
す其他帛布と漆や菓子等と
彩るものなり

丝瓜

糸瓜の春苗を生じ蔓を木竹に懸
七八月頃又至りて黄き花を開き其
実のされりて竿の如く下へさかりて
二三尺の長さに至るものなり

鼈甲細工

鼈甲を以て笄櫛及び其他のもの
を造るものなり

榧目細工

木又竹とてしきを造るものなり

紅花

紅花の初を嫁く菊の如き葉と
生れ食ふべし又六月ころより至る
大菊の如き紅花を開く露を
采りてこごと糖を搗り丸くし
出さるものなり

○との部

豆腐

豆腐大豆を破りて煮糖を去り
加えこいたて糖を去るものなり

砥石

砥石のきよめての刃物を磨く為
に用ふるものなり

常滑焼

常滑とよ所より造る陶器を
常滑焼と云ふ

心太草

心太草の海中の沙石の間より生れ高
さ二三寸状珊瑚の如く紅白の二色
あり又枝の上より細なる齒状の沸湯
とくひて泡沙を去り酢を加して食ふ
べし又乾て遠く餽るもの水は煮
型は流しに食用と云

坵炭

坵炭の煤炭の種類としてその原質
は植物より変じたるものなり
薪に代るものなり

銅器

銅器の都て銅を以て造る所の品物即
ち銅茶壺おとんかん

木賊

木賊の水辺より生れ真直に葉生れ中心
空しく寸々節あり冬凍ると干し
て諸物を磨くは用ゆ

桐油

桐油の厚き紙に油を引き用紙の如く仕立兩中より着用せらるるなり

馴鹿

馴鹿の状鹿に似て角なしともみ

燈油

燈油の某種より作りたるものと尤も上品と云

刀劍

刀劍のこぶて鉄と刀金とを合せて打立たるものなり

○ちの部

縮緬

縮緬の糸を紡て織り縮あつく伸まじし直は元の如くせらるるなり

縮布

苧麻を以て織り細緻なく絹の如く暑中の衣服とせらるるものなり

陳皮

蜜柑の皮を日乾し

茶

茶の野生なり種生りとも共よその芽と摘みこれと製して飲料として飲ぶは實証せらるるものなり

○りの部

林檎

林檎は其樹梨を以て三月頃紅花と開き実も亦梨の如くして固くその味の酸く甘きものなり

琉球表

琉球表の薔草を以て編みたるものなり臺表中の下口をそのものなり

○ぬの部

漆器

漆器は膳碗その他を以て漆を塗るものなり

塗箸

塗箸はおもは竹を削り漆を以て塗るものなり

縫箔

ちりぬ

金銀赤及び青紅赤白等の糸を以て紋房又は草花等と布帛を縫するものと縫落と云

塗盆

塗盆は田盆角盆等の漆を塗りしものなり

○おの部

織物

金襴純子天鰯絨縮緬等の反物と云んで織物と云ふ

白粉

白粉は鉛と製して造る婦人客飾の具と云ふものなり

腮内臍

腮内臍は魚類等れども全体毛りて頭は猫の如く口尖り眼鼻あまたも耳は口小き穴らののみ尾は金魚の如く土岐なり又其毛色は鰯の如くかして黒く手足はくく尾の両腋は黠ろく宛と足の如きものなり

○わの部

蕨繩

蕨の根を掘りこれを撻て麩皮と云り肌皮と以て繩を作りしものなりと蕨繩と云ひ数年雨水の中より取りしものなり

綿

綿は古休草の実より出るものを取て攪車と以て子と拔き去り手強よかたて制るものなり

和布

和布は海中の石を附て生するものにして畧昆布に似て薄く食用しん

蕨餅

蕨の根を掘り撻きさらし粉と云り以て粉状に造るこれを蕨餅と云ふ

蕨

蕨は三四月頃山間を芽と生す葉は中快く鼈の脚の如く此葉長ければ雨く鳳尾の如く花の如く其葉は食用と云其根は粉と云く又食用しん

黄蓮

黄蓮は其苗茶の木に似て冬も爛まび五月頃黄き花を咲き七月頃片の手の如き実を結ぶ葉草なり

山葵

三月頃古根と種まき四五頃落又
の葵に似る葉と生七八月頃穂と出
黄白色の小花と開く此根ととりて
又の膾オを加へて食ふりのなり

椀

椀の飯と風力の器より木とくりて
形と造り上と漆と塗りたるものなり

椀木盆類

椀及び盆類の木地とソノなり

鷲

鷲鷹に似て尤も大く力強く鷹と
より大なるものに至る、椀又の小兒と
取り食ふりのなり

○かの部

蕪菜

蕪菜の畑と作る草草より根と葉
も食用とさるものなり其味の甘さ
りのなり

合羽

合羽の木綿羅紗より羽織の如く

仕立前と合せる様より胸中より
着るものなり

紙

紙は皮と楮の皮と製して造り又西
洋より古切オと造るものなり

樹

樹の種類尤も多けれど何れも六月
頃小白花を開き実と結ぶ其色青ま
り多し熟ると後には赤くなり
其味は次第に甘くなる山果なり

干瓢

干瓢は大豆の皮と細く長く干して日
を乾かして作るものなり

鱈

鱈の其身長く頭小く口尖り脊黒く
腹白く両眼は近く上と並ぶる海
魚なり

紙子

紙子の莖莖の根の糊より厚紙と後
で漆と引き足る踏み手とを揉
み軟く衣類は仕立て着るものなり

傘

か

傘の竹と骨と違ふ上より紙と葉と
機く桂油と云ふ雨の中より用ゐるものなり

カヘス

カヘスの類も食用とステと
遠くも能る

釜

釜の鉄の鑄物とて電でかき飯と煮
きりのとらるるものなり

牡蠣

牡蠣は海中の岩石に附て生し其形軟
岩の如く一房と云ふ肉はよく食用と云

柑子

柑子の蜜柑の類も其実と又蜜柑と
似し小く皮薄く味は酸く昔は果物のなり

鯉節

松葉即ち鯉と云ふ魚を切つて煮て干す
肝の置と食用の品はかゝるものなり

海氣絹

海氣絹は船米品と云ふ今ハ竹田
と云ふ織り出し其色赤く白く其
糸上品と云ふ地合薄くものなり

甘草

甘草は葉根ともは穂は似て高さ五
六尺八月頃梨の如くして紫色の
花を開き冬と至りて実を結ひ昔
と云ふ本草なり

干姜

薑の根と云ふ細末と云ふ
ものなり

貝細工

種々の貝と種々の形と種々の品物と
造るものなり

鯉

松葉ハ其形は鱗を以て木や嘴米の鱗
と其色は月黒く光りたる海魚なり

川越平

川越は織り出しのよて夏袴はよ
仕立と云ふものなり又よて袴と云ふ
袴のよて織り出しのよて平ものなり

雁

雁ハ形は鴨に似て大く足短く時ごと
く居と代へ春と北へ去り秋と北より
来るものなり

蚊帳

萌黄色の目の粗き麻を以て四角に仕立家の中を釣て蚊を防ぐものを云う

苜安

苜草の山谷に生じ葉竹に似て細く薄く茎は固くして小く煮て黄色に染まらば極めて鮮好を漂草を云う

剃刀

剃刀の鋼鉄を造り毛髪を剃るもの

蚕種

繭を取てこれと収めおける半月の繭の中を蛹へ成るまで出づれば紙のヒヨコ故に印と成り遺して蛾の死をよれと蚕種を云う

片栗粉

片栗草の根を掘りて削り食用を云う

蒲筵

香蒲の水際を叢生し其形莞に似たり其の根を削りて干して席を織りしる敷物と蒲筵を云う

瓦

瓦の壱を以て形を造り窰に入し焼きて屋根と葺くものなり

革細工

獣皮を製して種々の品物を造るもの

傘紙

傘を張る所の面の内紙を云う

蟹

蟹は池沢に生じ其性躁く常は泥を吐きニの蟹ハツの足と以て蟹横を走るものなり

皮籠

皮籠革を造り諸物を入る為用もの

花紋石

自然花紋の石を云う

搗栗

搗栗の栗を搗き乾し白く搗きて殼を剥き去れ其色黄白色となり硬く其味は甜くするものなり

厚朴

厚朴の葉ハ柵の如く冬洞み春散き
葉を生一夏牡丹の如き花咲き実と
結ぶ又皮ハ茶品とせり

○たの部

笋

笋ハ竹叢に生ト其丈一尺位までの
ハの嫩うして食用にせり

蘿蔔

大根ハ四月頃種を畑に下し十月頃
曳て食用にせり

煙草

煙草の葉を取って乾く乾くこれと
刺し煙管に詰りて其烟を吸ふなり

鯛

鯛ハ海中に生る魚にしてその形ハ鯛の
如くして扁く潮を離ると赤色に
なる真なり

煙草入

煙草入ハ皮紙又ハ布帛にりて仕立
煙草と入りて用ひるもの
なり

薪

薪と諸木を伐り竈の下におへ焚
りのなり

竹

竹ハ苞木の一種にしてその類尤も多
くまき皮葉も用ひ方の多き
ものなり

玉細工

瑪瑙水貝かと玉を磨きたるを云

樽杓

樽杓ハ波材を取り酒樽に入ます
其波と去りたるものなり

大豆

大豆ハ夏種を下ぎ秋に至り小白花を
開き莢の中は実と結ば莢草にて
人取て豆腐と造り又ハ焙炒て食用
にせり

竹鞭

竹鞭ハ竹の根の長き所を取って造り馬
使役するものなり又學校教師の文字が
テ指示を為し用る物の竹を削りて割
り上し漆をのりたるものなり

鱈

鱈の頭大きく口も亦大く性寒と云
び夏に人捕て塩漬して遠く送
る其味の佳きものなり

章魚

章魚の其形も鳥賊に似て口大
く八本の足有り各疣多し煮ると赤
色に變り其味の脆く均きものなり

竹細工

竹を以て種々の器物と造るを竹細工
と云ふ

高機縞

機の上や機下機の二種有り上機
にて麻布及び綿を織り下機にて木
綿を織るものなり

豊縁

高麗縁倭縞縁があるも尋常の
縁と称するもの地合粗き紺の麻布
と云ふなり

瀧野鮎

瀧野の川所より製する鮎と云ふ

題目石

自處題目縁の文字を石面に刻せ
る石と云ふ

蕃椒

蕃椒の叢生して白小花を開きその
実の元筆頭の如く味は辛く色赤く
甚く観るべきものなり

當皈

當歸の春苗を生し其葉緑して
三斛有り九月頃蒔蘭に似る花咲
く葉草なり

○れの部

煉化石

煉化石の塊と灰を混合して練り電
子にて焼き西洋凡の家室と建築す
る為ニ用かるものなり

○その部

染物

白布と五色又は種々の色を染るもの
と云ふ染物と云ふ

れそ

象牙細工

象牙を以て種々の品目のごとく造りて

草履

草履の葉又ハ竹の皮より草履とつ
け足はくつりのをり

素麩

素麩の温飯煮へ差を混ぜ煮ゆ
細く切り竹をくけて乾し用かた
の煮て沫と去り汁を蒸して食ふ
りのをり

蕎麥

蕎麥の秋種と下等小白花と開き
実と結び其子界々として羊蹄の
実の如く三發より九月頃より東
て麩とをくりのをり

算盤

木の匡を造り一行ハ六より五まで
並べて算用とまゝ為のりのをり

漆物摸

漆物摸の厚き紙を流布と引き
々の模様と穿ちたるのをり

○つこの部

薯蕷

薯蕷の春苗と生し蔓を延し秋に
至り花咲き其根を掘り食用し
供とくりのをり

壺

重ハ土より造り上は種々の模様と記
し赤くかき焼き砂糖菓子を入
りて貯へおりのをり

土細工

土を以て人物鳥獸及び器物等を造
るを土細工とすりのをり

紬

綿の端の緒を引きて糸にして是を
以て織りたるりのをり

黄揚

黄揚ハ山野人家より多く四時
も花開き実も其性硬く
して印形をとり用たるりの
をり

椿油

椿油ハ椿の実とまろりて取りたる油なり

壺塩

壺塩ハ塩を小さき壺に盛て再び焼く所のなり浴は焼塩といふなり

硫黄木

硫黄木の木を薄く削り其上湯と硫黄と附して火をくわす為なり用はのなり

葛籠

葛籠ハ竹を薄く削りこれを編り形を造り上より紙を張り洗と引き衣類を仕舞ひく為なり用はのなり

○ねの部

根府川石

根府川石ハ其色黒赤くく庭石に用はるなり

葱

葱ハ葉田く中空く枝有り故に一文字より夏長冬短く其味も又酸きなり

練酒

練酒ハ味淋製の濃く尤も甘き酒なり

○なの部

菜

菜ハ其種類多し冬も春も常菜と称するもの冬種と下種と生種と春黄花と実と結ぶ菜ハ食用し実ハ搾りて燈油なり

茄子

茄子ハ細く作る瓜草なり夏も秋に至る迄藤色の花を開き実と結び食用はなるなり

鋳

鋳ハ銅鉄又ハ青銅を造り諸物と煮る為なり用はるなり

梨實

梨ハ三月頃白き花咲き其実ハ水気尤も多し甘き山果なり

納豆

納豆ハ大豆を煮て延へ擴げ糸を

ねを

炒てこれと交せ合せ糊りゆきせる
目のそり

鱒

鱒ハ池河ニ生ト其口大ク頭又大ク其
涎の黏り目のそり又流水ニ生るる目の
ハ色青白ク冷水ニ生るるハ其色青
く黄そり共ニ食用トス

鉛

鉛ハ山穴の石間ニ生ト其色銀の如
くニ軟き目のそり

斜子織

斜子織リ経緯同等ナリ糸を以て織
りたる目のそり

○らの部

蠟燭

燈心を以て真と造りんは蠟と
けし燈とつけり目のそり

落雁

落雁ハ糖と蒸しこれと引きく粉と
を砂糖とを型に入れて造り
たる

獵虎

獵虎ハ形も野猪の如く常は水に入
りて魚を喰ひ或ハ島に出で奔走を
疾きと飛ぶ如し又其毛ハ純黒
て甚と柔し帽などを造るりのそり

蠟

蠟ハ漆の木の實をとりて製する
りのそり

落地生

これハ豆の類し蔓ハ粗紗の如く中
ニ実を結ぶりのそり

○むの部

麥粉

麥粉ハ麦を臼して挽きて細末と
種々のりのそり造るりのそり

紫根

紫根ハ頭は白き毛ありて形も昔の
如し又花の咲く前ニ采まら其色
鮮明なれば花の時とまらて采る
ると其色黧悪し其まるとと石を
て壓扁り曝し且つ乾して輸出する
目のそり

夾葉人形

表の葉を紅く又か黄く染め人物を造りたるものなり

紫石

紫石の其色の紫紫色を以て名付たるものなり

紫漆

紫漆の紫草の根の煎汁を布帛に染め漆木の灰汁を浸すものなり

結鹿子

布帛を麻糸を以て模様を結びて染め後糸を去りたるものなり

室鰯

室鰯の鰯鰯を以て田く眼大なりかこは干物とせりものなり

紫土

紫土は其色を紫色を以て名づく

紫草

紫草は山野より又人家よりこれを種るとの苗の蘭香を以て草赤く

無名異

無名異は深山より根出するものなり其色赤黒く折傷と治するものなり

○うの部

團扇

團扇の細き丸竹の強半と削り糸を編り上より草花人物などを画と染り又残る丸竹の強半と削り之を以て爪と括き蚊又ハ蟻をくく退かすものなり

漆

漆の木は高さ二三丈其実ハ柿の如く其葉ハ椿の如く花ハ槐に似たり以木は釘を夫より漆の汁を取て漆を製するものなり

鰻

鰻の形は蛇の如き川魚なり其肉の鬚有り春ハ白く夏ハ黒く夏より秋に出るものなり其味ハ丸も佳きものなり

温鈍

温飽の塩水にて麦粉と揉ね小棒を以て之を挿擲が再び蒸して撞つて数回疊くて紐の如く又切り熱湯を投じ醤油汁と白熱を煮てこれを食す所のなり

雲丹

雲丹は北海道にて俗針子木や貝の肉を煮て干し置くなり又此貝の形より粟の味のかく其色の紫黒色なりとのなり

梅干

梅干は梅の実と蓋を二つつけられし紫蘇の葉を交すその色の赤くを待て日よかきかすとのなり

埋木細工

埋木を以て種々の品物を造るなり

畝織

畝織は其地合とされたり田の畝の如く織るなりとのなり

海獺

海獺の顔面は鹿に似て耳小く眼大し利牙あり背の毛は土器色なり

美しく腹大く尻やう尾の毛の如くゆきこれと交り鬃けり故に半身の毛は軟く半身の毛の如きとのなり

海素麵

海素麵は細く長く海中の岩に生ずる状も素麵の如く又其色の黄褐色なりとのなり

雲齊織

雲齊織は木と木綿糸にて細代の如く織りしるなり又その足袋の裏に附る所のなり

海茸

海茸は海中の岩石に生ずる其状は菌の如き所のなり

牛

牛は大きくて角あり能く人を助け其肉又その乳汁は滋養物なりとのなり

○の部

海苔

海苔は海岸に産するを建てこれ

よつと取て依の如く漉き乾て食用とん

野駟

牧場ニ馬と蕃殖するも為ニ畜ハク一所の馬と云ふなり

野半

野半ハ草より兔と薄く切りて干しするなり

○木の部

折敷

折敷ハ俗ニ蝶足膳と云ふなり

○くの部

黒木

黒木ハ俗ニ黒木と云ふなり其の葉は即ち鹿菜の類なり

葱姑

葱姑ハ池沼オの泥深き所ニ作ル木葉一して其根の塊を掘て食用とん

葛粉

葛草の根を掘り白く搗きしんと

水中よいと揉て粉を取り日干しするなり

櫛

櫛ハ木楊又ハ梅の木より造り髪ヲ梳ハスハ婦人の天頭ニ挿するなり

鯨尺

鯨尺ハ竹を製し目と威り布帛ハの長短と計るなり其長ハ曲尺の一尺二寸五分なるなり

串櫛

串櫛ハ櫛の皮と去りこれを數十竹串に貫通してかきしるなり

葛布

葛布ハ葛草の皮を解て布に織りしるなり

蕒

蕒ハ平林ニ多く生し其高さ六七尺り通し其枝ハ軟し其葉ハ如く其葉ハ紫梨ニ似て長一面青く背白く冬ハ凋み二月頃白花と開き実を結ぶ其華の好むなり

胡桃

胡桃ハ四月頃栗の如き花咲き秋
至て青桃の如き実を結ひ熟まじ
人取て皮肉を腐らしてその核とし
り又これを破て食用とし

履

履ハ獸皮を以てつくり足し
ものを

栗

栗ハ種生とて一其木ハ榛と類
六月頃胡桃の如き花咲き其実を
苞生し一々堀の毛の如き刺多く其実
熟すと皮剥折て地へ落ちるものを

串鮑

鮑と取り貝を去り之を竹串を貫て
乾し一々のものを串鮑といふ

瓜蒂

瓜蒂ハ甜瓜の蒂落て蔓の上には
のを取り瓜は乾して薬品として用

石腦油

石腦油ハ石同より出る油を
用ひ又製して油といふ

熊

熊ハその全体黒く胸の上は白き毛
あり俗これを月の輪といふ又冬は深
山に穴居し春夏は至る穴を離れ水泉
り其強壯なる諸獸も恐る所なり

鯨

鯨ハ海中の大魚一其状は鱈の如
く其色黒く鱗多し鼻の上の骨
高く頸の前は潮を吸く穴が口洞
下唇の上唇より多く齒骨筋業
皮は至るまで一として用とす
りのみ

繰綿

繰綿ハ綿の実をとり器槌を以
実を去りたる綿を云ふ

九万足

九万足の鱈を干したるものを
その状は鱈に似て頭田く尾小く
鱗細く大さ二三尺に至る海魚
なり

滑石

滑石ハ初うて取りたる石を
日と経たし益々硬くなりその色

白きものより尤も上品なり

○名の部

陶器 焼物

陶器の土を造りて造り上は草花人物
又ハ山水をとかき茶をくひ日ごと
焼く茶碗皿等を焼ていふなり

楊梅

楊梅ハ三種なり冬開き二月より
花と開き実と結ぶ六月頃より紅
く熟するものと上品なりその甘き
こと蜜の如し

又土

刀土ハ粘土なりこれを刀削がよぬり
て焼刀とつける為は用ゆる土なり

藥種

茶種ハ人の病を治せしむ功有り
草根木皮等の俗稱なり

柳の厚板

柳の木を厚く板は挽き削りたるもの
と云ふ

楊枝

楊枝ハ柳の木を以て製しうらもの
のハ歯牙と磨くは用ひ黒文字の
木を製しうらものハ食後を用ゆる
ものなり

柳行李

柳の枝と曝し麻糸を以て文庫の
如き状に編み造りたるものなり

○まの部

松茸

松茸ハ松の樹の蔭に生る采るは時を
撰て其味最佳きものなり

甜瓜

真栗瓜ハ六月頃黄き花と開き七八
月頃より其実熟し暑中これ
と食されハ煩熱と除き渴と止る
ものなり

饅頭

饅頭ハ麦粉を醗母と混ぜて擀り其
中に餡をこね蒸す食ふものなり

時繪

時繪ハ諸器物の上へ金銀箔等と
以て花鳥人物又ハ山水等の繪を漆

て浮きしうらうらやうは造りくる
りのなり

鱒

鱒ハ鱈に似て小く性善く餌を遊
と好て獨行するものなり

真綿

真綿ハ蚕の繭の糸をよめて
の製しるものなり

曲物

曲物ハ木を薄くへぎて曲くし櫻の
皮を燒し底と蓋と附けしるものなり

升

升ハ木と定寸の口を四角に造り
縁は鉄とあり又斜に角鉄と架
穀物或ハ派動物を量るものなり

○けの部

嬰粟子

嬰粟子ハ秋種て冬生け葉ハ白
莖の如く四五月より莖と抽て
青き莖と結び花開けハ苞脱し
三日過ると嬰粟子ハ莖の如く
生け

下駄

下駄ハ桐と竹と造り棒を藁を
嵌め鼻緒とを造りて雨中米柱の
為に足を入れるものなり

鑷

鑷ハ鋼鉄より造り毛髪及びびげ
おとりて為し用中りのなり

○ふの部

葡萄

葡萄ハ春花と開き其実秋
りて熟すと紫色色より水気
多く酸味を帯びて甘きものなり

鮒

鮒ハ其状も鯉に似て小く性荒と吹
くこと星の如く又泥を好む冬に至
まがらの味美なりものなり

葡萄石

葡萄石ハ青黒の斑点ある石なり

海豚

海豚ハ河海に多く状も鯨の如く
背青白く黄色なる條ありて鱗

けふ